

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

教授

教員氏名

小森 潔

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科に所属しており、主に日本語コミュニケーション能力育成に関する科目とキャリア形成の意識を高める科目を担当している。また、兼任担当教員として、総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科を対象とした日本語・日本文化関連科目も担当している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 社会人として必要な日本語運用能力の育成
- 2) 自らの進路を考えるキャリア意識の醸成
- 3) 現代社会の抱える諸問題について考察する力の養成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を達成するため、総合ビジネス・情報学科の「言語表現とコミュニケーション」、リベラルアーツ科目の「日本語コミュニケーション」では、社会人として必要な日本語運用能力の向上と仕事に不可欠な語彙力・読解力の向上を目標とし、話し合いの仕方、説明の仕方、発表の仕方、文書作成などについて実践的に学ぶトレーニングを繰り返し行っている。その際、グループワークでは友達同士のグループは作らず、ふだん交流のない人たちとも交流できるようなグループ分けをし、また「相互評価シート」も活用し、社会性を身に付けることができるよう工夫している。語彙力の向上については、毎回、漢字の読み書きの小テストを実施している。読解力の向上については、毎回、「読解力トレーニング（新聞記事・エッセイ・評論・公文書・ビジネス文書など）」を実施している。

総合ビジネス・情報学科の「プレゼミナール」では、自らの力で将来の進路を考えていくキャリア意識の醸成を目標とし、「働くって何?」「情報化社会とビジネス」「私の仕事」「コース別就職講座」「社会で活躍する卒業生に聞く」等々の具体的なテーマを設定している。

総合ビジネス・情報学科の「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、リベラルアーツ科目の「現代日本文化論」では、現代社会の抱える諸問題について考察する力の養成を目標とし、「狂言」「落語」「歌舞伎」などの伝統芸能や古くから受け継がれてきた日本の食や衣、日本独自の美意識を継承した現代の様々な表象文化を具体的に理解できるような授業実践を心がけている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度前期授業評価アンケートの設問9「総合的にみての授業に満足しましたか？」の結果は、「プレゼミナル」3.33、「言語表現とコミュニケーション」3.35（2クラスの平均）であり、学科全科目の平均値3.39に達しなかった。アクティブラーニングを重視した授業実践によって学生の主体的取り組みを促し、学生がさらなる能力向上を望むようになるよう工夫を重ねていきたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

学内で開催されるFD研修には必ず参加している。また、授業公開・見学にも積極的に参加し、自己研鑽に努めている。教員個人としては、教務課から返却される授業評価アンケートの結果を精査し、その期の授業について反省している。また、日本語系の科目については独自の授業評価アンケートを実施し、授業改善の一助としている。次年度のシラバス作成の際には授業時における学生の反応も参考にしながら、新たな知見を取り入れたシラバスとなるよう心がけている。今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I 短期的目標

- 1) 学生の主体的な学びにつなげる事前・事後学修の検討
- 2) 学生が主体的に取り組める学習教材の開発
- 3) 仕事に本当に必要な日本語運用能力についての検討（企業からも意見を聴取）

II 中・長期的な目標

社会人として必要な日本語運用能力を確実に身に付けた学生の養成を目標に、アクティブラーニングを重視した授業実践によって学生の主体的取り組みを促し、学生がさらなる能力向上を望むようになるよう工夫を重ねていきたい。また、社会の様々な事象に関心を持ち、自ら考え、その考えを表現し実行できる人材の育成を目指したい。

■前期取組

《月曜・3限 22547002 [言語表現とコミュニケーション] 小森 潔》

「一番最初に自己紹介をした際は緊張で声が震えてしまったり、言いたいことが飛んでしまったりしていたのですが、だんだん人前に出るのに慣れ、今では落ち着いた発表をすることができていると思います。面接や実際に働いた時に人前で喋る時など、実際に体験しないと身につかない力がどんどんついていっているような気がして楽しみながら授業に取り組んでいます（自由記述より）」という回答が示すように、個々の学生に自分に必要な目標を設定させたことで、主体的に課題に取り組む学生が増えた。また、できるだけ具体的かつ今日的な題材を扱ったのもよかったと思う。発表の際に相互評価を取り入れたことも、学生が真剣に課題に取り組む要因になったと考える。

■前期改善

《火曜・2限 22509501 [プレゼミナル] 小森 潔》

出席状況や授業自体への取り組みはさほど悪くないのだが、予習・復習にしっかり取り組んだ学生が極めて少ない。ただ聞いているだけという学生も結構多かったのではないかとと思われる。「プレゼミナル」は、大学での学びの導入となるトレーニングであり、また就業意識の向上を目標としているので、予習・復習にしっかり取り組み自己の学修の振り返りができるような課題を毎回設定する必要がある。次年度に向けて、学科教員全員で具体的な予習課題・復習課題を検討する。

■後期取組

《火曜日・2時限 22510101 [ゼミナルI] 小森 潔》

アンケート結果は、設問1（出席状況）4.00、設問5（授業の進行の速さ）3.94、設問6（授業資料）3.94、設問8（教え方）3.94、設問9（総合的満足度）3.88と良好。他も、設問2（予習・復習）を除いて学科平均値を上回った。「学生の興味をひく題材の活用」、「映像資料の効果的な活用」、「目標を具体的に設定して学習の結果が明確になるよう工夫したグループワーク」、「個人発表における相互評価」等がうまく機能したと考えられる。ただ、設問2（予習・復習）が1.59 [学科平均値2.07] であり、この点については今後の改善が必要と考える。主体的に予習・復習に取り組める課題を工夫したい。

《火曜・3限 31LA7001 [日本語コミュニケーション] 小森 潔》

1年次の「日本語リテラシーI・II」の成績がA以上である者に限るという履修条件を設定し、人数も20名までとして、高度な内容の授業を展開し、コミュニケーション能力の向上を目指したが、アンケート結果は予想したレベルには達しなかった。特に、設問1（出席状況）、設問7（オンライン授業における情報システムの有効活用）がリベラルアーツ科目の全体の平均値を下回ったことについては、次年度以降の改善が必要と考える。個々の学生に具体的な個人目標を設定させ、自分の力が向上していることを理解させつつ授業を進行していきたい。また、就職後に役立つ日本語能力の向上という観点から、受講生が積極的に予習・復習に取り組める課題を工夫したい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510601	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	1年	22547001	言語表現とコミュニケーション
前期	総合ビジネス・情報	1年	22547002	言語表現とコミュニケーション
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2年	25LA4401	現代日本文化論
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	2年	25LA4402	現代日本文化論
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510101	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511101	ゼミナールⅢ
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2年	25LA4403	現代日本文化論
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2年	25LA4404	現代日本文化論
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2年	31LA7001	日本語コミュニケーション
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	2年	31LA7002	日本語コミュニケーション

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

教授

教員氏名

内海 太祐

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にシステム開発に関する授業を担当している。2021年度の担当科目は、別記のとおりである。

最近のDX化の進展や、それに合わせた初等・中等教育でのプログラミング教育の導入に対応して、本学の情報教育を学生の生きる力とするための教育にするよう心掛けている。

「プログラミング基礎演習」では、プログラミングを学んだことのない学生がプログラミングすることの楽しさを感じられるようにすることを目指している。

「Linux」では、サーバ構築を学ぶことで、インターネットの仕組みを理解できるようにすることを目指している。

「IoT」ではモノにプログラミングを組み込み、それをインターネットに接続したり、AI機能を追加することで、様々なものがネットに接続する社会の仕組みを理解できるようになることを目指している。

私の教育の責任は、これらの情報教育を通じて、激変する社会に対応できる見識とスキルを身に着けさせることで、新しい社会の一端を担う人財を育てることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は本学の教育活動において、学生の自立を促すため、次の点を重視している。

- 1) 受動的に覚えるのではなく、自分の頭で考えるように促すこと。
今後大きく変わる社会の中では、大事なものは定型的な作業をこなすことではない。自ら置かれている環境の中で、疑問や矛盾を見つけながら、それをいかに解決するかが重要であり、そのためには自立した意思を持つことが大事である。
- 2) 受動的に聞くのではなく、自分の考えを表現できるように促すこと。
知識をインプットすることを学修だと考えるのではなく、自分なりのアウトプットをするためのインプットが必要だという考え方を持たせることが重要であると考えている。専門知識は、専門性を持った職業を持った人たちとのコミュニケーションをとるために重要なものであって、知識を蒐集することが目的ではないことを理解してもらいたい。
- 3) 受動的に決めてもらうのを待つのではなく、自分で決断して実行できるように促すこと。
仕事や人生を進めていくうえで、大小さまざまな岐路がある。どのルートを選ぶかに正解はないが、それに対して自分なりの答えを持ち、自分で選択できるようにすることが重要であると考えている。
- 4) 事実を教えるだけでなく、関係性を理解させること。
知識を植え付けるという側面は、教育の一つの側面として必ずあるが、知識がインターネットにあふれた時代では、正しい知識体系を自分の中に形成するための方法をしらせること、その環境を作り、成長を促すことの方がより重要となると考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考え方を実現するために、基本的には毎回の授業の後にレポートを書かせ、それに対してフィードバックをかけるようにしている。レポートを書かせ、フィードバックをかけることにより、学生は自分の考えを客観化することになる。また、他の人に自分のやったことを伝えるための訓練をすることになるし、教員からのフィードバックによって、何が足りていないのかに気づくことができる。

完全にできるわけではないが、フィードバックをかけることが重要であるので、レポートの祭典だけではなく、いろいろな方法で学生とはコミュニケーションをとり、自分の考え方を客観視することで、より幅広い視野を身に着けることができるようになる。

今年度は時間的な制約により、毎週リアルタイムでのフィードバックがかけられないこともあるが、その場合は次の授業時に学生に口頭でコミュニケーションをとることでフィードバックする場合もあった。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度のプログラミング基礎演習の授業評価アンケートの結果は厳しいものだったが、今年度からC言語からPythonに使用言語を変更したことで、レベル感の調整がうまくいかなかったことも問題であると考えられる。2022年度は、テキストもよりわかりやすいものに変更し、課題の設定もやや簡易的なものにする。また、グラフィックを使用した課題に変更することにより、プログラミングの楽しさを実感できるものに変更することで、目的である、「プログラミングの楽しさを伝えること」を実現したいと考えている。

ゼミナールについては、コロナ禍でなかなか学生との強い信頼関係を結ぶことはできなかったが、1年生のゼミでは初めの時点で信頼関係を結べるようにコミュニケーションをとることで、オンラインになってもゼミ全体でまとまれるようになってきている。今後はオンラインでも信頼感のあるコミュニティを形成できるようにしていきたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

I. 短期目標

- 1) 2020年度に導入したプロジェクト実践の授業は、まだ第1期の学生が修了した。有意義な授業であると確信しているが、一方でまだまだ課題も多い。
- 2) 知識を得るための授業についてはできる限りオンライン化、オンデマンド化したり、外部リソースを使用する方向にしていく必要がある。しかし、受講者間の一体感がかけてしまうと授業運営はうまくいかないなので、一体感を損なわない授業を模索したい。

II.) 長期目標

- 1) プロジェクト実践のプロジェクトを、より社会とつながりのあるものとする。
- 2) 学内で使用できる、オンライン、オンデマンドのコンテンツを増やし、学生が必要に応じてそれらのコンテンツにアクセスできるようにする。
- 3) 企業や他大学、地域とのつながりを持った授業を構築していく。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510602	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	1年	28501001	プログラミング基礎演習
前期	総合ビジネス・情報	2年	28562501	Linux
前期	総合ビジネス・情報	1年	R2578501	プロジェクト実践Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2年	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510102	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511102	ゼミナールⅢ
後期	就業力育成(総合)	1年	26BU0207	キャリアベーシック(SPI)
後期	総合ビジネス・情報	2年	R2567501	IoT
後期	総合ビジネス・情報	1年	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2年	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

教授

教員氏名

高野瀬 一晃

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学の総合ビジネス・情報学科の教員として「経営リーダーの知恵に学ぶ」を担当している。これまでの実務経験を活かし、学生達に世界のトップ経営者が自ら語った言葉やその生き様を知ってもらい、彼らの組織リーダーとしての知恵を学ぶことで、自分達の将来の生活やビジネスに活かすことを目的としている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

ドイツの宰相ビスマルクの「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」という言葉は、大学に於いて何故に古今東西の知恵の集大成である「学問」を修めることが重要かを表していると思う。このことは、実学を旨とする本学の教育理念「社会でほんとうに役立つ人材を育てる」とも合致しており、私の教育に対する考えの原点でもある。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私の90分×15回の授業（B学科一年生後期）では、学生達にとって馴染みのある製品やサービスを創り出した古今東西のトップ経営者を毎回一人ずつ取り上げて、その生い立ちから失敗・挫折も含めたビジネス人生を<偉人伝>的に俯瞰し、彼らがどの様にして最終的な成功や成果を勝ち取ったかを彼等の残した言葉や映像を通して追体験して学んでもらう。学生達には、毎回の授業に先立って、当該トップ経営者とその企業・製品等に関する下調べをレポートの形で授業の前日までに提出してもらうことで、授業への入り込みを容易くする工夫をしている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

最終回（15回目）の授業では、それぞれの学生がそれまでに世界のトップ経営者から学んだ知恵の中から5つを選んで、自分の今後の人生にどの様に活かして行くかをPPTを使って発表してもらおう。最終授業には、B学科の学科長と教員だけでなく、他学科の教員や職員も含めてオープン参加してもらい、学生の発表内容に対するフィードバックを頂くことで、学生達の本授業で学んだことをより深く刷り込んでもらおう。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育コンテンツは常にその「鮮度管理」が重要である。従って、取り上げるトップ経営者の顔ぶれも、時代と共に入れ替え戦を含めて行っていく。と同時に、プレゼン資料の中身も常にアップデートしていく。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

学生達から毎回提出される事前調査レポート

関連リンク・別途資料

<https://drive.google.com/open?id=16FBLMouf92lwtmJrigXHUA9-0h9SmwU>
<https://drive.google.com/open?id=1806xCfC1zN44iUMiZvyOV386xAqmonxc>
<https://drive.google.com/open?id=1GF-LaT5TL2ob-ofJQVo4tNY6jMbeMDec>
<https://drive.google.com/open?id=1HKU619H-mswBXQmQNsuVvTmFZXkNJseq>
<https://drive.google.com/open?id=1xD0IsTVtly8BEiodEwx4N7SP8pcEinon>
<https://drive.google.com/open?id=1ME6VgsVt1a-ucPeXFpSdafk0-trBbbdy>
<https://drive.google.com/open?id=1yQIQzs7moamRtZb-AknMMkHrJhNOyROZ>
<https://drive.google.com/open?id=1bPnu9duXvMIDK2O6SuN-8qwf4PyOyZdC>
https://drive.google.com/open?id=1HX1T-nFoLQZDIFt93cyvWa7i_1cZAKpC
https://drive.google.com/open?id=1Vr58GC24JBHzY_x9GUyG_JEGMlb2no28

特記事項

取り上げたトップ経営者（一部政治家）の事前調査レポートの本の一部をアップした。

7. 担当授業一覧

後期 総合ビジネス・情報 1年 R2580501 経営リーダーの知恵に学ぶ

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

教授

教員氏名

飯塚 順一

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にコミュニケーション論、社会心理学に関する授業を担当している。
2022年度の担当科目は、別記のとおりである。
私は、将来、幅広い業種・職種に就く多くの学生達が、どのような人的環境においても周囲を上手く巻き込みながら、乗り越えていくことができる対応力の育成に力を注いでいる。
「現代社会コミュニケーション論」では、コミュニケーションを軸に社会の諸問題を考察することで、思考力と知識の双方の習得を目指している。
「組織心理学」は、日常生活における対人心理を分析することで、難しい局面でも自分で解決できる力の習得と目標としている。
また、キャリア教育センター長として、就業力育成、インターンシップ、キャリアサポートの3要素の連携を効果的に機能させ、学生の総合的キャリア支援につながるよう、務めている。
最優先する私の教育の責任は、学生と向き合うことであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私が最も重視していることは、“学生に考えさせること”である。学生は「どうしたらいいか、教えてください」という姿勢になりがちで、具体的な指示を与えられれば、従順に言われたとおりに対応するため、指示待ち人間になってしまう。

こうしたことを避けるため、私が実行しているのは、“学生に考えさせ、判断させ、実行させること”である。通常の授業は当然ながら、インターンシップから健康管理面での連絡に至るまで、事前に学習した内容に関する学生からの確認に対しては「最初に〇〇をやり、次は〇〇で、最後に〇〇をやりなさい」という指示型ではなく、「まず、自分で考え、判断し、”〇〇と〇〇で行いますので、何かあればご指示ください」という確認の連絡をしなさい」という指導を行っている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、本学の教育の理念に基づき、次のような工夫を行っている。

- 1) 「現代社会コミュニケーション」では、現代社会の諸問題を分析し、その根底にある社会構造や労働環境、また人間の意識等、複合的に考える力を醸成することを目的に、グループワークによるディスカッションを重視している。
- 2) 「組織心理学」では、日常では見落としがちな概念や一人で思い悩みがちなことに目を向け、認識を改め、学生がより向きな気持ちで生きていけることにつながるよう、意識して指導を行っている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の授業評価アンケートでは、新しさや教員の熱意に関する項目で高いスコアを得ていることから、今後も当初の設定テーマ以外にも時事問題等を多く取り入れ、教員自身の経験も交えて取り組みたいと考えている。
学生支援については、インターンシップに関する取り組みや就職支援での評価が成果として挙げられる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

私の教育に関する短期目標と長期目標は以下のとおりである。

I. 短期目標

学科専門科目以外に、就業力育成科目、インターンシップ科目において、オンデマンド型、2年生が1年生を指導するPBL型の教育を展開する。

II. 長期目標

就業力育成科目とインターンシップ科目、さらには学科専門科目との連携を図り、重複を避ける内容の整理を進める一方で、繰り返しが必要な要素については、あえて重複させて知識やスキルの定着を図る。

■前期取組

《水曜日・2時限 22510603 [ゼミナールⅡ] 飯塚 順一》

ゼミナールのテーマであるコミュニケーション理論を各学生が就職活動へ活用する

■前期改善

《月曜・4限 26545501 [現代社会コミュニケーション論] 飯塚 順一》

ダイバーシティ等に関する学生の関心が想像以上に低く、現代社会の諸問題について、四大生は進んでディスカッションするが、湘北生は“考えてもしょうがない”という傾向が強く、それよりも資格取得に気持ちが向いている。この学生の志向の幅を広げることが課題として残っている。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510603	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2年	26545501	現代社会コミュニケーション論
前期	総合ビジネス・情報	2年	26545502	現代社会コミュニケーション論
前期	就業力育成(総合)	1年	26BU0101	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(総合)	1年	26BU0102	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(総合)	1年	26BU0103	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(総合)	1年	26BU0104	キャリアリテラシー(社会人基礎)
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510104	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511103	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2年	23546502	組織心理学
後期	総合ビジネス・情報	2年	23546503	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0201	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0401	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0501	インターンシップリテラシー

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

教授

教員氏名

小棹 理子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科に所属しており、初年次科目としての性格を持つ情報系の基礎科目群、ならびに、これからのICT社会で仕事を行うために必要な、データを読み解き問題の解決策を導く方法論を修得するための科目を担当している。

また、現代社会で活躍する知識人に必要な教養を身に着けるためさせるため、重要な問題である「持続可能性 (sustainability)」や国民性を表現するファッションなどをテーマとして調査し、深く考えてまとめ、結果を発表する場となるリベラルアーツの科目も担当している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私の教育理念は次の3点である：

- ①学生自ら考え、自分で答えを導きだす方法論の修得
- ②スキルの取得のために必要な自主練習の促進
- ③現代社会における問題を深く考える知的好奇心の喚起

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上記の教育理念を実現するための一本の柱が”asking the right questions “である。

そのため、担当する科目ではすべてアクティブラーニングを取り入れている。データの分析から問題解決を行う「データ活用」や「オペレーションズリサーチ」はICT社会において重要な科目となるが、授業の内容の理解を深めスキルを身に付けさせるための課題(リフレクションペーパー)を課し、それらの評価とコメントのフィードバックを行うことで双方向性を確保している。

情報活用の入門的な科目である「湘北スタートアップセミナー（SSS）」と「情報リテラシー」、ならびにリベラルアーツ科目である「社会と環境」と「ファッション文化論」では、基本的な知識とスキルの習得のみならず、グループでテーマ(問題)を設定し、調査やディスカッションを経て解決案のプレゼンテーションを行うワークを取り入れている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

PCを活用する授業では、コロナ禍の2020年前期よりいち早くオンライン授業を取り入れ、21年度も活用した。PC活用授業は受講生から敬遠されがちであるが、60名ほどの学生が選択履修した。多様なレベルの学生への対応が今後の課題である。

学生支援に関しては、さまざまな問題を抱えたゼミ生が多かったが、ていねいな個別面談を行い、各自の問題に対処したことによって2名が復学したことが良かった。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

学内だけでなく、教育工学会のFD研修や大学教育学会のラウンドテーブルにも積極的に参加し、最新の教育事情や手法を取り入れた授業を展開している。とくに昨年度は、情報教育の研究会メンバーでリメディアル教材を作成するためのテストを作成し、テスト結果をもとに、リメディアルコンテンツとしての動画を作成した。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである：

①短期目標

1. 自ら考え、答えを導き出すための「asking the right questions」のさらなるブラッシュアップ
2. スキル取得のためのオンライン授業の確立

②中・長期的な目標

学生自ら深く考え、スキルを取得し、答えを導き出す力を修得するには2年間だけではなく、4~5年間かけて広義の教養を身に着けることが必要と考える。後期中等教育の段階まで一歩踏み込んだシステムづくりも含めてこれからのICT社会で活躍するための教育カリキュラムを構築したい。

■後期取組

《月曜・2限 28519001 [オペレーションズリサーチ] 小棹 理子》
授業録画を毎回eラーニングサイトに掲載したこと

《火曜・4限 31LA7501 [ファッション文化論] 小棹 理子》
人数を制限し、実務家の具体的な内容を取り入れたこと

《水曜・3限 31518001 [VBA実践] 小棹 理子》
Excel応用科目は受講生のレベルが2極化しているため、レベル分けが必要になる

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

(6)に関して：すべてE-ラーニングサイトにアップロードしてあります。
(7)に関して：「社会と環境」の内容は湘北紀要43号に掲載します。

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510604	ゼミナールⅡ
前期	リベラルアーツ(総合)	1年	22LA0401	情報リテラシー
前期	リベラルアーツ(総合)	1年	22LA0403	情報リテラシー
前期	リベラルアーツ(総合)	1年	22LA0601	情報リテラシー演習A
前期	リベラルアーツ(総合)	1年	22LA0603	情報リテラシー演習A
前期	総合ビジネス・情報	2年	28574001	データ活用
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510103	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511104	ゼミナールⅢ
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	年	22LA2601	社会と環境
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	年	22LA2602	社会と環境
後期	総合ビジネス・情報	2年	28519001	オペレーションズリサーチ
後期	総合ビジネス・情報	2年	31518001	VBA実践
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	年	31LA7501	ファッション文化論

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

教授

教員氏名

山形 俊之

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は総合ビジネス・情報学科の教員として主に英語科目と観光関連科目を担当している。国際理解科目科目では、TOEIC Listening and Readingテストの対策授業を担当し、各学生のスコアアップの実現を目標にしている。保育学科の「英語」では、将来就職する幼稚園や保育園で外国人の生徒や保護者に対応できる表現を多く身につけることを目標としている。

観光関連科目では国家資格「国内旅行業務取扱管理者」試験対策の授業を担当し、鉄道、観光バス、宿泊施設などの約款や料金・運賃計算について効率よく学び、試験に合格できるようにすることを目標にしている。

課外活動では入職以来、国際交流委員会顧問として学生指導を行っている。学生にはPDCAサイクルに基づく企画運営を身につけさせるほか、社会人としてのマナーや考え方を実践的に学ぶことができるよう努めている。活動全体を通じて人間力を高めるトレーニングになるような場を提供することを心がけている

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私が本学での教育活動において重視していることは、以下の4点である

- (1) 国際理解教育の諸活動を通じて、学生がコミュニケーション力、企画実践力、多様性に対する理解力といった人間力を向上できるようにすること
- (2) 学生が、英語学習や国際交流活動を通じて、外国事情に関心を持ち、異文化に対する理解を深めること
- (3) 学生が英語を「ツール」として利用できるようになること
- (4) 学生が、自ら学びを楽しみ、学ぶための行動ができるようになること

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は教育の理念を実現するために、以下の方法を実践している。

①授業においては、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、実践的なトレーニングの場を多く用意している。これにより英語をツールとして使用する状況を体験学習させることが可能となる。特に音読(スピーキング)に重点を置き、「英語を英語のまま理解する力」の向上を実践する。これによりリスニング力やリーディング力も並行して向上させることができる。また、反転授業の実践やアプリを活用した教材を使用することにより、「楽しみながら学ぶ」環境づくりを心掛けている。

②TOEIC L&Rテスト対策授業では、学生個人のスコアカウンセリングシートを作成し、個別指導を中心とした授業を展開している。またグループワークを行うことで学生自身が自らの弱点を明らかにし、その強化を自らの課題として認識することができるように指導している。また、反復学習により学生が弱点を克服できるように指導している。

③国際交流で学生が実施する活動は、すべてPDCAサイクルを意識させ、社会人と同じように企画実施ができるように指導している。企画そのものも学生にとって非常に責任が重く、時間も労力もかかるものばかりである。それを自ら率先して実施できるようになるには、非常に密な指導が必要となる。この指導はOJTに近いものである。リーダーが選出された時点でリーダー教育を実施し、毎週の定例会を含む一つ一つの企画に企画書や報告書を作成することを徹底し、実施させる。同時に、2年生全体にも指導的立場を意識させることで、リーダー・2年生・1年生という指導ラインを確立させる。そのあとは個々の企画の準備段階から学生とともに行動し、その都度指導をすることで、学生に気づきを与え、企画をより良いものにするための行動を促すようにしている。前期中にFace to Faceのトレーニングをすることで、後期には学生自身が自ら考え、行動できる環境を作っている。

④授業や課外活動といった国際理解教育活動を通じて、学生は留学生とのコミュニケーションや留学中の現地でのコミュニケーションの中で英語をツールとして使用する。そのような実践的な状況の中で学んだ表現は、授業で学んだものよりも定着する。そのため、学生がコミュニケーションをとっているところに赴き、（感覚的には）「そっと教える」ようなサポートするようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

TOEIC L&Rテスト対策を講じた「ゼミナール」では、23名中14名（61%）が400～495点、5名（22%）が500～595点、2名（9%）が600点以上を取得した。そして1年半の学習の結果、平均190点のスコア向上がみられた。コロナ禍によりグループワークが実施できなかったため今一つの結果となってしまったが、個人指導と反復学習によってこのスコア向上がみられたのは一つの成果として考えられる。授業評価アンケートから、70%以上の学生が30分以上の復習を行っていること、そして90%以上の学生が積極的に授業に取り組んだと回答していることから明らかであろう。

保育学科の「英語」授業内で3回ほどプレイスメントテストとして活用しているTOEIC Bridge L&Rテストの対策を行った（1回につき15分程度。）その結果、ひとクラスは30名中22名にスコア向上がみられ、もうひとクラスも29名中22名にスコア向上がみられた。特にリーディングの話を中心にしたクラスのほうがスコア向上が大きかったことから、授業内の丁寧な本文訳読や語彙・文法学習に加え、テスト対策としてスキミングなどを経験させたことが語学力向上につながったものと思われる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善に向けて、以下のことを実践している

- ①学内で開催されているFD活動には欠かさず参加し、授業公開の際には先生方の授業法のいいところを積極的に自分の授業に取り入れている。
- ②ICT機器を活用した教育手法に関するセミナーに参加し、自らの授業に取り入れる。
- ③TOEIC L&Rテスト指導者向けの講座には必ず出席することで、TOEICスコアアップ講師としての知見を深めるように努力している。また、多くの指導者との情報交換を経て得た知見は自らの授業にも取り入れている。オンライン授業でのスイッチャーの導入や、スコアカウンセリングシートはそれによるものである。また、IIBCのセミナーにも積極的に参加し、他大学の事例研究も行っている。
- ④「国内旅行業務取扱管理者」資格対策授業に関しても、JTB総合研究所主催のセミナーや勉強会に参加し、知見を深めるほか、他大学で教鞭をとる教員との情報交換を行い、より効果的な授業が展開できるように自己研鑽に努めている。

また今後の目標については以下のとおりである。

短期的な目標としては、

- ①TOEIC L&Rテスト資格対策授業において、授業の目標点数取得者を100%にすること（「TOEIC(初級)」「ゼミナールⅠ」：400点、「TOEIC(中級)」「ゼミナールⅡ」：500点、「ゼミナールⅢ」：550点）
- ②「国内旅行業務取扱管理者」合格者を受験者の50%にすること。この実現に向けて、非常勤講師との連携により授業内容の精査を常に行っていく。
- ③TOEIC L&Rテスト対策の動画教材を作成し、反復授業を授業に取り入れることと、TOEIC Bridge L&Rテストオリジナル教材を作成することである。これはアプリとして開発できるようにして、本学学生なら自由にアクセスできるようなシステムにしたい。また、目標スコア別に問題を配置することにより、個々の学生の目標達成に資するものにできればと考えている。

中期的な目標としては、スコアアップカウンセリングシートの自動化を進めたい。これによりカウンセリングにかかる時間をより多くとることができると考えられるためである。

国際交流活動に関しては、各プログラムの内容を精査し、本学学生の国際理解力向上に資するプログラムを多く実現したい。また、Newcastle大学以外の海外の大学生と活動を通じてコミュニケーションができる場を用意し、学生の異文化理解に資するプログラムを実施したい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510605	ゼミナールⅡ
前期	国際理解(総合)	2年	30GC5001	TOEIC(初級)B
前期	国際理解(総合・生活)	2年	30GC5101	TOEIC(中級)
前期	国際理解(総合)	1年	31GC3001	イングリッシュ・グラマー
前期	総合ビジネス・情報	1年	R2581001	国内旅行実務
通年	国際理解(保育)	1年	26GC1001	英語
通年	国際理解(保育)	1年	26GC1002	英語
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510105	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511105	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2年	31552001	CALL演習
後期	総合ビジネス・情報	1年	31552002	CALL演習(留)
後期	国際理解(総合・生活)	2年	31GC5201	TOEIC(ブラッシュアップ)
前期(集中)	国際理解(全学科)	年	26GC6001	海外英語研修

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

准教授

教員氏名

石崎 琢也

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にビジネスや経営学に関わる授業を担当している。2020年度の担当科目は、別記のとおりである。これらの科目を通じて、私は総合ビジネス・情報学科の学生がビジネスパーソンとして現場で役に立つ知識を修得できるよう指導している。

「ビジネス社会の基礎Ⅰ」では、会社のしくみや形態、制度といったビジネス上のルールやしくみや構造に関する知識の修得を目指している。

「ビジネス社会の基礎Ⅱ」では、ビジネス上のルールやしくみのもとで個々の会社がどのように行動しているのか、会社の行動を規定する戦略に関する知識習得を目指している。

「現代ビジネス事情」では、企業の経営戦略に焦点を当て、現代のビジネス事情を深く理解することを目標にしている。

「インターンシップリテラシー」では、インターンシップ（現場実習）で必要となる知識と行動力の修得を目指している。

「ゼミナールⅠ」では、企業によるイノベーションやマネジメントに関する知識修得を目指している。

「ゼミナールⅡ」では、これまで学んだビジネス知識の定着と強化を目的にビジネス能力検定2級合格を目指している。

「ゼミナールⅢ」では、ビジネスをテーマとした論文執筆を通じて考察力、表現力、論理力の強化を目指している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

(1) 体系的知識の獲得

ビジネスに関連するあらゆる知識は、ビジネスパーソンとして活動していくうえでの土台となる。その土台がより強固で広がりを持つためには、知識が体系的に整理されなおかつ定着していることが大切である。

(2) 主体性

知識は発揮されて初めて意味を持つ。そのためには自らの意思や判断に基づいた意欲的な行動が不可欠である。

(3) 論理力

論理的思考力をベースとして、論理的に読み、書き、話すことは、自らの行動に一貫性を生み出すとともに、周囲の納得しや行動をも生み出す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

（1）体系的知識の獲得

「ビジネス社会の基礎Ⅰ」「ビジネス社会の基礎Ⅱ」「現代ビジネス事情」といった一連の科目では、常にそれぞれの科目間のつながりや位置づけを提示し、相互補完関係にあるよう内容を調整している。

（2）主体性

学生が自らの意思や判断に基づいて行動できるようになることが目標である。そのためまずは全ての担当科目で、主体性の第一歩となる「自発的な発言」を奨励している。

（3）論理力

「ビジネス社会の基礎Ⅰ」「ビジネス社会の基礎Ⅱ」「ゼミナールⅢ」といった科目では、意識的に長文のレポート執筆、卒業論文執筆、プレゼンテーションを課し、論理的思考力の獲得を目指している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生による授業評価アンケート結果は、「Q6教員の提示した授業資料・ビデオ・パワーポイント」について、全16科目/クラスのうち11科目/クラスが2020年度の結果を上回る好結果であった。これは昨年度に比べ、提示資料を刷新したことや提供資料の選択肢/種類を増やしたこと（Word版とPDF版の用意）が改善策として学生から好評であったと考える。今後も地道な改良を加え続けたい。

一方、授業の予習・復習に関しては低調であった。今後はより明確な予習・復習課題の提示を通じて、向上させたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

授業全般について、学生のニーズを満たすとともに、学力向上につながるように授業内容、配布資料、ティーチングスタイルなどを適宜アップデートしていきたい。

■前期取組

《火曜・3限 23507003 [ビジネス社会の基礎Ⅰ] 石崎 琢也》

■後期取組

《水曜・3限 23507504 [ビジネス社会の基礎Ⅱ] 石崎 琢也》

講義での伝達内容、分量を吟味し、さらにパワーポイント画面や黒板を見る学生の表情、手元を注意深く観察することによって、授業進度を適切なスピードとなるようコントロールした。

《木曜・1限 23507502 [ビジネス社会の基礎Ⅱ] 石崎 琢也》

学生のグループワークの様子をより注意深く観察し、適宜介入・指導する必要性を感じた。このクラスにおいては、一部学生のフリーライドにより不満が生まれ、グループ発表の質にも問題も生じた。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510606	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	1年	23507001	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1年	23507002	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1年	23507003	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1年	23507004	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1年	23507005	ビジネス社会の基礎Ⅰ(留)
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510107	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511106	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22515001	現代ビジネス事情
後期	総合ビジネス・情報	1年	23507501	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1年	23507502	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1年	23507503	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1年	23507504	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1年	23507505	ビジネス社会の基礎Ⅱ(留)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0202	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0209	春季インターンシップ(長期)(留)後期
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0402	春季インターンシップ(短期)後期
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0409	春季インターンシップ(短期)(留)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0502	インターンシップリテラシー
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0509	インターンシップリテラシー(留)

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

准教授

教員氏名

加藤 美樹雄

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に簿記、FP、インターンシップに関する授業を担当している。2021年度の担当科目は、別記の通りである。

簿記は、将来事務職を目指す総合ビジネス・情報学科の学生が、会社の資金の流れを理解するために重要であることから、日商簿記検定3級以上の検定取得ができるように指導している。

「商業簿記Ⅰ，Ⅱ」では、授業を履修することによって、日商簿記検定3級を取得する力が身につくことを目標としている。

「上級簿記」では、授業を履修することによって、日商簿記検定2級を取得する力が身につくことを目標としている。

「FP基礎論」では、授業を履修することによって、3級FP技能検定を取得する力が身につくことを目標としている。

「インターンシップリテラシー」では、授業を履修することによって、社会人基礎力を身につけることができることを目標としている。

また、課外活動では、バレーボールサークルの顧問として、チームワークの育成を目指して活動している。課外活動の指導においては、学生の積極的な活動を推進するように努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生の自立を目指し、成長を支えることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 学生の目標設定について助言し、その達成に向けて、日々粘り強く指導すること。

学生たちには、目標の到達点やそこまでの道のりをわかりやすくすることが重要であることから、具体的な学習計画などを見える化していくことが重要と考える。

2) 簿記やFPの専門知識の修得と共に、コミュニケーション能力を身に付けること。

コミュニケーション能力の育成は、社会人として重要である。これを専門知識とともに身につけることで、学生は自信に繋がり、より多くの場面でコミュニケーションが取れるようになると思う。

3) 課外活動を通じて、チームワークと常に相手を思いやる力を身に付ける。

課外活動は、バレーボールというスポーツを通じて、仲間と協調する力が身につく、またボールをつなぐという点で、相手を思いやる気持ちが育成されることになる。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育の理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1) 「初級簿記Ⅰ,Ⅱ」では、会社の経理の基礎的な力を育み、日々の記録から決算書の作成ができるよう、記帳練習を主に指導している。

授業では、検定試験の目標を設定し、学生の学習意欲を伸ばすようにしている。

2) 「FP基礎論」では、個人の資産設計に関する知識だけでなく、検定取得という目標を設定することで、FPに関する理解が深まるよう工夫している。学生が、自主的に演習問題を解く機会を大切にしている。

3) 前年度の授業では、学生の予習復習に関する時間が短かったことから、本年度の授業では、自宅での予習復習時間を充実させるように課題等を設定することとした。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生による授業評価アンケート結果は、目標が明確でわかりやすく、計画を立てて学習しやすいとの評価が多くあった。これは、検定試験の受験日から逆算して、学生に学習計画を明確に示したことが、アンケート結果の向上につながったと考える。また、ICTの活用については、オンライン授業で活用したが、問題演習などでは十分活用できていなかったため、eラーニングなどを積極的に活用したいと考える。学生支援については、就職活動などできめ細かな指導したことが成果としてあげられる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。他の教員の授業を見学したり、自分の授業に対する授業評価を活用することで、学生のニーズに積極的に対応していく。また、学習目標を明確にするため、検定試験を年間計画に設定している。今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次の通りである。

I. 短期目標

1) オンライン授業であっても学習量が減らないよう工夫し、eラーニングを積極的に授業に活用する。

2) 小テストなどを定期的に取り入れ、学習到達度のチェック方法を工夫する。

3) 対面での授業では、ディスタンスを保って、できるだけグループワークに近い取り組みを工夫する。

II. 長期目標

1) ICTを活用し、自分で時間を工夫して、自宅での予習、復習ができるように工夫していく

2) 難しい問題や検定試験にも途中で嫌にならないよう、アクティブラーニングを授業に取り入れる。

3) 日商簿記検定2級などの高いレベルの検定試験に対応した学修成果の向上を目指す。

■後期取組

《金曜・2限 22508503 [初級簿記Ⅱ] 加藤 美樹雄》
オンラインが多かったので、表やWordなどを多く用いた

《火曜・1限 25523201 [商業簿記Ⅱ] 加藤 美樹雄》
オンラインで、学生の反応が伝わらず、授業ペースが早めになってしまった

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22508001	初級簿記 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	22508002	初級簿記 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510607	ゼミナール II
前期	総合ビジネス・情報	2年	22524501	中級簿記
前期	総合ビジネス・情報	1年	25523001	商業簿記 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	R3527101	FP基礎論
後期	総合ビジネス・情報	1年	22508501	初級簿記 II
後期	総合ビジネス・情報	1年	22508503	初級簿記 II
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510109	ゼミナール I
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511107	ゼミナール III
後期	総合ビジネス・情報	2年	24524701	上級簿記
後期	総合ビジネス・情報	1年	25523201	商業簿記 II
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0203	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0403	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0503	インターンシップリテラシー

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

准教授

教員氏名

高木 亜有子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学 総合ビジネス・情報学科 の教員として、主にWeb、CG、ゲームに関する授業を担当している。2021年度の担当科目は別記のとおりである。

「Javaプログラミング演習」では、統合開発環境ソフトのEclipseを用いて、Javaのプログラミング技術を習得することを目指している。

「WEB基礎」では、HTMLとCSSを学び、簡単なWebページを作成できるようになることを目標としている。「CG基礎」ではAdobe Photoshop、Adobe Illustratorというソフトウェアを用いて写真加工や画像素材を作成し、Webページ作成に活用できるようになることを目標としている。この授業は全てオンデマンド形式で実施している。

「ゲームデザイン」では、ゲームの仕組みを学び、グループでゲームを作成し、発表する体験を通じて、共同制作のノウハウやコミュニケーション、タスク管理、プレゼンテーション能力を身に着けることを目標としている。

「CG理論」ではコンピュータグラフィックスの理論を学び、適切に画像加工や画像処理を行い、コンピュータグラフィックスを活用するための知識の修得を目指している。一部オンデマンド形式で実施している。

「プロジェクト実践II」「プロジェクト実践III」ではプロジェクトの企画・計画・推進を行い、グループワークを通じて、他者と協働するための力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、スケジュール管理能力を身に着けることを目標としている。

「インターンシップリテラシー」では、インターンシップ時に必要なビジネスマナーや心構えを身に着けることを目標としている。

「プレゼミナール」では、履修指導やサークル・委員会活動の紹介、メンタルヘルス、卒業生からの話、ゼミ紹介など、様々な内容を実施し、1年生が充実した学生生活を送れるようになることを目標としている。

「ゼミナール・II・III」では、テーマを「ゲーム制作」とし、学生が協働してゲームを作成し、その成果を東京ゲームショウ等の外部のイベントで発表することで、グループワーク、協働作業に必要なコミュニケーション能力、他者へのゲーム説明を通じたプレゼンテーション能力、お客様対応能力を身に着けることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭出店管理部門の顧問として、湘北祭が円滑に実施できるようにサポートしている。また、ゲームサークル、イラストサークルの顧問をしている。課外活動の指導においては、学生が自ら発案し行動できるように見守り、助けが必要な場合に適切なアドバイスをするよう努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が自立した社会人となり、社会で活躍できるようにすることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 自分の力で考え、決断し、行動できるように、様々な体験の機会を用意すること

プロジェクト型の学習を通じて、教員から答えを教えてもらう学びではなく、自ら答えや問題解決方法を見つけることができる力を身に付けて欲しい。

2) PCを活用し、社会でITを活用できる能力を身に付けること。

用意されたソフトウェアを使うだけでなく、プログラミングやWebページ制作等、新たなサービスを社会に提供できる人材となって欲しい。

3) 学内だけでなく、学外の人との交流ができるようなイベントに参加すること
仕事では、社内の人、お客様等、様々な立場の人とのコミュニケーションが必要

となるため、学内の人だけでなく、学外の人との交流ができるようなイベント
(東京ゲームショウ、ゲームマーケット、Global Game Jam等)に参加して、
コミュニケーション能力を伸ばして欲しい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている

- 1) 「Javaプログラミング演習」では、教員の用意したプログラムを模写することで、Javaの基本文法、Eclipseの使い方を学び、徐々に課題の難易度を挙げて、自らアルゴリズムを考えて設計するように指導している。
- 2) 「WEB基礎」では、始めのうちは提示された手順での作業を通じてWebページの作成方法を学び、最終課題ではグループで与えられたテーマ内で自由にWebサイトを作成するように指導している。
- 3) 「CG基礎」は、オンデマンドの科目として、ソフトウェアの操作方法や課題の制作方法を動画で準備し、学生がいつでも操作を確認してソフトウェアの操作方法を身に付け、様々な図や画像が作成できるように指導している。
- 4) 「ゲームデザイン」では、ゲームの体験を通じて、学生がどのように思考しているのかを自ら振り返り発表をさせ、最終課題では自らの考えたオリジナルのゲーム制作し、テストプレイを通じて問題点を挙げてブラッシュアップを重ね、より良い作品を作るように導いている。また、作るだけではなく、他の人の作品を体験し、意見をすることで、コミュニケーション能力や、観察能力を伸ばし、発表を通じてプレゼンテーション能力を伸ばすように機会を設定している。
- 5) 「CG理論」ではCGの理論を学びを深めるために、一眼レフカメラでの撮影や、CGソフトウェアによる画像加工の方法など、適宜実技を交えながら知識の修得を目指している。CGソフトウェアの操作方法是オンデマンド教材として、いつでも確認ができるように準備している。
- 6) 「プロジェクト実践II」「プロジェクト実践III」では学生が選んだプロジェクトを自ら成功させるために、毎週の進捗状況の確認と、適切なアドバイスを与えている。最後の発表会を通じて、自分のプロジェクトだけでなく、他の人のプロジェクトを見たり聞いたり意見をしたりなど、クラス全体の学びの機会としている。
- 7) 「ゼミナール・II・III」では、自分たちで作成したゲームを必ず外部に向けて発表するようにしている。東京ゲームショウや湘北祭、ゲームマーケットや各種コンテストで発表し、学外のお客様の反応を見ることで、自ら作成した作品に対する振り返りは評価を肌で感じる事ができる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業評価アンケートの結果は、正直あまり芳しくない。他の科目と比較すると、私が担当する科目はWeb制作やゲーム制作等、時間外の作業が多くなることで、学生への負担が大きくなり、結果として授業の評価としては低いものになっていると考えられる。かといって、授業時間外の作業無くして作品は作れないため、評価を上げるために作業量を減らすということは、技術が身に付かず、最終的には学生のためにならないと考える。毎年、学生作品をWebサイトで公開していることで、入学前から高木ゼミに入りたいという学生もいることから、一定の成果として挙げられるのではないかと（広報、学生募集、学生の学習に対する達成感）。オンデマンド教材とCGソフトウェアを扱う授業との親和性は高く、アンケートの自由記述欄を見ると、「授業内容をいつでも見直しできる」、「自分のペースで作業を進めることができる」など、好意的な意見が多かった。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善の取り組みとして、外部のセミナーや、他大学の教員の授業についての講演などに参加している。オンラインで手軽に参加できるセミナーが増え、ITのツールの活用方法などを学び、オンライン授業のみならず、対面授業においてもグループワークの活性化につながった。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次の通りである。

I.短期目標

- 1) 学生の自己評価を高めるための工夫（学習成果の可視化、ほめるなど）
- 2) オンデマンド教材の開発
- 3) オンラインツールを活用したグループワークの促進

II.長期目標

- 1) チャレンジ精神を忘れずに、様々なことに積極的にチャレンジできる学生の育成
- 2) グループワークにおけるフリーライド問題への解決、各々の作業の可視化
- 3) 一人ひとりの能力やニーズに合わせた学習方法、課題設定、質問への回答、アドバイス方法など

■前期取組

《月曜・5限 R3503501 [CG基礎] 高木 亜有子》

オンデマンド授業とし、動画と資料を準備した

■前期改善

《月曜・3限 R3503001 [WEB基礎] 高木 亜有子》

進行を遅くする

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

教材はすべて湘北Eラーニングにありますので、そちらを参照してください。

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510608	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2年	28561501	Javaプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	2年	28564001	ゲームデザイン
前期	総合ビジネス・情報	1年	R2578501	プロジェクト実践Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2年	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
前期	総合ビジネス・情報	1年	R3503001	WEB基礎
前期	総合ビジネス・情報	1年	R3503501	CG基礎
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510106	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511108	ゼミナールⅢ
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0204	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0404	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0504	インターンシップリテラシー
後期	総合ビジネス・情報	1年	28574501	CG理論
後期	総合ビジネス・情報	1年	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2年	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

准教授

教員氏名

高嶋 章雄

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にプログラミングとメディアデザインに関する授業を担当している。
2021年度の担当科目は、別記のとおりである。

主にプログラミングを学ぶ「C言語プログラミング」「Javaプログラミング」「WEBプログラミング」では、学生が、模写ではなくオリジナルのプログラムを作成することで、課題を解決するための論理的な考え方や、PC上で解を具現化する情報系スキルを獲得することを目指している。

「情報科学（情）」では、学生が、情報技術の意義を理解し、コンピュータやネットワークの基本的な知識を整理し、実社会で情報技術がどのように活用されているかを把握することを目指している。

「ビジュアルコミュニケーション」では、学生が、情報の伝達手段としての視覚的な表現について、基礎的な理論を学び、表現の効果的な利用方法を身につけること、およびプレゼンテーション資料作成や報告書作成など、オフィスワークにおける情報伝達において視覚情報を取り入れる有用性を理解することを目指している。

「プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、学生が、個人プロジェクト、グループプロジェクトを通じ、目的・目標設定、計画、情報分析、課題解決、制作・表現などのプロセスを実践的に学ぶことで、プロジェクト遂行のための基本的な知識と進め方を身につけることを目標としている。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、学生が、地域の店舗や事業所を紹介する活動を通じ、他者とのコミュニケーションをとりながらプロジェクト遂行のための基本的な知識と進め方を身につけることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭実行委員広報部門の顧問として、チラシやパンフレット制作をサポートしている。課外活動の指導においては、学生の主体性を尊重し、必要以上の誘導や指示を行わないよう留意している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、高度な情報化社会において情報技術を活用し自らの手で物事を作り上げる学生を育成することであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 情報化社会を担う人材に必要な基本的知識・技術の伝達
- 2) 実社会を意識した理論と実践の提供
- 3) 自ら考え、学び取り、自ら行動する力の醸成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

今後の情報化社会を担う人材育成において、まずは既存の情報技術を臆せず試用することが起点になり得ると考え、「情報科学（情）」や「プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「ゼミナールⅡ・Ⅲ」においてIT活用方法を取り入れた授業を展開した。特にコミュニケーションツールとしてslackやgatherなど大学標準ではないサービスを利用した。またプロジェクト管理においてはbravio!、Jooto、Jiraなど複数のサービスの違いを比較しつつ使用した。加えて、今後のDX化でも普及が予想されるノーコード／ローコードのソフト開発や、AIサービスを用いた画像診断を体験させるなど、単語を知識として知っているレベルから手を動かして内容を把握するレベルへの引き上げを意識的に行っている。

「プロジェクト実践」では、実社会での労働環境を意識し、異学年・異フィールドの学生との協同作業を実施した。学内外の課題解決をプロジェクト形式で学ぶことで、単一の答えのない課題に対し、自ら考え行動する機会を提供している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

「プロジェクト実践Ⅳ」および「ゼミナール」のアンケート結果Q10において、グループワークで様々なオンラインサービスを取り入れたことに対する肯定的な意見が多く寄せられた。「gatherなど、コミュニケーションを取りやすくしようとしていた」「オンラインのなかでもグループディスカッションの場があった」「GoogleドライブやGoogleドキュメントを活用していたため、授業やグループ作業をスムーズに進めることができた」「様々な情報共有サービスを使ってやり取りを行い、社会人として役に立つ」「オンライン上でもプロジェクトが無事に進んでよかった」など。多くの学生がコロナ禍での生活に慣れ、今後オンラインサービスを使って仕事をするイメージを持ちつつある状況であったが、それとリンクする形で積極的にオンラインサービスを取り入れたことが奏功したと考えられる。

また、「プロジェクト実践」は、学生が「教員から教わる」のではなく必要に迫られて「自ら学ぶ」ことを狙う授業形態としている。授業参観コメントシートより「教員への質問を積極的にしていた」「教員が見守る感じが良かった」「学生の自主性を待つというのも必要な行為だ」という意見が得られ、想定した環境を学生に提供できていることがわかる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

■前期取組

《Javaプログラミング》

Q6（授業資料）が比較的良い値であった。プログラミングの作業中心になりがちだが、補足資料の提供や小テスト実施をコンスタントにおこなった結果と考えられる。

■前期改善

《プロジェクト実践I》

Q10およびQ11の自由記述件数において、グループワークに言及するものが70%（16/23件）から50%（3/6件）に減少した。オンライン（2020）と対面（2021）の違いがあり、対面グループワークへの抵抗が少ないことが推察される。一方で少数ながらチームビルディングに関する不満や教員にもっと関与してほしいという意見があり、本授業の狙いや意図が十分伝わっていないことがわかる。より丁寧に時間をかけて説明する必要がある。

■後期取組

《プロジェクト実践IV》

Q10において、グループワークで様々なオンラインサービスを取り入れたことに対する肯定的な意見が多く寄せられた。多くの学生がコロナ禍での生活に慣れ、今後オンラインサービスを使って仕事をするイメージを持ちつつある状況であったが、それとリンクする形で積極的にオンラインサービスを取り入れたことが奏功したと考えられる。

■後期改善

《C言語プログラミング》

科目の全体平均が3.75であり、プログラミング系の科目では比較的高めの評価となっているが、回答率が22%のため信頼に足る結果とは言えない。外部のオンデマンド教材（コーディング学習ゲーム・動画・オンライン演習）を活用したことで一部の学生の興味をひくことはできたが、一方で学習内容に理解が追い付かず途中から学習を放棄するような学生もいたと感じている。結果として授業評価アンケートに回答する気にもならなかった可能性がある。これ以上学習レベルを下げることは得策ではないが、ゲーミフィケーションの仕組みを増やすなどして、学生の興味喪失を抑える必要がある。

■前期取組

《月曜・3限 28561001 [Javaプログラミング] 高嶋 章雄》

Q6（授業資料）が比較的良い値であった。プログラミングの作業中心になりがちだが、補足資料の提供や小テスト実施をコンスタントにおこなった結果と考えられる。

■前期改善

《火曜・1限 R2578501 [プロジェクト実践] 高嶋 章雄》

Q10およびQ11の自由記述件数において、グループワークに言及するものが2020年度の70%（16/23件）から50%（3/6件）に減少した。オンライン（2020）と対面（2021）の違いがあり、対面グループワークへの抵抗が少ないことが推察される。一方で少数ながらチームビルディングに関する不満や教員にもっと関与してほしいという意見があり、本授業の狙いや意図が十分伝わっていないことがわかる。より丁寧に時間をかけて説明する必要がある。

■後期取組

《金曜・1限 R2580001 [プロジェクト実践IV] 高嶋 章雄》

Q10において、グループワークで様々なオンラインサービスを取り入れたことに対する肯定的な意見が多く寄せられた。多くの学生がコロナ禍での生活に慣れ、今後オンラインサービスを使って仕事をするイメージを持ちつつある状況であったが、それとリンクする形で積極的にオンラインサービスを取り入れたことが奏功したと考えられる。

《月曜・1限 28560001 [C言語プログラミング] 高嶋 章雄》

科目の全体平均が3.75であり、プログラミング系の科目では比較的高めの評価となっているが、回答率が22%のため信頼に足る結果とは言えない。外部のオンデマンド教材（コーディング学習ゲーム・動画・オンライン演習）を活用したことで一部の学生の興味をひくことはできたが、一方で学習内容に理解が追い付かず途中から学習を放棄するような学生

もいたと感じている。結果として授業評価アンケートに回答する気にもならなかった可能性がある。これ以上学習レベルを下げることは得策ではないが、ゲーミフィケーションの仕組みを増やすなどして、学生の興味喪失を抑える必要がある。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509004	情報科学(情)
前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510609	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2年	28561001	Javaプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	2年	28576001	WEBプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	1年	R2578501	プロジェクト実践I
前期	総合ビジネス・情報	2年	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510108	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511109	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	1年	28560001	C言語プログラミング
後期	総合ビジネス・情報	1年	28571501	ビジュアルコミュニケーション
後期	総合ビジネス・情報	1年	R2579001	プロジェクト実践Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	2年	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

講師

教員氏名

金澤 良晃

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に情報科学の基礎、MOS実践、事務職のためのExcel応用（VBA）、データ分析演習、デスクワーク入門など情報系に関する授業を担当している。PCの基礎知識や基本的な操作は、将来事務職を目指す総合ビジネス情報学科の学生に重要であることから、PCを効率よく正確に活用できるように指導する。

「情報科学」では、コンピュータの基本的な仕組みを理解することで、学生が自分に必要な情報技術を、自分で選択できるようになることを目的としている。

「MOS実践」では、MOS Excel資格を取得することによって、事務で必要とされるExcelの基本操作を習得することを目的としている。

「デスクワーク入門」では、日商PC検定3級（データ活用）取得を目指し、パソコンやデータ活用の基礎知識を習得することを目的としている。

「データ分析演習」では、実務で行うデータ分析を体験することで、データを使った問題解決の手法を習得することを目指している。

「事務職のためのExcel応用（VBA）」では、小さな単純命令を組み合わせ、事務作業の自動化を推進できる人材を育てることを目的としている。

また、課外活動では、調査広報委員会の顧問として、学生たちの意見を尊重しつつ、自身の広報経験などを元に助言し支援していく。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 目的を明確化し、そのためのスモールステップ(小目標)や筋道を設定することで、学生が主体的に学ぶ姿勢を継続する。これを繰り返すことで好循環を発生させ、目的達成に導いていく。

2) 実務で活かせるビジネス知識やPC活用法を伝授する。私の実務における成功や失敗の経験を伝え、学習している知識やPC操作がどのように活用できるか想像できるようにする。

3) 社会人として求められるコミュニケーション力を育成する。不明点があった場合の質問の仕方、遅刻/欠席する場合の連絡の仕方、ミスをした時の責任の取り方など、実社会でも重要となる基本的なやり取りを、授業内外で指導していく。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1) 「情報科学」では、コンピュータに関する興味関心を高める工夫をしている。例えば、コンピュータの歴史を扱った映画を見させる、音のデジタル化では音を聞き比べる、手動でデータを暗号化し友達に送ってみる、など。また、コンピュータの基本的な仕組みを理解してもらうために、文系でも理解できる言葉遣いやイラストを入れて、丁寧な資料作りと説明を心がけている。

2) 「MOS実践」では、単にExcelの使い方を教えるのみならず、なぜこんな機能があるのか、いつこのような機能を使うのかなどを含めて説明するよう工夫している。学生が、自らPCを操作し、できなかった問題を重点的に復習できるように「自己管理シート」に学習記録を付けさせている。これが合格に向けた効率の良い学習法となっている。

3) 「デスクワーク入門」では反転学習を取り入れ、班で調査した問題を授業内で発表させている。またその発表を聞いた学生たちは、Googleフォームに評価を入力する。教員は全員の評価を集計して発表者にフィードバックすることで、次回以降の参考にしてもらう工夫をしている。

4) 「データ分析演習」では、やや高度なExcel操作をする場面が少なくない。一度教員から教えてもらっただけでは直ぐに忘れてしまう可能性が高い。そのためオンデマンドで視聴できる動画を作り、学生に提供している。動画を見ながら同じように操作することができるため、落ちこぼれを無くすだけでなく、理解度を高められている。

5) 「事務職のためのExcel応用（VBA）」では、まず一つ一つの単純な処理命令を教える。その後、それらを複数組み合わせることで、応用的なプログラムを作れることを体験してもらう。課題では、見本となる完成した自動処理を見せ、どうVBAを組み合わせれば同じことを実現できるか考えさせる工夫をしている。

6) 「ゼミナールI」では、演習に重きを置き、練習課題や模擬問題を繰り返し解かせるようにしている。また多くの学生が間違えた問題を中心に、丁寧な解説をすることを心がけている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

「情報科学」の授業評価アンケートでは、「苦手意識が強い分野だったが、資料がとても分かりやすくて良かった」「毎週の課題で、授業内容を自然と復習できるのがありがたかった」という声が多数あった。これは文系にとっても分かりやすい資料・説明表現を心がけてきた結果であると考ええる。

「MOS実践」では、受講者53人中52人がMOS Excelの本試験を受験し、その内51人を合格させることができた。（合格率98.1%）また1人もD、E評価の学生が出なかった。これは自己管理シートに基づき、学生たちが主体的に学習内容を管理できる仕組みを徹底させた結果であると考ええる。

「デスクワーク入門」では、日商PC検定（データ活用）3級の知識科目を担当した。受講者84名中69名が受験し、知識科目については全員が合格基準である70%以上の点を取ることができた。これは1問ずつ学生自身に問題を調査させ、主体的に学習できる環境を整えた結果であると考ええる。

「データ分析演習」では、積極的に授業に取り組んだ学生が大半で、授業評価アンケートの「Q3. この授業への取り組みを自己評価して下さい。」では、平均3.52ポイントと高かった。また1人もD、E評価の学生が出なかった。これは毎回の授業テーマのオンデマンド動画を提供し、同じように操作すれば一通りデータ分析の課題を達成できるようにしたためであると考ええる。

「ゼミナールⅠ」では、全体平均3.68ポイントと比較的高い評価を得ることができた。これは、シラバスの授業計画（目的・目標・内容）をしっかりと立て、それを学生たちに説明し、授業を遂行していった結果だと考える。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

今後学内で開催されるFD活動や、授業公開見学に積極的に参加して、自身の授業改善に資することを取り入れていく。
また学生アンケートの内容を真摯に受け止め、以下の通り次の授業改善へとつなげていく。

「情報科学」では、「授業のペースが速い」という声が複数あったため、学生たちの反応を見つつ対応し、余裕を持った時間配分を心がけていく。

「MOS実践」では、「個人情報さらす(名前付きで得点表示)はとても不快でした」という声があった。不快感を持たせずに、自身の学習到達度を認識させ、やる気を出させる方策を考える必要がある。

「デスクワーク入門」では、毎回の授業で行う班活動が評価に大きく影響することを知らない学生が一部いた。そのため「最終試験だけ高得点が取れば良い」と勘違いしている学生がいた。1回目の授業だけでなく、時折、評価方法を繰り返し伝えていくことにする。

「データ分析演習」では、オンデマンド動画の提供など工夫したものの、重回帰分析の応用など難易度が高いものも含めてしまった。もう少し基本的な内容に留め、確実な理解を促進させるようにしていく。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 学生アンケートで3.5以上を取る
- 2) アクティブラーニング型の手法を多く取り入れる
- 3) 学生の興味関心を引き出す学習教材の開発

II. 長期目標

学生が卒業後に本当に役立つ知識やスキルを身に付けられる授業を展開する。そしてそれを主体的に学べるよう学習教材を整備していく。課外活動において授業で習った知識やPCスキルを活用できるように、支援をしていく。

■前期取組

《火曜・1限 22509001 [情報科学] 金澤 良晃》

毎回、授業で学習した内容を踏まえた小テストを、授業時間外で行った。その際、テキストを見ながら解いても良いこととし、記憶力よりも理解力を重視した。基本的に授業を思い出しながら、そしてテキストを見ながら解けば満点を取れるような易しい問題にしたことで、「情報科学って難しいと思っていたけど、高得点が取れた!」といった達成感を多くの学生に味わってもらえたと思う。

《月曜・2限 31518501 [MOS実践] 金澤 良晃》

前半はテキスト中心に一問一問、解いていき、一問一問その結果を記録させた。自信をもって正解できなかった問題を繰り返し解かせるようにした。後半は模擬試験を解いていった。その際も、毎回結果を記録して、70点以上の合格点が取れるまで何度も繰り返してもらった。学生たちの努力もあり、結果52人中、51人が合格することができた。

■前期改善

《火曜・1限 22509001 [情報科学] 金澤 良晃》

コロナを意識しすぎて、個人ワークや講義が中心となってしまった。学生からは「もう少しグループワークなどを増やしてほしい」と言った声が複数名から受けていた。後期はZoomでのブレイクアウトルームや、miroといったツールを活用して、安全に取り組めるグループワークを増やしていく予定である。実際、デスクワーク入門では教師が1問1問解説するのではなく、3人班で各設問を調査し、学生が他受講者に解説発表をするというスタイルを取る形式に改善している。

■後期取組

《水曜・1限 31512501 [デスクワーク入門] 金澤 良晃》

日商PC検定3級の合格を目指すという目的を授業の中で何度も伝え、目的意識を明確化した。

単に教員が知識を伝えるだけでは飽きてしまうため、反転授業を取り入れた。毎回異なる3人班を作り、班毎にテキストの問題解説の準備をして翌週解説発表する。聴講者は単に発表者のプレゼンを聞くだけでなく、Gフォーム上で発表者への評価を入力させた。

授業が終わる度に教員が評価結果を集計し、発表者に対して個別にフィードバックを行った。

また個人課題として、テキスト問題を自分で解かせ、その結果を自己管理シートに記入させた。自己管理シートでは、いつ・どの問題を解いて・結果どうだったか・ポイントは何かなどを記録する表である。

これらの取り組みを行った結果、本試験の知識問題については、受験者全員が合格基準を超えることができた。

なお、アンケートコメントでは、以下のような前向きなコメントが多かった。

- ・自分で解いて作ったり調べたりしたから頭に入ってきやすくてよかったです。
- ・グループでの活動なのでこれを通して話せる子も増え良かったです。
- ・グループワークだからこそ責任が強かったからいつも以上に真剣な気持ちになった
- ・私は、大勢の前で話すことが苦手ですが、この授業で少し改善できたと思っています。
- ・自分で説明することでインプットしやすかったです。
- ・自分たちで問題を理解して、解説をするといった体験は初めてだったので、難しかったです。でも実力をつけられたり練習になったと思います。どこが悪かった、どのようにすれば他の方に伝わるのかなど良い体験でした。無事、検定も合格出来ました。ありがとうございました。

《火曜日・2時限 22510112 [ゼミナールⅠ] 金澤 良晃》
アンケートでは概ね前向きなコメントであった。ただし、学生個々とのコミュニケーション量としては十分ではなかったように思う。(Q12・Q13より)
今回は15回の授業が全て終わってから個別面談を行ったため、次回はもっと早めに個別面談を実施して、個々の就活や進路に関する助言をしていく予定である。

《月曜・3限 22517102 [データ分析演習] 金澤 良晃》
この授業では、Excelによるデータ分析の操作をオンデマンド形式で動画提供した。

オンデマンドにしたことで、授業についてこれない学生の数を大幅に抑えることができたと感じている。現にアンケートでは「動画を用意して下さったり、課題を進めやすくするために沢山の対応をしてくださり、とても授業が受けやすかったです。」というコメントをもらった。

ただグループワークによる発表では課題も残った。ある学生から以下のコメントをもらった「指示されたとおりに資料作成したにもかかわらず、発表時には考えが変わったようでその部分に対してたくさん指摘を受けたのが納得がいかなかった。」
私なりに振り返ってみると、ハッキリどの部分のことを指しているのか不明だったが、学生に対する指示や伝達が上手くいっていなかったことは否定できない。

そのため、重要なポイントについては、口頭だけでなく白板に書いたり、資料を配布するなりして齟齬がないように努めていく。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

https://drive.google.com/open?id=1xQeZLva8yb-yqodusAOJ_kTiNiHLAS11

特記事項

添付資料は、「情報科学」(第1回目)の授業テキストです。

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509001	情報科学
前期	総合ビジネス・情報	1年	22509002	情報科学
前期	総合ビジネス・情報	1年	22509003	情報科学
前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	31518501	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	2年	31518502	MOS実践
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510112	ゼミナール I
後期	総合ビジネス・情報	2年	22517101	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2年	22517102	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2年	23546503	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0201	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0401	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0501	インターンシップリテラシー
後期	総合ビジネス・情報	1年	31512501	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	1年	31512502	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	2年	31518001	VBA実践

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

講師

教員氏名

北川 栄里子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス情報学科の教員として、主に社会で必要となるビジネスマナーやプレゼンテーションなどのビジネス・コミュニケーションに関する授業を担当している。
2021年度の担当科目は、別記のとおりである。

ビジネスマナーやコミュニケーション能力は、あらゆる業種そしてあらゆる職種においても必要となるものであり、就職活動においてもその後の社会人生活においても通用する人材育成は、本学の強みであり、同時に学生自身の強みとして身に付けさせたい最も必要な能力である。ゆえに、入学の時点からその後の社会人生活を意識させ、2年間で社会で通用する能力が身に付くようアクティブラーニングを多く取り入れた指導を行っている。

「オフィスワークの基礎」では、社会人として必要なビジネスマナーの基礎的な部分についての理解と知識の修得を目標としている。

「オフィスワーク演習Ⅰ」では、「オフィスワークの基礎」で得た知識を、演習を通じ、実践能力として身に付けることを目標としている。

「オフィスプレゼンテーション」では、どのような場面においても、場面にふさわしい的確な方法で表現する力の修得を目標としている。

「現代社会コミュニケーション論」では、世の中の様々な事象に対し、ただ受け止めるのではなく自ら考えて答えをだす力の育成と、現代社会におけるコミュニケーションの在り方を模索させることを目標としている。

「組織心理学」では、社会で遭遇しうる事象に対して、心理学的見地から物事を見ることで、冷静に判断し対処できる人間力の育成に繋げることを目標としている。

また、課外活動では、財務委員の顧問を行っている。課外活動の指導においては、活動方法等についてはこちらから一方的な答えや意見を出さず、学生自身で考え行動し失敗を含めて学びを深めていけるよう、学生の主体性を何よりも重んじている。学生間のメールやラインでのやりとりの際のグループに入り常に活動を見守っているものの、基本的にはこちらから意見を出さず、必要な際のみアドバイスや指導を行い、責任者としての責務だけを負うように努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、誰からも信頼されるビジネスマナーと、自ら考える力、それを表現できるコミュニケーション能力、そして変化していく世の中に対応できる感知力や問題解決能力などの人間力を育成することである。これらの教育活動で得た知識や能力を基に、卒業後、円滑に社会人生活をスタートし、良好な人間関係と信頼関係を築き、困難を乗り越えながら幸せな人生を歩んでいけるよう、学生の人生に社会人基礎力の種苗を植えることを責務とする。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 自ら考えて行動し、仲間と協働し共創できる人材の育成
「問題解決力」「計画力」などの『考える力』、「主体性」「実行力」などの『前に踏み出す力』、「発信力」「拝聴力」などの『チームで働く力』、これらの社会人基礎力を強化する。
- 2) 生涯の財産となる実践力の醸成
「知っている」だけではなく、実際に「することができる」、社会生活で役立つの力の養成に努める。
- 3) 学生に寄り添った丁寧な対応
教育とは単なる知識の伝達ではなく、学生の状況や今後の人生に寄り添い、必要な能力を育成することであると考え。一人一人が自信を持てるよう、内面にも寄り添った対応を行う。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1. どの科目においても、始めから答えを与えるのではなく、学生自身で考える時間を多くとっている。その際には、解答を探すだけではなく、なぜかという理由の部分も合わせて考えるよう促し問いかけている。このことは、「課題発見力」および「考える力」を養い、様々な物事に対し、技能だけではなく心で対応する「人間力」や「臨機応変に対応する力」の育成に繋がると考える。

各自が考えた内容については、皆の前で発表する機会を必ず設けている。人前で話すことで、内容を整理し正確に伝えるための「発言力」「表現力」といった「プレゼンテーション能力」、人の意見にしっかりと耳を傾ける「拝聴力」、そして多様な考えや価値観があることを知りそれを受け入れる「柔軟性」と「想像力」を養う。

また、グループワークを多く取り入れている。グループ討議を通じて、異なる意見をひとつにまとめる「調整能力」「リーダーシップ」「時間管理能力」を育成する。

2. 「知っている」を「できる」ものにするために、知識を実践するための演習の場を多く取り入れている。しかし、演習能力には、かなりばらつきがあることと、人前で何かをするのが不得意な学生も多いため、演習の際には、自信を持ってもらえるよう特に言葉がけに工夫をしている。改善点を指摘するのではなく、必ずいい所を見つけてあげて褒めてから、さらに良くなるためのアドバイスをを行い、学生が楽しく自信を持ってステップアップできるよう心掛けている。

「オフィスワークの基礎」においては、1年次前期科目であることから、今後自主的に学びを深めてもらうために、社会人に向けての意識付けを大切にしている。学生でも想像しやすい簡単なケースを題材に、まずは自分で考え意見交換させ、そこででた意見に対して、自分の社会人経験の事例などを交えながら解説し、わかりやすい説明を心掛けている。

「オフィスワーク演習Ⅰ」では、「オフィスワークの基礎」で学んだ内容を、実際に社会で使える実践力として表せるよう、演習を中心とした授業を行っている。皆の前で実技を行い、同級生の実技や意見からも気づきや学びを得るための相互評価制度を取り入れている。

最初は多々指摘したい点があるが、回数とともに自然に改善していく事項についてはあえて指摘せず、本質的な部分のみ毎回アドバイスをを行い、失敗しても必ずいい部分をひろってあげることで自信を持てるようにしている。

「オフィスプレゼンテーション」では、状況に応じたプレゼンテーションの手法を教示するとともに、毎回全員に人前で話す機会を与えている。はじめは、ごく身近で簡単な興味もてる内容を題材とし、小グループ内での意見交換からはじめ、徐々に長さや内容を深めることで、人前で話すことが苦手な学生も、楽しく臆することなく参加できるようにしている。

「現代社会コミュニケーション論」では、考える力の醸成と多様な価値観に触れるを目標としているため、あえて明確な答えを出さず、「考える」作業と「ディスカッション」をメインにしている。理解を深めるために、自分の経験談や意見を毎回紹介しているが、その際には、教員として正解を示しているのではなく、考え方や価値観には正解・不正解がなく、皆と同じ色々な考えのひとつに過ぎず、それに対してどう考えるかの自分の価値観形成の単なる材料として捉えて欲しいことを、予め強調して伝えている。これらの作業を通じて、自分自身の考えや価値観に気づくことで、個々の軸を形成し、今後の人生を乗り越えていく力になると考える。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生による授業評価アンケート結果では、どの授業においても学生の満足度が高かった。コメントでは、「必要な能力が身に付いた」という内容のコメント、「資料や説明がわかりやすかった」というコメント、グループワークやディスカッションを通じ、「他の学生と交流できたことが良かった」という内容のコメント、就活などに対する「親身な対応」に関するコメントが複数あった。特に、オンライン期間の授業に関して、オンラインでも発言をしたり話し合いができたことや、双方向授業が良かった、資料がわかりやすかったというコメントが多かった。

これらは、昨年同様、アクティブラーニングを多く取り入れ、学生が飽きることなく主体的に取り組めるように心がけた事と、昨年度資料を使用していなかった授業でも、パワーポイントの資料での説明を取り入れたことが、良いアンケート結果に繋がったと考える。オンライン授業では、教育の質を落とさないよう、全員が参加できる双方向授業を行ったことと、演習の授業においてオンラインで知識の修得を行い対面授業が再開してから演習を集中的に行えるよう授業内容を工夫したことが、成功だったようである。

しかしながら、演習をギリギリまで行い、毎回の課題については、教科書の課題を指示していたため教科書を見ればわかると思い、教科書のページ数と課題番号しか伝えていなかったところ、課題がわかりにくかったというコメントもあった。ほとんどの学生には伝わっていたが、一人でもわかりにくいと感じる学生がいないよう、一人一人のレベルに寄り添って指導していきたいと考える。また、どの授業も復習にあてた時間が1時間を切っている学生が多く、改善点として受け止めたいと思う。

ゼミナールでは、一人一人の面談の時間を増やしたり声掛けを増やすなどの改善を試みたところ、前期から後期にかけて満足度と親身に対応しているかの項目での評価があがったため、丁寧な対応が結果に繋がったと感じる。

学生支援においては、特に就職活動のサポートに力を入れ、エントリーシートの添削や面接練習を行ったところ、早々に就職率100%を実現することができた。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善の取り組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。学生および他の教職員からの授業アンケートの結果を踏まえ、改善点を模索しながら授業をより良いものにするために日々努めている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである

I. 短期目標

- 1) 授業評価アンケートの数値向上
- 2) 社会のDX化に対応すべく、オンラインでのコミュニケーション能力の醸成
- 3) ひとりひとりに寄り添った学生目線での授業展開

II. 長期目標

- 1) どんな時代でも通用する人間力と社会人基礎力の育成
- 2) 時代の変化に合わせた教材の開発

■前期取組

《木曜・2限 22209001 [ファッション販売論] 三塚 由美子》

すべてオンライン授業であったが、パワーポイントをわかりやすく作ったことと、教科書に載っていないエピソードやコレクション情報などを紹介したことが良かったと思う。改善点としては、検定試験に間に合うように多少スピードを早めたことが、一部の学生にとっては多少負担になったかもしれないことである。今後はスケジュールを調整し、数回前倒し授業にしてもよいかとも思った。

《金曜・4限 28208502 [カラーとクラフト] 三塚 由美子》

前半はパーソナルカラー、後半は作品制作と一つの科目の中に2種類の成果が求められる。どちらも学生にとっては初めて目にするこばかりであったが、たいへん興味を持って取り組んでくれたと思う。特に後半のクラフト制作では、かぎ針編みに挑戦してもらったが、針を持つことも初めてという学生が多く、最初はとても戸惑っていたようである。しかし、回が進むにつれて積極的に作業に取り組む学生が多くなり、「楽しかった」「もっとやりたかった」という声がたくさん聞かれた。今後の改善点としては、前半のパーソナルカラーにももっと積極的に取り

■後期取組

《水曜日・2時限 22511110 [ゼミナールⅢ] 北川 栄里子》

ゼミナールⅠ、Ⅱの授業アンケートで、1名ゼミの内容に満足していない、先生が一人一人に対応してくれていないと感じている学生がいることがわかり、ゼミナールⅡより、個別面談や個人と話す機会を増やしたり、たわいもない会話も含めこちらから多めに声掛けするよう心掛けたところ、ゼミナールⅢではよい結果に転じることができた。ゼミナールⅢは学生にゼミ論を書かせるのが初めてであったため、正直毎回手探りの中すすめていたが、こちらの計画通りに学生がついてこれていないと感じた時は、個々のペースに合わせ課題を一律ではなくそれぞれに合ったものに臨機応変に変更したり、全体授業だけではなく、個別授業方式を数回入れるなどの工夫をしたり、一人一人に手厚いアドバイスをを行うよう心掛けた。また、論文だけでは飽きてしまうと、ところどころで、グループワークや体験授業を取り入れたところ、楽しかったというコメントや、身に付いたことが沢山ある、1週間で一番の癒しだった等のコメントがあった。

ゼミ論に、最後の論文発表など、負荷が多くゼミナールⅠ、Ⅱに比べ、退屈で苦痛なものになっているのではと危惧していたが、学生主体に進めていくこと、個人作業にならないよう全体での相互コミュニケーションを大切にすることを心掛けた結果ではと感じる。

《月曜・2限 22540501 [オフィスワーク演習Ⅰ] 北川 栄里子》

コメントの中で、説明がわかりにくかった。という記述があった。92%の学生が、わかりやすかったに印をつけており、同じオフィスワーク演習Ⅰの他クラスでは、わかりやすかったとコメント記述してくれた学生が数名いる中、このような結果になったのは、私が全体を見て授業を進め、一人一人の理解度やどれだけついていけているかに気が回ってなかったことの現れであると反省したい。今まで以上に、理解できているか、質問がないかなどの問いかけをまめに行い、一人一人をとりこぼさないよう心掛けていく。また、毎回の演習を全員に均等に回すことを優先してタイムマネジメントしていたところがあり、演習のレベル感にばらつきがあり難しくはあるが、身に付けるのに時間がかかる生徒や、要領がつかめていない学生には、授業後に個別にアドバイスを行う。

《水曜日・2時限 22511110 [ゼミナールⅢ] 北川 栄里子》

先生がもっとICTに詳しくれば授業がスムーズだったとのコメントがあった。おそら学生に発表させる際に、毎回、教室PCからそれぞれログインしていたことと、学生が指定と違う場所に課題を提出していたことが多かったため、たちあげや資料探しに時間がかかりタイムロスが生まれてしまっていたことが要因と思われる。学生が期日通りに資料を提出している場合は、こちらでまとめるなどの工夫を行うことができるが、そうでないことが現状として多いため、課題の提出場所について、もっと分かりやすくする工夫を行いたい。(ゼミ論の章ごとにEラーニングに提出場所を作っていたが、提出してくる日程にかなり差ができてしまい、誰がいつどこまで出したかの把握が煩雑になってしまった。→わかりやすく進捗にかかわらず週ごとの提出先に変更する)
また私自身もICTに関して学んでいく。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510610	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2年	22544501	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2年	22544502	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	1年	26539501	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	1年	26539502	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	1年	26539503	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	2年	26545503	現代社会コミュニケーション論
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510111	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511110	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	1年	22540501	オフィスワーク演習Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1年	22540502	オフィスワーク演習Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	2年	23546501	組織心理学
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0205	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0405	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0505	インターンシップリテラシー

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

講師

教員氏名

鈴木 孔明

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、将来、世の中の役に立つビジネスパーソンを目指す本学総合ビジネス・情報学科の学生が、社会の役に立つ人材になるために、インプットした知識を自分の頭の中でしっかり理解し、他者に分かりやすく伝えることができるように指導している。

私が主に担当している授業は以下である。

「商品・流通の基礎Ⅰ、Ⅱ」では、なるべく身近なテーマを授業に取り入れ、そのテーマにおいて学生がグループディスカッション、または、学生が自らプレゼンテーションすることで、社会に出て即戦力となる知識と発信力を修得することを目指している。

「マーケティング論」では、さまざまなマーケティングに関するテーマについて学生自身に調査、研究させ、プレゼンテーションを行わせることによって、自分で調べたマーケティングの知識を誰にでも分かるようにアウトプットできるようになることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭のイベント顧問として、活動方針、活動計画の助言をしている。課外活動の指導においては、学生が大学生活で達成感を得られるように努めている。私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生に社会において実践的に役立つ力を身に付けさせることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) コミュニケーション能力を身につけさせること

社会に出て人生を歩んでいく上で、自分以外の他者とのコミュニケーションをどう上手くとっていくかということは、大変、重要である。授業の中で、なるべく違う学生同士で授業のテーマに沿ったディスカッションをコミュニケーション能力をアップさせることを意識させながら真剣に取り組ませることで、学生ひとりひとりのコミュニケーション能力を上げるようにしていきたい。

2) アウトプットする力を身に付けること。

知識を溜め込むだけでなく、発信しているうちに、そこから新たな発想がふと生まれる。ネットなどの情報で誰もがインプット過剰のいま、自分ならではの言葉でアウトプットする力が武器になる時代である。学生自身の頭で考えさせ、自分独自のアイデアを発信できるような教育をしていきたい。

3) 自信をつけさせること。

学生に自信を持たせる教育をすることは、卒業後の学生の人生に関わる。教育者のたった一言によって、その後の学生の大きな才能を開花させ得ることは往々にしてある。さまざまな課題を学生に取り組みせ、それが達成された時には、心から褒めて称えることにより、学生の自己肯定感が増す。なるべく多く学生を褒めて肯定してあげる教育を心がけていきたい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1) ZOOMを使ったオンライン授業の中で、ディスカッションするテーマを与え、ブレイクアウトルーム機能を利用して、さまざまな学生同士でのディスカッションを積極的に行わせている。

2) 「商品・流通の基礎」では、学生のアウトプットする力を育むため、授業で教えた専門知識を踏まえて、グループディスカッションを行い、学生自身がアウトプットする時間を持てるように指導している。その後、グループごと代表者に意見を発表してもらい、鋭い指摘や意見の時には、新しい発想、素晴らしい考えということを他の学生にも伝え共有している。

3) 「マーケティング論」では、専門知識を伝えるだけでなく、マーケティングに関するテーマを与え、学生自身に自ら調査、研究し、発表をさせている。そのことにより、学生のプレゼンテーション能力は日を追うごとに高まっている。良いプレゼンを行った学生には、素晴らしかった点を褒めて他の学生と共有している。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の授業アンケート結果は、1年次の必修科目である「商品・流通の基礎Ⅰ」「商品・流通Ⅱ」の基礎において、先生の教え方がわかりやすいかという質問で、平均（全コース）それぞれ、3.56（商品流通の基礎Ⅰ）、3.63（商品流通の基礎Ⅱ）。

また、授業の総合満足度においても、それぞれ、3.52（商品流通の基礎Ⅰ）、3.53（商品流通の基礎Ⅱ）の高評価であった。

学生にアクティブラーニングさせることと、双方向授業を意識したことと、毎回の授業で学生からの質問、感想等を提出させ、私自身、PDCAを回して授業を行ったことが、アンケート結果の向上につながったと考えられる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

今後も積極的に相互授業参観等に参加し、他の教員の良いところ（授業法、討論法、学業評価法、教育機器利用法など）を自身の授業の中に取り入れていくつもりである。また、成果の出るオンライン授業についても、引き続き、研究していくつもりである。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) アクティブラーニングを積極的に行うことで、プレゼンテーション能力の向上
- 2) 毎回の開始時、前回までの授業の復習を取り入れることでの学習の定着
- 3) 時事的な最新事例を取り入れることにより、社会に出て即戦力となる知識を習得させる

II. 長期目標

- 1) DX人材を育てるために、どのようなアプローチで授業をしていくべきかを研究する。
- 2) ゼミ等で、積極的にZOOM等のオンラインを使った産学連携を行い、世間に認められるような成果を出していく。また、ZOOM以外のオンライン教育についても調査、研究する。
- 3) 年齢、住む場所問わず、本学で学びたいと思わせるような教育コンテンツ作りを行っていく。

■前期取組

《金曜・1限 26525001 [商品・流通の基礎Ⅰ] 鈴木 孔明》

学生の授業満足度を上げる取組として以下の点について留意した。

- ① 授業冒頭に前回までの復習のスライドを見せることにより学習定着を図った。
- ② 学生に課題を与え、学生自身にプレゼンテーションをさせる授業の回を何回かつくった。また、そのプレゼンテーションのアンケートを他の学生から取り、全体にフィードバックさせた。
- ③ 毎回の授業後にその日の授業の質問、感想等を書かせ、それをチェックして次の授業に反映させた。質問については、その次の授業で全体に向けて答えるようにした。
- ④ 常に、双方向の授業を意識して、授業の資料のスライドには質問や穴埋めを多くして、学生に考えさせる時間を多くとった。
- ⑤ 学生が授業に積極的に取り組みたくなるような環境をつくるため、学生がプレゼンテーションを行ったり発言した際には、良かった点をみつけ、なるべくおおげさに褒めるようにした。
- ⑥ 授業の説明時、意識して笑顔をつくり、明るい雰囲気をつ心かけた。

■前期改善

《水曜・1限 26525004 [商品・流通の基礎Ⅰ] 鈴木 孔明》

前期、オンラインで行った本授業に関して、後期のオンライン授業で以下の点を改善している。

- ① 学生の発言時に事情のない限り、極力、カメラで顔を映してもらうことにした。前期は、学生の自主性に任せたため、ほとんどカメラはONにする学生が少なかった。カメラをONにして表情を映すことにより、学生の発言の様子が読み取りやすくなった。
- ② ブレイクアウトルームでディスカッションを行う際、制限時間機能を使いうようにした。時間を意識させて、ディスカッションを行わせることができるようになった。
- ③ 学生が行うプレゼンテーションの時間をタイマーで図って可視化した。
(オンラインで行うプレゼンテーションは、聴衆の反応が見えないため、どうしても、対面授業の時と比べ、プレゼンの時間が長くなりがちであった。)
- ④ ZOOMの投票機能の活用。前期では、学生に質問するとき、一部の学生を指名するか、チャットで答えさせるようにしていたが、後期では、それらに加え、全体に選択式の投票機能を使って質問することも取り入れている。それにより、受講している全員が参加型になり、また、全体の答えの割合が瞬時に見えるため、正答と誤答の割合もわかる。誤答が多い場合は、解説をより丁寧にするようにしている。
- ⑤ ブレイクアウトルームでディスカッションするとき、積極的に発言できない学生ばかり集まると、なにも話さないままディスカッションの時間が終わってしまう場合があるので、グループのファシリテーター役を決めて役割を伝え、ディスカッションがなるべく活発化するように工夫した。
- ⑥ 授業の説明時、学生の理解度を知るため、リアクションボタンをなるべく多く押しってもらうようにした。

■後期取組

《水曜・3限 26530001 [マーケティング戦略論] 鈴木 孔明》

学生により学習内容を理解させる取り組みとして特にアクティブラーニングを意識して授業を行った。マーケティングに関する専門知識を伝えるだけでなく、いくつかの課題を与え、学生自身に研究、調査させ、クラス全体にプレゼンテーションをさせている。ショップマネジメントコース2年は、この1年間でのプレゼン能力の向上は、目を見張るものがあった。知識をつけさせるだけでなく、それを世の中に出たときに、どう生かしていくかという観点から授業内容を構築していったことが、学生アンケート結果の高評価につながった。

《金曜・1限 26506002 [商品・流通の基礎Ⅱ] 鈴木 孔明》

改善点として、（他の授業でもいえることであるが）アンケートのQ2.あなたは、1週間にどの位、この授業の予習・復習をしましたか？という質問に対して、平均2.03ポイントと低い結果となっている。今後、90分の授業内だけでの学習以外に、いかに授業外でも、授業内容に興味をもたせ、自ら研究、調査しくなるような課題を与えていくことが必要であると感じている。次年度に向けて改善策として、Googleフォーム等で学生全員に課題に対する問題を作らせ、メール送信を日時設定し、毎日、いずれかの学生の問題に触れるような仕組みづくりを構築するつもりである。特にこの方法は、資格試験取得の試験問題に対して有効的であると思われる。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22532501	マーケティング論
前期	総合ビジネス・情報	2年	25538501	消費者行動論
前期	総合ビジネス・情報	1年	26525001	商品・流通の基礎 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	26525002	商品・流通の基礎 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	26525003	商品・流通の基礎 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	26525004	商品・流通の基礎 I
前期	総合ビジネス・情報	1年	26525005	商品・流通の基礎 I (留)
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510113	ゼミナール I
後期	総合ビジネス・情報	1年	26506001	商品・流通の基礎 II
後期	総合ビジネス・情報	1年	26506002	商品・流通の基礎 II
後期	総合ビジネス・情報	1年	26506003	商品・流通の基礎 II
後期	総合ビジネス・情報	1年	26506004	商品・流通の基礎 II
後期	総合ビジネス・情報	1年	26506005	商品・流通の基礎 II (留)
後期	総合ビジネス・情報	2年	26530001	マーケティング戦略論
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0202	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0209	春季インターンシップ(長期)(留)
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0402	春季インターンシップ(短期)後期 インター
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0409	春季インターンシップ(短期)(留)後期 インター
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0502	インターンシップリテラシー
後期	インターンシップ(総合)	1年	26IS0509	インターンシップリテラシー(留)

年度

2021

～

2022

所属学科

総合ビジネス・情報学科

職名

講師

教員氏名

畠山 望

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に国際理解科目と観光ビジネスコースの授業を担当している。2021年度の担当科目は、別記の通りである。

「ジェネラル・イングリッシュI」と「ジェネラル・イングリッシュII」では、基本的な英文法を身に付け、実践的なコミュニケーション能力を獲得することを目指している。英語習熟度が一番低いクラス（L学科の2クラス）を担当しているため、もっとも重要視しているのは、英語に対する苦手意識を無くし、英語を使ってコミュニケーションをとることに楽しみを見出すことである。

「ジェネラル・イングリッシュI・II」では、3か月間オーストラリアに留学する学生が英語の4技能をバランスよく習得することを目指している。

「外国書講読I」と「外国書講読II」では、中級から上級の難易度の英文の内容を理解することで、英語能力のみならず、文章を根気強く読む力と想像力を養うことを目的としている。

「TOEIC（初級）」では、英語力とTOEIC受験力の二方向からアプローチしている。学生が3か月でスコアアップを目指し、400点を突破できるように、テストの性質を十分に理解させ、基礎力とある程度のテクニックを身に付けることを目的としている。

「外国事情」では、「英語を学ぶ」のではなく、「英語を使って学ぶ」ことを目的とし、学生が英語で書かれた外国の国々の情報を読み解く初めのステップを踏めるような授業を展開している。

ゼミナールでは、異文化理解と異文化コミュニケーションとテーマとして取り上げている。今後ますます多文化共生が進む社会で生きていく学生が、自己と他者を俯瞰的にみることが出来る力を習得することを目的としている。また、2年生の後期（「ゼミナールIII」）では1年間勉強してきたことを卒業論文としてまとめるための思考能力、文章能力、構成力を養うための指導をしている。

課外活動では、国際交流委員会の顧問として、約50人の学生を指導している。国際交流委員会は、湘北短期大学の中で最大級の団体で、年間を通して数多くのイベントを企画・実施している。また、全学組織であるGCセンターの活動にも関わっているため、委員が計画性と責任を持ち、体系的に動くことができる組織作りをすることが重要である。そのため、顧問として、主に4人のリーダーと班長にコミュニケーション力、組織運営力、指導力を身に付けさせることを意識しながら、日々、指導に当たっている。

私の教育の責務は、教育活動を通じて、丁寧に、取り残される学生がないように指導することである。また、小さな自信を積み重ねさせ、自分で考え、前に踏み出す力をつけさせたいと願っている。そのためには、よく個々の学生を観察し、小さな変化や成長に気を配ることが責任であると感じる。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 学生が小さな学びと自信を積み重ねて、成長できるように試行錯誤しながら指導すること。

「1. 教育の責任」でも述べた通り、教育活動で最も大事なことは、学生が自信をつけ、自主的に学ぶ姿勢になる道筋をつけることである。学生の状況や習熟度を考慮しながら、一人一人に合った教育方法を模索することが肝要であると考え

2) 専門知識を修得し、新しく、理解易い授業を展開できること。
自分の専門分野（英語、異文化理解）のみならず、アクティブラーニングやオンライン教育など、時代のニーズに合った教授法に関する知識を得て、確実に授業に反映するように努める。

3) 課外活動を通して、学生が責任感を持ち、達成感を得ることができるよう

指導すること。
本学では学業のみならず、課外活動も人間形成の礎だと考えている。学生に課外活動に従事する意義に気が付かせ、達成感を味わうことにより、次の行事に対するモチベーションを上げて行く好循環サイクルを創出できるように指導する。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上記の考えを実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1) 「ジェネラル・イングリッシュ」では、英語習熟度の一番下のクラスを担当しているため、学生を褒めることにより、自信をつけさせ、宿題や課題に前向きに取り組むように促している。ゲームを使ったり、優秀な解答をした学生にはシール配布したりなど、学びをゲーム感覚で楽しめる仕掛け作ることを心がけている。「外国書講読」や「ジェネラル・イングリッシュ」ではタブレット画面をスクリーンを映し出したり、画像・映像を使用することにより、視覚・聴覚に訴えかける工夫している。視覚や聴覚から情報を与えることにより、緩急のある、退屈しない授業づくりをしている。

2) 「TOEIC（初級）」では2020年度はPowerPointを使用するのみで、資料の配布はほとんどしなかったが、学生の理解を深め、授業後も要点を確認できるように、2021年度はWordで作成した配布資料を配った。TOEICを専門に研究している方々の書籍を幅広く購読し、強調すべきポイントや教授テクニックを学んだ。その際に、湘北の学生に適切な情報を取捨選択しながら、資料を作成することができた。

3) 課外活動の指導において、2021年度に意識したのは、「学生に責任感を持たせる」ことである。学友会活動での言動は、自分の所属する委員会だけではなく、学友会全体や他の委員会の学生・教職員にも影響を及ぼす。学友会への提出書類や、リーダーズキャンプに於いての資料や発表内容など、外に出しても支障のない質のものを作成するように指導した。その中でも特に、リーダーズキャンプで使用するPowerPoint資料の添削と委員長の発表の内容とデリバリー（声の大きさ、話すスピード、表情・姿勢、時間の厳守）の指導に力を入れた。教職員や他の学生の貴重な時間をいただいて発表しているからには、正確で、分かり易い発表をするべきだと考えるため、このような指導をした。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の「ジェネラル・イングリッシュI」と「ジェネラル・イングリッシュII」の授業評価アンケートを見ると、2020年度の同科目のアンケートと比べて「Q9. 総合的にみてこの授業に満足しましたか？」でポイントが伸びた。（3.42→3.6）また、コメントを見ると、「先生でなければ、このまま英語嫌いが加速し、英語多読に燃えることもなかったと思います」や「英語が苦手な私がちょっと理解出来て、とても分かりやすい解説、分かりやすくプリントなどにしたり工夫されておりとても良かったです」など、「英語に苦手意識を持つ学生を前向きにする」という教育理念がある程度、実現できたのではないかと考える。

「TOEIC（初級）」においては、受講生35名の7月と1月のスコアを比較すると、平均41点アップであった。最もスコアアップをした学生は255点スコアアップした。しかし、2020年度の同一科目では、平均のスコアアップは78点であった。2020年度は受講生にTOEICを集中的に勉強している山形ゼミ（SELICを含む）の学生がいたが、今回は山形ゼミの学生は「TOEIC（初級）」を履修していなかったため、それも原因の一つと考えられる。次年度は、TOEIC教育に最も力を入れる予定のため、受講生のスコアアップを最重要の課題として考えている。

課外活動については、国際交流委員会が湘北祭で制作した「オーストラリアの観光地」の展示が学長賞を受賞したことが成果としてあげられる。企画や製作段階でリーダーと綿密に打ち合わせを行い、コロナ禍で委員会活動に対してモチベーションが低下していた学生たちも動員して制作することができた。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善の取り組みとして、学内の相互授業参観やFD活動に積極的に参加している。また、他大学の教員とのネットワーク（20名程度）を使い、授業運営についての意見交換を活発に行っている。

TOEICやプレイスメントとして使用するTOEIC Bridgeについては、日々、山形教授と教授法や問題傾向を研究している。2022年度には、TOEICとTOEIC Bridgeの学習のためのオンライン教材の開発を具体的に進めることになっている。また、TOEIC Bridge対策を「ジェネラル・イングリッシュ」に組み込むことで学生のスコアアップを目指しているため、その教材の開発と導入も行う。2022年度の最も注力する事項は、このTOEIC・TOEIC Bridgeの教材開発である。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 授業計画を緻密に立て、緩急のあり、魅力的な授業を実施できるようにする。
- 2) TOEICとTOEIC Bridgeのオンライン教材の開発を進める。
- 3) TOEIC Bridgeを「ジェネラル・イングリッシュ」のカリキュラムに取り入れるため、教材を開発する。

II. 長期目標

- 1) 英語に苦手意識を持つすべての学生に「湘北で英語が好きになった」、「わかるようになった」と思ってもらえる授業を引き続き展開する。
- 2) 湘北の学生向けのTOEIC教材（オンライン・書籍）の開発し、LMSで運用できるような体制を整備する。
- 3) 学生に教養レベル以上の多文化社会・異文化理解についての知識をつけ、社会にでてもらう授業を行う。

■前期取組

《月曜・4限 26GC0501 [ジェネラル・イングリッシュ I・II] 畠山 望》

必ずしもアンケートの向上には繋がっていないが、内容が改善できたと思う科目について記述する。2020年度は入職1年目で、対象の学生の英語力や授業に対する態度等が想像がつかなかったため、留学フィールド1年生の「ジェネラル・イングリッシュ・II」に難易度が低い英語テキストを選んでしまった。そのため、SELICの学生にとっては物足りない内容になってしまった。しかし、その反省を生かし、2021年度は日本文化を扱った中級レベルの英語テキストを採用し、さらに多種のアクティビティを入れることによって、前年度より充実した内容になった。2020年度の評価が高かったため、2021年度の評価は少し落ちる形にはなったものの、授業の質は改善したと考える。

■前期改善

《水曜・3限 26GC0109 [ジェネラル・イングリッシュ I] 畠山 望》

私は2020年度、2021年度の2年間に渡って、L学科の「ジェネラル・イングリッシュ」を担当しているが、昨年度も今年度も3限より4限の方が学生からの評価が低い。この2クラスは習熟度では下から1番目と2番目に当たるが、習熟度の差を考慮して、教え方に工夫をすることはしてこなかった。しかし、結果をみると評価の差があるため、2021年度後期からは、下のクラスにはさらに内容をかみ砕いた丁寧な説明を心がけるべきだと考える。

■後期取組

《火曜日・2時限 22510110 [ゼミナール I] 畠山 望》

【アンケート結果の向上につながったと考えられる点】

「ゼミナール」の2020年度の全体評価のポイントは3.51で、2021年度は3.53であったため、飛躍的にポイントが伸びていないが、それぞれの項目を見ると、アンケート結果の向上が見られる。例えば、「Q4. シラバスに示されている学修目標・内容と合致していましたか?」については、2020年度の3.57ポイントから2021年度の3.65ポイントに上がっている。2020年度は湘北に着任して初年度であったため、湘北の学生が興味を持つ学習内容や習熟度がわからず、授業開始後に内容を微調整することが度々あった。2021年度はその反省を生かし、湘北生がより興味を持つトピックを扱いつつ、難易度が高い週とそうではない週を交互に作るなど、緩急のある授業展開をするように意識した。その試

みは「Q9. 総合的にみてこの授業に満足しましたか?」の結果にも表われている。この質問は、2020年度は3.57ポイント、2021年度は3.76ポイントであった。2年次後期に「異文化理解」や「異文化コミュニケーション」についての卒業論文を書くことを認識させ、なぜ、今このトピックを扱っているのか、次の展開にどのように繋がっていくのかを常に意識させるように努めたため、アンケート評価の向上に繋がったと考える。

《月曜・4限 26GC9001 [外国事情] 畠山 望》

【改善すべき点】今年度、初めて担当し、授業運営について最も悩んだ科目である。授業の一部を英語で実施したが、履修生の英語習熟度にばらつきがあり、履修生も多くコミュニケーションが取りにくかったため、理解度を測るのに苦労した。また、1週で内容が完結することが多く、毎週提出物がある授業ではなかったため、出席率が低かった（3.5ポイント）。実際、15回の授業中、5回欠席した学生が数名いた。

【2022年度の具体的な改善方法】英語については、英語で実施する部分について予習や復習をすることで理解を深めるような課題を与えたい。出席率を上げる工夫としては、頻繁にリスポンスペーパーを課し、それを平常点に含めるなど、欠席することで生じるデメリットを学生に感じさせる仕掛けを考えたい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	総合ビジネス・情報	1年	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	2年	22510611	ゼミナールⅡ
前期	総合ビジネス・情報	2年	22552501	外国書講読Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	2年	22553002	外国書講読Ⅱ(留)
前期	国際理解(生活)	1年	26GC0109	ジェネラル・イングリッシュⅠ
前期	国際理解(生活)	1年	26GC0112	ジェネラル・イングリッシュⅠ
前期	国際理解(総合)	1年	26GC0501	ジェネラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1年	22510110	ゼミナールⅠ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22511111	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2年	22553001	外国書講読Ⅱ
後期	国際理解(生活)	1年	26GC0209	ジェネラル・イングリッシュⅡ
後期	国際理解(生活)	1年	26GC0212	ジェネラル・イングリッシュⅡ
後期	国際理解(総合・生活)	2年	26GC9001	外国事情
後期	国際理解(総合、生活)	1年	30GC5002	TOEIC(初級)A
後期	国際理解(総合、生活)	1年	30GC5003	TOEIC(初級)A
前期(集中)	国際理解(全学科)	年	26GC6001	海外英語研修

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

教授

教員氏名

太田 奈緒

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は生活プロデュース学科の教員として、主にファッションに関する授業を担当している。2020年度の担当科目は別記の通りである。

ファッションコースは将来アパレル販売などを旨とする学生が半数を占めるため、コミュニケーション力が増すような授業の組み立てをしている。
「ファッションプロデュース」においては、ファッションショーを企画・運営するための授業であるが、学生たちが主体的に考え行動し、ファッションショーを通して協働の必要性を認識することを目指している。
「布おもちゃ製作」では、子どもサービスコースの授業であるが、ただおもちゃを作るだけでなく、実際に子どもたちに遊んでもらうことにより、子どもたちの発想力を知り、子どもたちとのコミュニケーションの取り方を学ぶことを目的としている。

また課外活動では写真サークルの顧問を務めている。コロナ禍で部員たちと外部に撮影には行けない状態であるが、それぞれの撮影したものを共有することで、サークルとしての自主的な活動が出来るようにサポートしている。

私の教育の責任は、これらの活動を通じて、学生たちの自主性、自分たちで考えて行動する力を育てることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 学生たちが自主的に考え行動できるように、見守ること。
学生たちが、自分たちで考えたことを実行し、例えそれが失敗するとしても、途中で助言はするが手は出さない。失敗することによって、どうすれば成功するのかを考えることが出来るようになることが重要であると考え。
- 2) 専門知識だけでなく、生きていく力を身につけること。
学生たちが社会に出て、学生とは違う厳しい環境の中でも、自分で考え決断する力を持っていることが重要であると考え。
- 3) コミュニケーション力・協働力をつけること。
どんな仕事に就くとしても、一人で働くことは出来ないため、他人とのコミュニケーションの取り方、一緒に働く相手を思いやることが重要であると考え。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上記の理念を実現するために、担当する科目において次のような工夫・方法を行っている。

1) 「ファッションプロデュース」においては、モデルクラスと裏方クラスに分かれているが、お互いの理解を深めるために、裏方の学生にモデル学生にインタビューに行かせている。コースの違う学生間でのコミュニケーションは、最初なかなか上手くいかないが、何度も行うことにより、お互いのやりたいことを理解し、ショーの成功という一つの目標に向けて、一つの方向を向くことが出来るようになる。意見の衝突もあつたりするが、それも自分たちで解決するように仕向け、一つのものを作り上げるには様々な人とコミュニケーションを取り、調整していかなければならないことを体験することにより学んでもらう。

2) 「布おもちゃ製作」においては、おもちゃを作る際に対象となる子どもの年齢・性別を考え、それに合ったおもちゃを考えて作ってもらう。どんな遊び方をしてほしいかも考えて作るが、実際に遊んでもらうと全く異なる遊び方をする。またよいと思って選んだ色も、子どもたちにとっては、それほどでもないなど、実体験により学び、次の製作に生かすように助言を与える。

3) 2021年度はコロナの影響もあり、オンライン授業となった科目もある。「ライフキャリアプランニング」は1年生の後期の必修科目であり、生活プロデュース学科の教員が全員担当する科目でもある。後期が始まり約1カ月オンラインだったため、それぞれの学生に学科教員が一人一人面談し、困ったことはなにかなど聞く機会を設けた。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の授業評価アンケートでは「布おもちゃ製作」では満足度3.86、「子供服と小物の演習A」でも満足度3.86、4.0という高い評価となった。ただ聞くだけの講義ではなく、自分たちで考え、企画し、実行するという授業を行ったことで、失敗体験も含め、達成感を多く感じた学生が多かったからだと考える。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。他の教員の授業を見学したり、自分の授業に対する教職員からのコメントを活用したりすることで、授業内容を組みなおしている。また授業評価アンケートの自由記述欄の学生からの言葉にも対応するようにしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 担当科目の内容にSDGsの内容を取り入れる
- 2) 担当科目の内容にDXの内容を取り入れる (学生にわかりやすいように日常生活の中でのDXの内容とする)

II. 長期目標

- 1) 男女共学に向けてジェンダーレスな教育内容を検討する
- 2) エリア・サブエリアを学生たちの興味に合わせ柔軟に活用する
- 3) 学生の興味ある資格を検討し取り入れる

■後期取組

《火曜・1限 22206002 [子供服と小物の演習] 太田 奈緒》

最初の1カ月がオンラインであったが、通常なら対面で行うことをいかに家で出来るかを考え、授業開始前に必要なものを配布するなどの対策を行った。配布するための事前準備は苦労したが、オンラインでも学生たちはそれなりに作業出来ており、対面授業に入ってから順調に授業を進めることが出来た。

《水曜・2限 30204501 [ライフキャリアプランニング] 太田 奈緒》

2020年度はコロナ対策で教室を2つに分けて中継が多かったが、2021年度は一つの教室で出来たため、学生の満足度が上がっている。(2020年度3.33 2021年度3.60) 次年度以降も全員が興味を持ち、自分事として考えられるような題材を考えて実践していきたい。よりSDGsやDXなどの内容も取り入れる。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1年	22237001	布おもちゃ製作
前期	生活プロデュース	2年	28205501	ファッション基礎実験
前期	生活プロデュース	1年	28205502	ファッション基礎実験
前期	生活プロデュース	1年	28205503	ファッション基礎実験
前期	生活プロデュース	2年	30203501	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	1年	22206001	子供服と小物の演習
後期	生活プロデュース	1年	22206002	子供服と小物の演習
後期	生活プロデュース	2年	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2年	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2年	30204001	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

教授

教員氏名

小泉 綾

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科に所属しており、主に健康教育、運動分野に関する科目を担当する専任教員である。学科の中では、主として運動、健康、介助に関わる科目を担当している。
また、リベラルアーツセンターにも所属し、主としてリベラルアーツ科目の必修科目であるスポーツ科目（生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ）の取りまとめを担当している。

主な担当科目や課外活動については、以下の通り。

1) 生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ

以下のような内容を目標としている。

- ①自発的にスポーツに取り組むための知識や方法を理解する。
- ②身体運動を行うことで自分の身体や精神の状態を把握し、自己の健康保持増進に役立てられるようになる。
- ③他者と協力しながら一緒にスポーツに取り組むことを通じて、社会性を身につけコミュニケーション能力を高める。
- ④感染症、生活習慣病、救急法など、普段の生活に即した健康に関わる知識を深め、健康的な生活が実践できるようになる。

2) 健康科学

以下のような内容を目標としている。

- ①健康の重要性を理解し、健康に関わる身体の構造や機能について理解する。
- ②さまざまな体内リズムについて学び、生活習慣や健康とどのように関係しているかについて、科学的に理解する。
- ③学びの内容から自分の日常生活を見直し、自他の健康を維持する方法を身につける。
- ④「健康管理能力検定2級」を受験し、合格を目指す（任意）。

3) サービス介助演習

以下のような内容を目標としている。

- ①サービス介助士に合格するための知識・技術を習得する。
- ②相手の立場を考え行動できる「ホスピタリティ・マインド」を向上させる。
- ③相手にとって安全で安心できる「正しい介助技術」を身につける。
- ④障害の社会モデルを理解し、普段の生活の中で何が社会の障壁になっているのかについて気付く。

4) 課外活動の指導

永年に渡って学科の学生委員を担当し、学科における学生指導の主担当をしている。

課外活動では、スポーツ大会実行委員会の顧問を担当し、各月に行うミニスポーツ大会や全学行事「スポーツ大会」や学内でのスポーツ活動をサポートしている。

体育館や多目的グラウンドの施設管理も行っており、授業や課外活動で安全かつ有意義な活動できるように留意している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が主体的に考える能力を磨くことや、健康的な生活や行動を選択できる能力を磨くことである。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の5点を重視している。

- 1) 自らの生涯にわたる健康について考え、生涯楽しく充実した生活を送るための知識や方法、能力を身につけること
- 2) 知的好奇心を満たすことや学び続けることは、本来楽しいことなのだ、ということについて、実感を伴って知ってもらうこと
- 3) 教員と学生が「良好な人間関係を築く」ということが、良い教育を行う基盤となること
- 4) 一人ひとりの学生に対し同じ目線で寄り添い、学生指導を丁寧に行うこと
- 5) 即物的ではない「自らの価値観」を育む教育を行うこと

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業や課外活動での指導において次のような工夫を行なっている。

1) 生涯スポーツと健康 I 及び II

- ・授業中に怪我や事故が起きない準備や配慮をする。
- ・その日の授業で実施する授業内容や運動の「意味」について丁寧に解説する。
- ・実際の授業内容に直接活かせる課題で予習復習を行う。
- ・授業で扱った内容について自己の生活にどのように活かせるか、活かしていけるかについて、レポート課題や筆記試験などで確認をする。
- ・できなかったことができた時、達成感や喜びを分かち合えるような授業展開を心がける。

2) 健康科学

- ・最新の知識やデータをもとに健康について科学的に捉えられるような授業を展開する。
- ・学生の意見や感想、疑問について、ミニッツペーパーを使って収集し、まとめたものを次の週に授業でフィードバックする。
- ・授業で行ったことについて自己の生活にどのように活かせるか、活かしていけるかについて、レポートや筆記試験などで確認をする。

3) サービス介助演習

- ・障害者や高齢者の視点で他者に配慮できる介助技術を目指す指導を心がける。
- ・障害の社会モデルを主軸とした授業展開を行い、ノーマライゼーションについて知ること物事を広い視野で捉えることの大切さについて気づきを促す。

4) 課外活動の指導

- ・施設設備の利用にあたってルールを守ることを指導している。
- ・安全にスポーツ活動を行うことへの指導と配慮、準備をしている。
- ・スポーツ施設を利用する学生に積極的に声かけをし、コミュニケーションを密に取ることを心がけている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

全体的な総括で述べると、2021年度の学生による授業評価アンケートでは、概ね学生からの評価は良かったと思う。

今年度も特にスポーツ活動はコロナ禍の影響が大きく、シラバスの内容変更を余儀なくされた授業も生じてしまった。予定していた実技ができなかったりしたため、スコアが低い項目があった。

しかし、昨年度の反省を踏まえて行ったオンラインやオンデマンドでの講義は、具体的な例を多く挙げて分かりやすい授業展開の工夫をしながらの授業を心がけたり、Googleフォームを使って感想や意見を集めフィードバックを丁寧に行うことを心がけたため、学生からのコメントを見ると概ね満足度も高った。よって、概ね目標は達成したように思う。

ゼミナールの授業評価が顕著であるが、学生との良好な人間関係を築くことやコミュニケーションを密に取ることは、今年度もうまくできたように感じる。今年度のスポーツ活動は昨年度同様まならなかったが、学業成績の悪い学生が多かったため就学支援や就職活動を個別指導で親身に行った分、学生の満足度は比較的良くなったのだろうと推察される。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

今後の授業改善への取り組みとしては、以下の3点について取り組むこととする。
 1) これまで通り相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加をする。それらを通じて、自らの授業を客観的かつ俯瞰的に捉え、ブラッシュアップできるような努力をする。

2) 学会や研究会での研究活動を積極的に行い、他大学の教員や教育と積極的に接点を持つ機会を増やす。

3) スキーを通じた社会的活動の幅を広げ、自身の教育に還元する努力をする。

- ・学生だけでなく子供～高齢者への指導を積極的に行う。
- ・公認スキーパトロールとしての活動の幅を広げる努力をし、救急処置や搬送技術について知識や技能を深める。

今後の教育に関する短期目標、長期目標は、それぞれ次の通りである。

I. 短期目標

1) 授業教材のブラッシュアップ（最新の話題やデータを積極的に使う、PPTの工夫など）

2) オンラインやオンデマンド授業の積極的な導入（サービス介助など）。それに伴って、実技演習科目の充実を計る。

II. 長期目標

- ・学科の専門科目やLA科目としてのスポーツ科目、健康教育関連科目の充実（選択科目の導入など）

■前期取組

《木曜・1限 22LA0806 [生涯スポーツと健康Ⅰ] 小泉 綾》

① 既往症調査の実施と教務・学生部、健康相談室、なんでも相談室との共有。

② 授業開始前に、感染症対策の徹底と感染症に関する話を毎回実施。

どちらも健康に関わる安全対策のために実施した。

コロナ禍の中でなるべく楽しく安全に運動（スポーツ）が楽しめる時間を取るようにした。

■前期改善

《水曜日・3時限 30203503 [ゼミナールⅠ] 小泉 綾》

コロナ対応で予定の変更をせざるを得なかったこと。

スポーツ活動はかなり制限されてしまった。

来年度も状況が変わらない場合は、シラバス作成時点から内容を変更する必要もありそう。

自発的に学習に取り組んだり就活を前向きにできない学生に対し、もう少し手厚い指導が必要だった。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	2年	22244502	サービス介助演習B
前期	リベラルアーツ(総合)	1年	22LA0806	生涯スポーツと健康 I
前期	リベラルアーツ(生活)	1年	22LA0807	生涯スポーツと健康 I
前期	リベラルアーツ(生活)	1年	22LA0810	生涯スポーツと健康 I
前期	生活プロデュース	2年	30203503	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	1年	22244501	サービス介助演習A
後期	リベラルアーツ(生活)	1年	22LA1007	生涯スポーツと健康 II
後期	リベラルアーツ(生活)	1年	22LA1008	生涯スポーツと健康 II
後期	リベラルアーツ(生活)	1年	22LA1009	生涯スポーツと健康 II
後期	生活プロデュース	2年	30204003	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1年	31218501	健康科学

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

教授

教員氏名

水上 裕

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科に所属し、インテリアデザインコースのコース主任である。主にインテリアや住環境に関する科目を担当し、インテリアデザインコースをマネジメントしている。一方、自立した女性を育てる学科共通科目や社会人基礎力を高める科目を担当している。

2021年度の担当科目は、別記のとおりである。

生活プロデュース学科は、心身ともに快適で豊かな生活を創り出していくとともにビジネス社会で活躍する女性を育てるため、学生が社会人になる前に、快適な住まいや安全な住環境の知識を身につけ、住空間の企画・計画提案ができるよう指導している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

1) 学生が健康的な暮らしに必要な知識と技術を身につけ、自己管理能力を磨き続けること。

(学生は、自らの安全、安住、健康管理を心がける生活習慣を身につける)

2) 学生に目的意識を持たせ、目標をたててゴールに向けて努力し、到達することができるようサポートすること。

(学生は、学生生活を充実させ、専門能力を高めることで自信をつける)

3) 生活者の立場を基盤としつつ、ビジネス社会で活躍できる実践的な内容を優先すること。

(学生は、就職活動での自己PR力を高めるとともに未来を見据えた行動を行う)

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育の理念を達成するため、次のような授業を行っている。

「環境と暮らし」の授業では、拙著「インテリア・ガール」を活用し、住環境や住宅建築の理解を深め、健康で快適に暮らすための住まいと住まい方を身につけるよう工夫している。毎回プリントを用意し、学生はオリジナルノートを完成させている。

「インテリア設計Ⅱ」の授業では、インテリアデザイン技能検定をレバレッジに設計技能を磨く。学生は設計技術を身につけることと時間内で仕上げることの2点について予習・復習を重ね、段階的に設計技術が身につくことで自信をつける。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では学びの集大成として、店舗併用住宅の設計指導を行っている。学生は、インテリア設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、食空間プランニング、インテリア構法等と連携した学びであることを理解し、更に発展させようと目標を定め、予習・復習に励み、成果を上げる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2年後期科目「環境と暮らし」では、オリジナルテキストの活用だけでなく、最新の専門書・専門雑誌内容を点検し、学生の興味関心を引き出すよう内容の充実を図った。学生の学習度を見ながら有用な情報はプリントにて提供し一部書き込み式により集中力を高めた。授業評価アンケートの結果は執筆時未定、授業種別ごとの集計として本学 Web サイトで公表予定。

1年後期科目「インテリア設計Ⅱ」では、インテリアデザイン技能検定合格を目標に掲げ、製図の技術を身につけることだけではなく、時間内に仕上げなければならないため、集中力を高めるというレバレッジ効果があった。インテリアデザインコースの学生が受験し成果を上げることができた。合格率は執筆時未定、今後、事業計画と自己点検・評価報告書にて公表予定。

通年科目「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、インテリアショールームのディスプレイや卒業制作を行なった。学生は授業時間外にも教室にて熱心に取り組み、卒業制作展を開催することができた。そのプロセスは就職活動において自己PR力の強化につながり、ゼミ生の実就職率につなげることができた。就職率は執筆時、継続中により未定。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。今後の教育に関する目標は次のとおりである。

- 1.学修成果の見える化を実践する。
- 2.インテリア設計Ⅰにおいて、ループリックを更新し、学習成果を上げる。
- 3.資格取得をレバレッジに学力向上、合格率アップを目指す。

■前期取組

《金曜・2限 25205003 [色彩学A] 水上 裕》

色彩検定が中止となったことを受けて（2020年度夏期検定：新型コロナウイルスの感染拡大防止による）、1年前期の選択科目「色彩学」は2年時に受講できるようにした。就職活動と並行することもあり、受講希望者が減ると思われたが、インテリアデザインコース全員が受講を希望し授業の目標を達成することができた。授業アンケートのQ6「授業資料について」は3.50と高評価を得ることができた。

■前期改善

《水曜日・3時限 30203502 [ゼミナールⅠ] 水上 裕》

ゼミナールの授業アンケートQ2「予習・復習への取組み」において、学科平均値が2.02に対し、本ゼミナールでは3.30という高い値であった。一方、Q5「授業の進行の早さ」について、学科平均が3.59に対し、本ゼミナールでは2.90と低い評価であった。このことから、学生は熱心に取り組んだものの、課題が重く、進み方が早いという評価が読み取れる。卒業制作を進める上で、後期の条件(新型コロナ対策)を見据えて成果をあげようとするあまりプレッシャーをかけすぎたと考えられる。後期はもっと学生の声を受け止めながら授業展開を図っていく。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

資料1：テキスト(インテリアガール),資料2：「環境と暮らし」配布プリントの抜粋,資料3：学習プロセス・授業の様子(1222インテプロのビフォーアフター),資料4：ゼミナール卒業制作展O122

関連リンク・別途資料

https://drive.google.com/open?id=15dkM8Zl4XQwzX_C2i0lwrYksclerh0ZF,
https://drive.google.com/open?id=1X30wQvUwW09Yb_go0KEiQwcOm1YXbGiC,
<https://drive.google.com/open?id=1HTl5Kan3rkRoZURhstNairajiml5mJYMy>,
<https://drive.google.com/open?id=1U8NjRGhask3YXm88hSAJXuQmxi130YHB>

特記事項

特になし

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	2年	25205003	色彩学A
前期	生活プロデュース	1年	25205005	色彩学A
前期	生活プロデュース	1年	26226001	インテリア設計 I
前期	生活プロデュース	2年	28230001	インテリア設計Ⅲ
前期	生活プロデュース	2年	30203502	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	2年	24234501	インテリアデザインプロデュース
後期	生活プロデュース	2年	26224501	環境と暮らし
後期	生活プロデュース	2年	26224502	環境と暮らし
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0206	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0406	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0506	インターンシップリテラシー
後期	生活プロデュース	1年	28229502	インテリア設計 II
後期	生活プロデュース	2年	30204002	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

教授

教員氏名

吉川 光子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、生活プロデュース学科の教員として、専門教育科目の「食生活と健康」「食品と調理」「トータルクッキングⅠ」「トータルクッキングⅡ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「食の企画と演出」を担当している。あわせて学科共通科目の「生活プロデュース概論」「ライフキャリアプランニング」を他の専任教員と共に担当している。

私の責務は、学生が食物と食生活について適切な知識や技能を身につけ、生涯にわたり、健康で豊かな食生活を実践できるように教育することである。また、学ぶことの楽しさ、その価値に気づかせ、卒業後仕事の現場にあっても常に学び続ける姿勢をもつよう教育することである。それは知識を与えることにとどまらず、演習や実習を通し学生自らが考え動けるよう環境を整え、学生が総合的な力をつけるための学びの機会を整えることが重要と考えている。フードコースの主任として、他の教員との協力のもと、その責務を果たしている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学での教育活動において次の3つを重視している。

1. 食に関して広い視野と柔軟な思考をもち、諸問題に対応できる人を育成する。
2. アクティブラーニングの場を整え、学生が周囲の人々とコミュニケーションをとりながら学び、成長する過程をサポートする。
3. 学生自身の学びに対するモチベーションを高めることで「主体的な意欲・行動」を引き出す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の理念を実現するため、毎年授業内容と授業展開を見直し、同じ内容でも伝え方の工夫を重ねている。

「トータルクッキングⅠ」「トータルクッキングⅡ」はフードコースの全員が受講する科目であるが、学生が主体的に参加して調理の手法を学ぶだけでなく、グループでコミュニケーションをとりながら作業を行う。日常の食事から、初めて食べる異国の料理、行事食まで「自分が作る」経験をし、「食」に関する視野を広げるとともに、「食」が身体だけでなく精神面に影響を及ぼすこと、社会的側面、自分と異なる他者の嗜好について、など様々な気づきを得られるよう図っている。

食に関する知識と技能の定着には、習った知識を他者に教える、料理を作って共食する、といった行為が効果的であるため、家庭での調理を推奨し、学生が自然に繰り返し学習できるように努めている。2021年度は、調理の工程の一部を自宅で予習、復習するためのオリジナル動画の作成およびyou tubeでの配信を試み、トータルクッキングⅡの教材として使用した。

「食の企画と演出」「ゼミナールⅠ、Ⅱ」はアクティブラーニング主体の科目であるが、複合的な学びの中で学生の主体性を養うには、教員と学生との関係に注意を払う必要があると考えている。教員側が物事をスムーズに進めようとする、用意した筋書き通りに学生が迷わず進むことを良しとしてしまいがちであるが、学生が真に成長するためには、個々の持つ力を信じる、信じて待つことを大事にし、時間がかかってもいねいに対応することに努めている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度授業評価アンケートの結果より

全体的に実習科目は学科平均よりも評価が高く、演習、講義科目は学科平均と同程度かそれより上の評価であった。

【トータルクッキングⅠ（前期）・トータルクッキングⅡ（後期）】
 コロナ感染防止のために、従来よりも厳しく衛生面の指導をし、試食時は黙食としているが、このような中であっても調理をする楽しさが感じられるように配慮し、実習を通して知識や技能だけでなくコミュニケーション力など、総合的な力がつくよう内容を工夫した。授業評価アンケートの結果（設問B平均）はトータルクッキングⅠ（Aクラス）は3.73、Ⅱは3.74と高かった。またトータルクッキングⅡでは、予習・復習用の動画を用いたことで、例年よりも実習時間の延長が少なくなり、昨年（3.63）を上回る結果につながったと思われる。調理実習は元来学生にとって楽しい要素のある授業であり授業評価アンケートの結果は高く出がちであるが、学生に何が身に着いたかは分けて考える必要がある。そこで前後期の終了時に別添のアンケート調査（エビデンス アンケート調査結果（「トータルクッキング」でスキルアップした点））を行い、授業を通してスキルアップしたと感じている点を回答させた結果、後期（Ⅱ）終了時には【メンバーと協力して作業を進めること】【食材についての知識】【調理方法についての知識】【説明を聞いてメモをとること】【パソコンでレポートをまとめること】がスキルアップした、と答えた学生が各々87%以上であった。また【食材を切ること】をスキルアップした点として回答した学生は前期終了時50%にとどまったが後期終了時に75%まで上がっていた。今後の授業での指導内容の検討に生かしたい。

【食の企画と演出】はフードコース2年生が取り組む演習科目である。2020年度のアンケート結果は3.32（設問B平均）であったが、今年度3.66となり、学科の平均値3.42（前期科目設問B平均）よりも高かった。今年は、例年と同じく2つの企画に取り組んだが、その一つが広報部との連携で、オープンキャンパスに参加する高校生への菓子ギフトを考案した。普段の調理とは異なる制約がある中で形になるまでを経験し、企画することの面白さに気づけたようである。その結果、当科目への総合的な満足感につながったと思われる。

【ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡ】
 ゼミナールⅠ・Ⅱは「調理を通して食物を学ぶ」をテーマに開講している。今年度はオンラインになった時期もあり、実習内容の見直し、感染防止対策の徹底、イベントの中止などで従来のゼミの内容が否応なく制限を受けた。そのこと自体は満足度へのマイナス要因と思われたが、プラスの側面として限られた実習回への積極的な取り組みにつながり、またZOOMを活用しての面談を柔軟に取り入れたことで、Q13(学生とのコミュニケーション)の結果が前年度よりも高くなった。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育の改善に向けた今後の目標

学内で開催されるFD、SD研修にはほぼ毎回参加している。また、授業参観週間には他の授業を見学し、参考にできる点を探している。毎年のシラバス作成時には、前年度の授業評価アンケートの結果や学生が書いた振り返り、直接の対話で得られた情報をふまえ、授業内容や構成についてアップデートしたシラバスとなるよう努力している。

今後の目標は次のとおりである。

1) 短期的な目標

1. 「わかりやすさ」を学生側の視点から検討する。
2. 「役立ち感」が得られる中身の工夫。
3. 講義、実習に落ち着いて取り組める環境づくり。

2) 中・長期的な目標

1. フードコースの科目間の連携をはかり、2年間の学びを通し総合的に効果が上がるように履修モデルを整える。
2. 地域に貢献できるような学びの導入。
3. 学生や卒業生が学年を超えて互いに関わりをもち、学び合い、高め合える機会を提供する。

■前期取組

《火曜・2限 26222001 [食の企画と演出] 吉川 光子》

食の企画と演出（2年前期 フードコース必修科目）

昨年は同科目の平均は3.32（設問B平均）であったが、今年度3.66となり、学科の平均値3.42（設問B）よりも高ポイントを得ることができた。今年度は、例年と同じく2つの企画に取り組んだが、その一つが広報部との連携で、オープンキャンパスに参加する高校生へのお菓子のギフトを考案する、というものだった。教員として心掛けたこととして、学生の小さなアイデアも大切に引き出し、発想を型にはめずに「試す」ことを促した。普段の調理とは異なる制約がある中で形になるところまでを経験し、企画することの面白さに気づくことができたようである。その結果、科目への総合的な満足感につながったと思われる。

■前期改善

《月曜・2限 R3216001 [食生活と健康] 吉川 光子》

食生活と健康（1年前期 フードコース必修 他コース選択（1,2年））

この科目はフードコース1年生の前期に設置され、2年間の学びの基礎をつくる重要な科目である。そのため内容を整え、十分な準備をおこなった上で講義を行ったにもかかわらず、授業評価アンケートの結果は3.38（設問B平均）と学科の平均を下回る状況であった。授業実施期間中にも学生から、スライドの文字、授業スピード、学生同士の私語についての意見があり、随時対応を心掛けたが、すべては改善できないまま終わった。また選択科目としての受講者が増えて人数が多くなった（62人）ことで、学生との双方向性の実現も難しかった。アンケートの記入では自由回答を積極的に書いて欲しいと伝えたとところ多くのコメントがあったので、参考にしたい。「生活に役立つ情報が多く、この授業を選択してよかったと思った。動画などを観てより詳しく知ることができた。」「授業中の騒がしさが時々気になることがありましたが、授業内容はこれから生活していく上でとても大切なものばかりで、とても勉強になりました。ありがとうございました。」「メモを取るのに必死で内容を理解することよりもメモを取る授業でした。」「などのコメントからわかることは、講義内容は学ぶべきこととして受け入れられているものの、授業の進め方（スピード他）、落ち着いて学べる環境づくりへの改善が必要なことが明らかだった。他の授業や次年度の同科目において生かしたい。

■後期取組

《金曜・3限 23221501 [トータルクッキングII] 吉川 光子》

トータルクッキングⅡは調理実習であり元来学生が興味をもっている科目であるため、評価は例年おおむね高い。しかし実習内容が複雑になり、授業時間が延長することが多いのが課題であった。今年は、調理プロセスの一部を説明する動画をいくつか撮影し、例えば〈パン生地作り方〉〈イカのさばき方〉など、該当する実習の前にYouTubeにアップロードして予習を課した。学生はよく見て理解して授業に臨むため、例年よりも実習時間の延長が少なくなり、結果として昨年を上回る授業評価につながったと思われる。次年度はさらにこの予習用動画を増やしていきたい。

《火曜・1限 R2220501 [食品と調理] 吉川 光子》

「食品と調理」はオンラインで行った授業で、受講生の半数がフードコース、半数がその他のコースの学生であった。ほとんどの設問は学科平均を超えていたが、設問3【学生自身の取り組み】が平均を下回っていた。授業の中では、講義の中で学生に問いかけチャットで回答させるなど、興味を持ち参加できるような工夫を行ったが、全員が積極的に取り組んだとは言えなかった。また授業を録画したものをすべて公開し、いつでも復習できるようにしたことが、授業時間の緊張感を低下させた可能性が考えられる。次年度もオンラインで行う予定だが、このことを踏まえ、学生一人一人の授業への積極性を引き出す工夫をし、またそれを（表情を目視できない中で）確認できる手段を考えたい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

アンケート調査結果（「トータルクッキング」でスキルアップした点）

関連リンク・別途資料

<https://drive.google.com/open?id=1CCicydH4w-rKNP03ZSPcOe91N-uCLaVP>

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	2年	23216501	トータルクッキング I B
前期	生活プロデュース	1年	23216502	トータルクッキング I A
前期	生活プロデュース	1年	23216503	トータルクッキング I B
前期	生活プロデュース	2年	26222001	食の企画と演出
前期	生活プロデュース	2年	30203504	ゼミナール I
前期	生活プロデュース	1年	R3216001	食生活と健康
後期	生活プロデュース	1年	23221501	トータルクッキング II
後期	生活プロデュース	2年	30204004	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2年	R2220501	食品と調理

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

准教授

教員氏名

大塚 映

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生生活プロデュース学科の教員として、主に医療系、ビジネス実務系、キャリア系の科目を担当している。2021年度の担当科目は別記のとおりである。

「患者接遇とコミュニケーション」では、医療従事者としての役割や心構え、患者対応における患者心理の理解、また、対応における言葉遣いや接遇スキルなどの実践力の習得を目指し教育を行っている。

「公衆衛生」では、健全に社会生活を送る上で重要となる様々な環境要因や日本をはじめとした世界の状況を知り、今後の人生に向けてしっかりとした考えを習得できるよう教育を行っている。

「接客サービス特講」では、様々な接客業に従事するサービススタッフの心構えや接遇スキルなどの基本知識・実践力の習得を目指し教育を行っている。

「オフィスワーク演習」では、社会人として仕事をする上で大切なビジネスマナーの知識や来客対応・電話対応などの実践力の習得を目指し教育を行っている。

「キャリアリテラシー」では、社会における業界や業種、職種などの仕事への理解と共に、ビジネスマナーについても学びながら、自分の将来設計をしっかりと考えることを目指し教育を行っている。

「インターンシップリテラシー」では、社会に出る前の就業体験を通して、仕事をするものの意味や自分の適性を探り、自分の将来をしっかりと考えることを目指し教育を行っている。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、社会人としての基本行動の習得や医療現場で起きる様々なテーマを扱ったケース・スタディを通して、医療の現状を把握し考察する力・適応する力の習得を目指し教育を行っている。

「生活プロデュース概論」は、学科の教員全体で衣食住の観点から教育する科目で、将来において社会で輝いて活躍できる女性を目指す内容となっており、その中で講義では社会生活と医療を担当し、健全かつ円滑に社会生活を送れることを目指し教育を行っている。受持ちクラスの学生との面談も実施している。

「ライフキャリアプランニング」も学科の教員全体で指導する科目で、やはり、将来において社会で活躍できる女性を目指す内容となっている中で、食事のマナーの講義を担当し、洋食・和食のマナーの基本知識の習得を目指し教育を行っている。また、医療事務コースの学生との面談も実施している。

また、課外活動では、「パーティ委員会」の顧問を担当しており、コロナ禍でも学生が自主的に活動できるよう見守りながら、適宜アドバイスを行い、指導にあたっている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通して、学生が自分で考える力、自分で行動できる力を身につけることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、下記の点を重視している。

1) 自分で考える力を習得させること

課題に対しての解答を得る前に、まずは自分で考え、自分の意見を持ち、それを他者に分かりやすく伝え、他者からの意見も吸収し、視野を広く持てるようになることを目指して教育を行っている

2) 基本知識や専門知識と共に、コミュニケーション力・実践力を身につけること

人の行動は知識が基になって行動として現れるものであるため、まずは知識を身につけ、人との関わりを工夫しながらそれを実践できるようになることを目指して教育を行っている

3) 課外活動なども通して、積極性・協調性・行動力を身につけること

授業以外でも様々なことに挑戦・経験して、自分から行動する意思をもって、人としての幅を広げられることを目指し教育を行っている

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上記の考えを実現するため、担当する授業において、次のような方法や工夫を行っている。

- 1) 「患者接遇とコミュニケーション」では、医療秘書の心構えや患者対応の現場に添った内容となっているテキスト：現代医療秘書ワークブックやオリジナルのプリントを使い、動画学習やグループディスカッション、ペアワークも取り入れながら授業展開を行っている。
- 2) 「公衆衛生」では、社会生活の様々な領域からテーマを取り上げ、スライド資料を使った内容の解説と共に、動画の視聴も取り入れて知識の定着を図りながら、授業展開を行っている。授業に参加意識を持たせるために復習かつ提出物として、授業後に自分の考えを提出させている。皆の意見は一覧表にしてeラーニングにアップして共有し、考えの幅を広げられるよう工夫している。
- 3) 「接客サービス特講」は、受付・サービススタッフとしての心構えや接客・接遇の基本が身につけられるよう秘書検定のテキストやオリジナルのプリントを使い、グループディスカッションも取り入れながら授業展開を行っている。また、様々なサービス業における現場の状況を知る機会として、外部講師による専門家講話を数回実施し、業界や業務内容について視野を広げられるようにしている。講話の後には自分の考えを提出させ、皆の意見は一覧表にしてeラーニングにアップして共有し、考えの幅を広げられるように工夫している。
- 4) 「オフィスワーク演習」では、組織内外における社会人としての言葉遣いや来客対応・電話対応・ビジネスレター・ビジネスメールなどについて、テキストで基本知識を身につけさせた上で、実際に動けるようロールプレイング、ペア練習などの演習やPC教室で実際に作成するなどの授業展開を行い、実際の仕事として動ける・使えるスキルを身につけられるよう工夫している。
- 5) 「キャリアリテラシー」では、様々な職種やケースを扱ったテキスト：ケースで学ぶビジネスの基礎を使いながら、予習としてテキストを読みワークをこなすことで仕事に対する自分の考えを持ち、授業内ではグループディスカッションなどで自分の意見をメンバーに伝え他者の考えも臨機応変に吸収するなど、考えの幅を広げられるような工夫を行っている。事後学習としては、後々にテキストの評価があり、毎回きれいにまとめておくことを伝え実践させている。
- 6) 「インターンシップリテラシー」では、テキスト：ワークで学ぶインターンシップリテラシーを使い、教員の体験談も交えながら、インターンシップ実習や就職活動に興味・意欲が沸くように授業展開を行っている。テキストはただ読むだけではなく、ポイントとなる重要な個所を質問したり、実際に自己紹介書や実習への意気込みを作成させたり、自己PRを行うプレゼン面接を実施したりなど、授業への参加意欲も持たせる工夫を行っている。
- 7) 「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、社会人としての在るべき行動や医療の現場を扱ったテーマについて、教員が用意したものだけではなく、学生自身にも事例を調べて授業内で提示させ、状況の説明・考察のポイントなどを解説させ、自ら意欲的に取り組む姿勢を持たせるなどの工夫を行っている。また、卒業研究課題や組織・医療に関連した推奨映画・推奨書籍などの発表プレゼンもゼミ内で行い、それらの内容を成果物として小冊子に製本し配付して、達成感を感じられるようにしている。学生とのコミュニケーションでは適切な距離感を考えながら、学生生活や就職活動について声掛けや支援を行っている。
- 8) 「生活プロデュース概論」では、学科全体で教育を行う中で、自分が担当した社会生活と医療の講義では、スライドと配付プリントで、普段の社会生活で知っておいたほうが良いことや今後の女性としての人生において気をつけるべきこと、それらにおける社会の取り組みなど、身近に感じられ、かつ今後の意識向上に繋がるような内容を工夫して行っている。
- 9) 「ライフキャリアプランニング」では、学科全体で教育を行う中で、自分が担当した食事のマナーの講義では、コロナ禍で実際にテーブルマナー研修として実施することができなかった内容を動画映像で理解させ、スライド資料と振り返りプリントで知識の定着を図る工夫を行っている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

今年度の学生による授業評価アンケート結果は、下記の内容などが挙げられた。

1) 「患者接遇とコミュニケーション」では、概ね良好な結果で、「医療秘書についていろいろなことを学べた」「将来のためになる内容ばかりなので、前期だけで終わる授業なのが残念」「分からなくても、先生が細かく教えてくれた」「パワーポイントが分かりやすかった」「皆で参加したすごく楽しい授業だった」などの回答があり、自分で考える時間・グループディスカッションも行ったことが良かったものと思われる。

2) 「公衆衛生」では、「今後の社会生活においてとても重要な内容であり、日本だけでなく世界全体の環境や暮らしなど様々なことを知ることができるので、とても良い授業だったと思う」、「スライドと説明するスピードが適切で、聞き取りやすかった」、「毎回資料が貰えるため、非常に分かりやすかった」など概ね良好な回答があった。解説と共に動画を取り入れたことが良かったものと思われる。「スライドに3色ほど使われていて、どこが一番大事なのか今一分からなかった」とあったので、色分けについて説明することが課題として挙げられる。

3) 「接客サービス特講」では、「接客の基礎を学ぶことが出来た。働く上で必要なこと、一般常識として必要なことなど、新しい発見がたくさんあり、毎週の授業が楽しかった」、「企業の方の講話がたくさんあり、今後活かしていきたい」、「パワーポイントと先生の説明がとても分かりやすかった」、「チャットの使い方が良かった」など概ね良好な回答があった。やはり、自分で考える時間・グループディスカッションも行い、普段の授業だけではなく、現場の方の講話もあることが良かったものと思われる。「専門家の講話をもっと増やしてもいい」とあったが、あまり多すぎてもどうかと思われるため、今後の課題とした。

4) 「オフィスワーク演習」では、「自分達が社会でできて当たり前な基本マナーや常識を細かく隅々まで学び、どの単元も自分にとって役立つものであり、この科目をとって良かったと心から思った」、「社会人になる心構えができた」、「実際に教室で演習したり、パソコンで作成したり、ただ講義を受けるだけよりも身についた気がする」など概ね良好な回答があった。ロールプレイングの演習で実際に実践してみたことが良かったものと思われる。

5) 「キャリアリテラシー」では、「人間関係やコミュニケーション、ビジネスマナーなど、この授業で話を聞けないうえ、未だに分からないこととかが沢山あったと思うので、ためになることが多くて、良かった」、「先生の話聞いて自分で理解できたり、グループで話し合ったり、自分にはない意見を聞けたりして、色々な考え方ができた」、「先生も分かりやすい」など概ね良好な回答があった。グループディスカッションの席替えについては「コースごとにしてほしかった」といった記述もあったが、違うメンバーで行ったことについては良かったものと思われる。コースごとについては、今後の検討課題としたい。

6) 「インターンシップリテラシー」では、「テキストを活用しながら、大切な要点をしっかりと押さえて学ぶことができた」、「先生がとても分かりやすく、実際に対面で授業をしているみたいだった」、「オンライン授業では珍しく、一人一人がしっかりと発言する機会があり、とても新鮮だった」、「自分の意見をしっかりと持って、インターンシップへの考えや知識を深めることが出来た」など概ね良好な回答があった。オンライン・対面に関わらず、発言の機会を設けたことが良かったものと思われる。

7) 「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、「医療について、いろいろ細かく知ることが出来て、今後活かすことができるのではないかなと思う」、「どの授業よりも楽しかった」などの回答があり、楽しくかつ興味をもって取り組める内容を工夫したことが良かったものと思われる。

8) 「学生生活サポート」については、ゼミの時間に各学生の近況や課外活動について折に触れ、図書館の多読賞1位や日本語・英語プレイスメントテストなどで良い結果だった学生については、皆の前で褒めるなどして自信を持たせるようにした。アルバイト先の悩み事の相談に乗るなど、概ね良好なコミュニケーションが取れていたようで良かったと思われる。

9) 「就職サポート」については、「親身になって聞いてくれたり、アドバイスをくださったりなど、忙しい中でも就職活動についてご相談に乗ってくださるので、とても助かっていた」など概ね良好な回答があった。面接日には励まし、あまり動いていない場合は視点を変えてみることを、面接に落ち続けている場合は一緒に原因を探り具体的なアドバイスをするなどしたことが良かったものと思われる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

授業内容として、説明やスライド資料は概ね分かりやすかったという授業評価であったが、予習・復習に当てた時間が少ないようであったため、これまでも授業後には考えたことなどのまとめを提出させていたが、全体的に今後はもう少し事前・事後の課題を検討していきたいと思う。

また、授業相互参観コメントの中に、「学籍番号順に座っていて空席を確認すれば欠席が分かるのに、一人ひとり点呼を取る非効率的な出欠確認の仕方をしていた。大いに改善すべき」というものがあったが、ただ欠席者が分かれば良いというものではなく、教員には一人ひとり点呼を取る目的・意図があり、それはその授業における学生と教員の最初のコミュニケーションであり、学生にこれからこの授業を始めるというスイッチを入れることでもあり、学生の返事の声でその日の体調や性格などが把握できることなどがある。この出欠確認の方法は他の教員も行っているようであり、実際に効果を感じていることから、学生と教員のさらに円滑なコミュニケーションを目指して継続していく予定である。

■前期取組

《火曜・2限 26BU0107 [キャリアリテラシー（社会人基礎）] 大塚 映》

自分でしっかりと考えてくる課題を毎回出し、授業中には自分の考えだけではなく、他者の意見も聞く、話し合う、全員へ向けて発表するというグループディスカッションの時間を毎回取り入れた。

■前期改善

《金曜・2限 31281501 [患者接遇とコミュニケーション] 大塚 映》

実践力につながるようにグループディスカッションやペア練習なども取り入れ、席を変えたりした際に、その都度机を拭くことをしなかったため、今後は改善していきたい。

■後期取組

《金曜・1限 24238702 [接客サービス特講] 大塚 映》

サービス業におけるお客様対応の知識やスキルをオリジナルのプリントを使い身につけられるよう工夫した。まず自分で考え、グループワークで他者の意見を聞いて吸収するという形にして視野を広げさせた。また、実際の現場での仕事や接客対応を知る機会として、様々な業界から専門家による講話を数回実施し知識を深めさせた。以上のようなことなどが学生の興味・関心・意欲につながったものと思われる。

《木曜・2限 31283501 [公衆衛生] 大塚 映》

PPTスライド資料において3色ほどの色分けを使ったが、どの色が一番重要なのか今一不明だったとの声があったため、色分けに関して授業前にしっかりと説明することと不明な点は自ら質問することの大切さを伝えていきたいと思う。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	就業力育成(生活)	1年	26BU0106	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	就業力育成(生活)	1年	26BU0107	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	生活プロデュース	2年	30203505	ゼミナール I
前期	生活プロデュース	1年	31281501	患者接遇とコミュニケーション
後期	生活プロデュース	1年	24238701	接客サービス特講
後期	生活プロデュース	1年	24238702	接客サービス特講
後期	生活プロデュース	1年	26251504	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1年	26251505	オフィスワーク演習
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0207	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0407	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0507	インターンシップリテラシー
後期	生活プロデュース	2年	30204005	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2年	31283501	公衆衛生

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

准教授

教員氏名

築瀬 千詠

1. 教育の責任（何を行っているか）

2021年度の担当科目は別記（教務課作成）の通りである。

（1）「ゼミナールⅡ」：テーマは「映画で学ぶ社会学」。授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①社会的な視点から作品制作者の意図や描かれたテーマとその背景を探り、作品を論評することができる。②女性活躍、働き方改革、ジェンダー平等、多様性の受容、共生社会のあり方などについて、自分の考えを論理的に説明できるようになる。③SDGsを切り口として、実社会における諸課題を知り、自分は社会のどの分野でどう貢献できるか、考える機会を持つことができる。④コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけ、就職活動に自信を持って臨むことができるようになる。

（2）「キャリアリテラシー（社会人基礎）」：授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①働くことの意味や仕事の種類と内容について考え、自分の将来像を具体的にイメージできるようにする。②組織における階層や人間関係について学び、社会におけるコミュニケーションのあり方を理解する。

（3）「オフィスワーク演習」：学科の共通必修科目の主担当であり、学科教員が代々作成してきた学科独自のテキストの改編も担当している。授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①社会人としての常識や心構え、職場で必要なビジネスマナーが身につく。②練習問題やロールプレイングに繰り返し取り組むことで、臨機応変に自分で考え、話し、書く力がつく。③職場で使われるコミュニケーション手段の特徴を理解し、使いこなせるようになる。④インターンシップや就職活動に自信を持って臨めるようになる。⑤授業で身につけたことは、就職後も役に立つ。

（4）「インターンシップリテラシー」：授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①実習先で求められる実践的な能力を身につけ、自信を持って周囲とコミュニケーションがとれるようになる。②インターンシップにとどまらず、就職活動にもつながる社会常識やマナーを習得する。

（5）「現代女性の社会学」：授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①現代女性が抱える様々な課題について客観的に考察できるようになる。②卒業後のライフキャリアプランについて、具体的な見通しを持つことができるようになる。③国連のSDGs(Sustainable Development Goals)への理解を深め、地球規模の課題解決に必要な視点や自分自身にできることを考えられるようになる。④グループワークを通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が身につく、就職活動に活かすことができる。

以上の通り、私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生に様々な「気づき」を与え、一人ひとりの自立を促してより良い人生を歩めるように導くのと同時に、自分の能力や才能を他者のために惜しみなく使える人間を育てることにある。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において「社会人基礎力を身につけること」を重視している。社会人基礎力とは、以下のような力である。すなわち、主体的に取り組む力、他者に働きかける力、実際に行動する力、課題を発見する力、計画的にものごとを進める力、新しいことを創造する力、自分の考えを他者が理解できるように発信する力、人の意見を聴く力、異なる意見や立場を理解する力、状況を客観的に判断できる力、ルールを守る力、ストレスをうまくコントロールする力である。これらの様々な力は、卒業後、長い人生を生きていく上で欠かせないものである。在学中のあらゆる局面を教育機会ととらえ、学生自身が「気づき、学び、身につける」ことを大切にしている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を実現するため、担当授業において、次のような工夫・方法を実践している。

(1)「ゼミナールⅡ」：文部科学省選定・特選に選ばれた内外の優れた映画作品を鑑賞し、社会、歴史、家族、結婚、働き方、ジェンダーなど社会的視点から読み解いていく。映画の題材から各自で興味関心を持ったテーマを設定し調査と考察内容をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションしてもらう。同じ作品でも、人によって感じ方やとらえ方が異なるという発見を共有し、そこから自分自身のライフデザインについても考えさせている。また、年間を通じ、内閣府ユース特命報告員事業に応募・参加、内閣府から提示された国の政策課題に若い世代の意見を提案するという機会を与えている。さらに、官公庁や企業の研修でも採用されている「2030SDGsゲーム」を通じて、地球規模の課題を「自分ごと」とし、自分は社会にどう貢献していくかについて同世代の仲間と一緒に考えてもらうようにしている。教員が教科書で何かを教え込むのではなく、色々な専攻コースに所属するゼミ生が「多様な体験を共有し、互いに影響しあって伸びていく」こうしたゼミを目指している。

(2)「キャリアリテラシー（社会人基礎）」：1年生が入学してすぐに学ぶ科目であるため、平易な言葉を用いつつも、働くことの意味や世の中の仕事の種類や内容について各自が「自分ごと」としてとらえ、自分の将来像を少しずつイメージできることを目指している。教員自身の企業における豊富な実務経験の具体例を紹介し、組織における階層や人間関係について、特に、コミュニケーションがいかに重要かという点を理解してもらうよう努力している。1年後期に教える「オフィスワーク演習」や「インターンシップリテラシー」とのシームレスな学びの繋がりも意識し、学生が得た知識をバラバラの点で終わらせず、学生が成長していく途上で線と線で繋がるように心がけている。

(3)「オフィスワーク演習」：前期の「キャリアリテラシー」の実践編として位置づけ、講義と演習を組み合わせ、将来様々な職場で働く際に必要となる社会常識やビジネスマナーを身につけることを目指している。敬語の使い分け、礼儀作法、ビジネスレターやメールの基本マナー、来客応接や電話応対を網羅し、応接のロールプレイングなどを通じ、学んだことが確実に身につくよう指導している。

(4)「インターンシップリテラシー」：実習に行く前の準備を行うことに重心をおき、教員が作成したスライドによる解説や具体的実務経験を紹介した授業を実施している。

(5)「現代女性の社会学」：「社会学」の基礎知識をとり入れつつ、現代女性の抱える様々な課題について具体的に考えさせる。課題図書リストを提示し、期間中に各自一冊を図書館で借りて800字程度の要約と感想を提出させている。

各回の授業では以下のようなアクティブラーニングの手法を用いている。①学生が周囲の大人にインタビューする宿題を三回にわたり課し、女性のライフコース、結婚のメリット・デメリット、子育ての経験談を取材させる。学生はそれらの材料をもとに、グループディスカッションで同年代の仲間と活発に意見を出し合う。個別のケーススタディから、社会全体に視野を広げ、卒業後のライフイベントをめぐる課題と、その背後にある問題や社会的要因を理解し客観的に考察する。②学生にも人気のテレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」を教材に、家事は無償労働か？という主題はもとより、様々な登場人物の生き方にフォーカスし社会の中に存在する多様な生き方に気づかせ、グループディスカッションを実施する。③教員がファシリテーター資格を有する2030SDGsゲームを体験し、地球規模の課題解決に社会の個々の構成員がどのように関わり、どのような役割を果たすべきか、楽しみながら考える機会を提供している。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

（1年生）

2021年度前期の「キャリアリテラシー」の授業評価アンケートにおいては、設問3以外の全ての項目で平均を上回る結果が得られた。コロナ禍のためグループワークを避けて講義中心の授業となったが、スライドを作成し毎回の授業のポイントをわかりやすく説明したことや、学生にも順番に発話させたり、仕事紹介のビデオ視聴などを取り入れ、後期の就職準備へとつなげるキャリア形成への意識向上を図ることができた。学生の自由記述の感想でも、90分授業を長く感じず楽しく受講できた等の意見が得られた。

（2年生）

2021年度前期の「ゼミナール」の授業評価アンケートにおいては、全ての項目で学科平均を上回る結果となった。総合的な授業満足度3.93（平均3.64）、総合力が高まる指導3.79（平均3.46）、熱意ある指導3.71（平均3.47）、進路に関する適切なアドバイス3.50（平均3.38）、学生とのコミュニケーションや親身な指導3.79（平均3.62）。また、後期の「ゼミナールII」においても進路指導やコミュニケーションの各項目で高い評価を得ることができた。卒業研究では、学生の自主性を重んじSDGsに関連するテーマを各チームで決め、概要集だけでなく、プレゼンテーション資料を作成し発表を行った。授業終了時の感想では、1年間を通じ、調べて発表することの繰り返しが、自主的に課題を見つけて学ぶことや、積極性、コミュニケーション力向上につながり、就職活動でも自信を持って臨むことができたという意見が多かった。2021年度のゼミナール就職内定率は100%であった。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取組として、相互授業参観をはじめとする学内のSD、FD研修には積極的に参加している。また、オンラインの外部研修・講習にも積極的に参加している。2021年度は、以下の外部研修に参加した。

- ①立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科×日経ビジネススクール ソーシャルデザイン集中講座2021 (2021年7月21日～9月11日全8回)
- ②イマココラボ主催 2030SDGsオンライン講座 One World (2021年8月20日)
- ③文部科学省 令和3年度産学官連携支援事業委託事業「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」(神戸大学×SDGs) 教職員聴講生として参加 (2021年12月27日～1月8日全8回)
- ④横浜市教育委員会主催 ESD推進報告会 (2022年1月29日)

1. 短期目標

- 1) アクティブラーニングを効果的に取り入れ、自主性を引き出す教育の実践
- 2) 学生自身も成長を実感できる学習成果の見える化
- 3) 湘北版SDGs教育のスタート

2. 長期目標

- 1) 卒業後、学生が直面する正解がない様々な課題に対し、諦めることなく立ち向かえるレジリエンスを身に付けられるような教育の実践
- 2) 今日の課題を学びに結び付けるような教材の開発

■前期取組

《水曜日・3時限 30203507 [ゼミナールⅠ] 築瀬 千詠》

映画作品を題材としSDGsの課題を認識してもらい、17のターゲットを詳しく調べることとあわせ、2030SDGsゲームによってさらに理解を深めることにもチャレンジした。就活に関して学生との面談や声かけ、こまめに相談に乗るなど、早期に内定を得られるよう支援した。(B項目平均3.89、C項目平均3.70)

《金曜・3限 26BU0105 [キャリアリテラシー(社会人基礎)] 築瀬 千詠》

コロナ禍の中での多人数の対面授業であったので、グループワークは導入しなかったが、学生が事前に取り組んできた課題を教室で共有し、教員が適宜コメントしながら進める方法をとった。入学間もない学生たちができるだけ緊張せず発言できるよう、どんな回答であっても「否定しない」ことを念頭に授業の進め方を工夫したことが、前向きな授業参加につながった。

《火曜・2限 30250503 [現代女性の社会学] 築瀬 千詠》

女性のライフコースにおける岐路や選択について、身近な事例を用いて考えさせた。SDGsゲームを実施し、地球規模の課題をわが身に引き寄せて考える機会を与えた。課題図書1冊読み要約と感想を課すことにより、図書館へ足を運び、文献に触れる機会を作った。

■前期改善

《火曜・4限 30250501 [現代女性の社会学] 築瀬 千詠》

同内容の科目3クラス(フド・こど/イン・医/ファ)のうち、最も手を焼いたクラスである。総じて座学が不得手なファッションコースの学生にいかに関心を持ってもらうか、もう一段の工夫が求められる。講義だけでは時間がもたないため、アクティブラーニングをできるだけ入れたいが、コロナ禍の制約があり難しかった。

■後期取組

《水曜日・3時限 30204007 [ゼミナールⅡ] 築瀬 千詠》

映像作品を教材に、歴史、文化、政治経済、働き方、ジェンダー、環境、外交、国際関係などを一人の大人として当たり前で語れることを目標に、SDGsのフィルターで社会を見る目を養うよう指導した結果、特にQ8以降のポイントが高得点となったと思われる。正解のない課題にどう対応していくべきか、調べ学習とプレゼンの繰り返しによって、学生自身で考える力がついた。

《金曜・4限 26251501 [オフィスワーク演習] 築瀬 千詠》

自由記述に授業延長の苦情があるが、このクラスは、10回がオンライン授業であり、30分も延長したケースは1度もない。対面授業5回もほとんど定時に終了しており、延長した1回は模擬試験の解答時間が足りないとの学生からの申し出を受け5～10分程度の延長事例であった。おそらく、何らかの誤解が生じていると考えられる。しかし、こうした苦情が出る背景には、やはりオンライン授業の限界、即ち学生の表情や取組状況が間近に見え

ないため、学生の様子を十分に把握できず微細な兆候や言葉に出されないニーズをくみ取れていない可能性がある。今後は、チャット等を活用し声を拾うことなどできるだけ双方向の意思疎通ができるよう工夫していきたい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	就業力育成(生活)	1年	26BU0105	キャリアリテラシー(社会人基礎)
前期	生活プロデュース	2年	30203507	ゼミナール I
前期	生活プロデュース	2年	30250501	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	2年	30250502	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	2年	30250503	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	1年	31280001	医療業界研究
後期	生活プロデュース	1年	26251501	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1年	26251502	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1年	26251503	オフィスワーク演習
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0208	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0408	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1年	26IS0508	インターンシップリテラシー
後期	生活プロデュース	2年	30204007	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

講師

教員氏名

清水 一毅

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生生活プロデュース学科の教員として、主に心理学に関する授業を担当している。
2022年度の担当科目は別記のとおりである。

心理学は、社会の中で生活するうえで基盤となる人間関係や物事のとらえ方、学習の理論といった内容を含んでいることから、ただ知識を獲得するのではなく自分と関連付けて活用できるよう指導していく。

「心理学」では心理学の多岐にわたる分野の概要を伝えるとともに、日常生活にちりばめられている心理学の理論を知ること、心理学を身近に感じられることを目標としている。

「発達心理学」では、ひとは一生をかけて発達するという生涯発達の視点に立ち、これまでの自分、現在の自分を発達の観点からとらえることで自己理解を深めることを目標としている。

「自己理解の心理学」では、心理学で用いられるワークを通して、自分自身の思考の癖や人間関係について気付き、そこから自己理解を促していけるよう指導する。

「ゼミナール」では、学生が自ら考えた活動を実行するなかで、目的を設定し、その目的に対しての手段を選択する。その過程を検討し、実践していくことを通じて自ら考え、行動できるようになることを目的としている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が社会で生きる自己を確立する助力になることであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 他者とのかかわりの中で、自分を知り、自己を確立していくこと。
他者と触れ合うことで自身のコミュニケーションの取り方や物事の考え方、他者との違いに気づくことができる。このような気づきは自己分析を行ううえでも役立つ。
- 2) 知識を覚えるのではなく、必要な情報を自ら得て活用できる力を育めるように指導すること。
現代社会において情報機器の発達から、知識を多く記憶することよりも、自ら情報にアクセスし、正しい情報を判断して収集し活用することが重要であると考える。
- 3) 自ら考え、行動する力を養うこと。
何事にもチャレンジすることによって様々な経験を得ることは、自分の幅を広げるためにとっても大切なことである。そのため、少しでも興味のあること「やってみようかな」と悩んでいることには積極的に取り組み、いろいろな経験を積むよう促していきたい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行おうと考えている。

1) 「心理学」では、心理学の理論が日常生活でどのように活かされているかワークを通して考え、自身の考えを周囲のひとと共有しあうことで様々な考え方に触れる機会を作るよう意識していく。
また、授業中に調べ学習を多く取り入れることによって教員から教えられるだけでなく、自ら調べ学ぶこと、調べた内容を発表することができるように工夫していく。

2) 「発達心理学」では、発達理論についての文献を読み、その内容をまとめることを通して、必要な情報を読み取り、まとめる能力が育まれるよう工夫していく。
また、グループで発達理論まとめ表を作成することで協働する機会を作るようにする。

3) 「ゼミナール」では、活動計画を作成し実行することで自ら考え動くことができるよう指導していく。また、実行後に振り返りの時間を持つことによって次の計画に活かせるようにする。
個人での計画やグループでの計画を織り交ぜることによって、段階的に行えるよう工夫していく。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

昨年度の授業がなかったため、次年度以降記述する。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

講師

教員氏名

二見 総一郎

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学生活プロデュース学科の教員として、主に、子どもや家族に関する科目を担当している。2021年度の担当科目は別記のとおりである。

子どもサービスコースの学生たちは、将来子どもと関わりのある職業を志望している学生が多く、子どもに関する基礎知識の習得が望まれている。また、生活プロデュース学科全体の学生が履修する科目も担当しているため、日々の生活やライフサイクルを国際的な視点や学問的な視点から相対化して理解し、自分の言葉で表現する力が重要となってくる。

「児童福祉論」では、現在の子どもを取り巻く様々な問題について検討することで、子どもにとって望ましい福祉の在り方とはどのようなものか、考える視点を獲得することを目指している。

「生活とSDGs」では、17個の世界共通の目標を学習することを通して、国際的な広い視野で問題を考えて自分の生活範囲から解決に取り組んでいく「Think globally, Act locally」の技法を身に着けることを目的としている。

「家族援助論」では、家族のライフステージの変化を学びながら、家族に起きている現象を社会的・文化的な状況の中で捉え、さまざまな環境との相互関係の中で人が生きているさまを理解し、家族に関する問題について自分事として考える視点を獲得することを目指している。

「ゼミナールⅠ」および「ゼミナールⅡ」では、子どもをめぐる社会的な問題について、自分の具体的な体験とつなげて考えることを通して、課題を自ら考え、それについて調査する力、自分の意見を自分の言葉で表現することができる力の育成を目的としている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 学生の「他者と共生する力」を高める教育

学生が卒業後に生きていく社会は、様々な背景を持った人たちが共に生きている社会である。本学の教育理念である「社会でほんとうに役立つ人材」とは、この多様な人たちが生きていく社会において、自分と異なる他者を理解しようとし、コミュニケーションを取り、協力しながら生きていく力を持った人であると解釈できる。そのため私は、2年間の大学生活を通して、学生たちが、様々な背景を持つ人たちの多様性について学び、自分も他者も尊重できる「他者と共生する力」を育む教育を重視したいと考えている。

2) 学生が安心して学べる環境づくり

本学で非常勤講師として3年間「キッズスペース論」を担当させていただいた中で、学生たちの少ない人数が、経済的に不安定な状況にいたり、過去に自分の意見を認めてもらう経験が少なかったり、学業に対する苦手意識が強かったりと、様々な背景を持っていたことに気づかされた。そのため、学生たちが不安なく学業に取り組めるようにするためにも、わからないことはすぐに相談でき、自分の意見が周囲に受け入れられ、ありのままの自分で肯定されるような、安心して学べる学習環境づくりが重要である。

3) ケアをベースとした教育および学生指導

本学に通う様々な背景を持つ学生たちの中には、家庭の事情や経済的な事情で悩みを持っている学生たちも少なからずいるため、そのような学生生活をサポートするためには、ケアをベースとした関りが重要である。学生が困りごとを抱え込んでしんどくなってしまわないためにも、困ったときに相談しやすく親しみやすい教員を目指したいと考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「児童福祉論」では、コメントシートの紹介やICT機器を用いたアクティブラーニングによって、学生同士がお互いの多様な価値観に触れながら、自分の意見が受け入れられる体験をできるように工夫している。また、内容としても、社会的マイノリティの問題を扱うことにより、多様性にまつわる問題を自分事としてとらえてもらうよう指導している。

2)「生活とSDGs」では、初めて聞いた学生が17の目標を難しいと感じることが多いため、視聴覚教材を用いて学習に対する苦手意識を払しょくするよう心掛けている。また、わからないと感じた学生がすぐに声をあげられるよう、ICT機器を用いて自由に発言できる場を設け、安心して学べる環境づくりを行っている。

3)「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」では、ただ知識を与えるのではなく、学生が社会の問題を自身の問題と関連づけて考えられるよう指導している。またゼミ以外の時間においても、気軽に就活や大学生活の相談ができるよう、日常的な声掛けや一人一人と面談をするなどして、信頼関係を築くようにしている。

すべての授業において、ハラスメントにならないよう、威圧的な態度や強い言葉を用いないことを意識し、どんな内容であれ学生の意見をまずは受け入れる姿勢を大切にしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生による「キッズスペース論」の授業評価アンケート結果は、「総合的にみてこの授業に満足しましたか？」という項目において「とても満足」が64.9%、「満足」が35.1%と、受講していた全ての学生にとって満足のいくものだと評価であった。

このことは、「先生の教え方はわかりやすいですか？」という項目で「とてもわかりやすい」が67.6%であり「おおむねわかりやすい」が32.4%であり、全ての学生にとって「わかりやすい」と感じられる授業であったところと関係があると考えられる。

これは、学生のアンケートの記述から分析するに、適切な視聴覚教材の使用、学生のコメントシートへの応答、ICT機器を用いた発言のしやすさによりわからない・困った時にすぐに発言ができていたことが奏功していた。

また、学生アンケートの「この授業で学ぶことは他の授業や普段の生活では学ぶことの出来ないものばかりだったのでとても興味深かったし、少し触れにくそうな話題が出てくる時も毎回先に声掛けをしてくださったり、常に言葉選びなどを丁寧にしてくださるので気持ちよく授業を受けることが出来ました。」という記述にあるように、学生が安心して学べる環境づくりも一定程度は達成できていたかと思われる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

--

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期 生活プロデュース 1年 22239001 キッズスペース論

年度

2021

～

2022

所属学科

生活プロデュース学科

職名

講師

教員氏名

三塚 由美子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、ファッションコースに関連する検定対策科目を担当している。

「ファッション販売論」では、ファッション販売の基礎を習得し、日本ファッション教育振興協会主催の「ファッション販売能力検定3級」の取得を目指している。「ファッションビジネス論」は同2級の取得を目指す。また、「色彩学A」では、色彩の基礎を習得し、色彩検定協会主催の「色彩能力検定3級」の取得を目指し、教育している。

また、私は企業出身の教員として、実践的な科目を担当している。

「接客サービス特講」では、様々な分野の接客サービスに対応する内容を教育している。「ファッションコーディネート演習」「ファッションデザイン論」「カラーとクラフト」では、アパレル企業の業務に対応できる内容を教育している。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、アパレル企業勤務経験をいかし、ファッションショーの開催に向けたドレス制作と卒業研究発表会に向けたブランド研究について教育している。

LA科目では「ファッション文化論」を担当し、他学科の学生に対してもファッションに対する興味を高めることを目指している。

就職活動支援では、学生との面談、CS課との連携をさらに深め、今後も100%の決定率を目指している。

以上の活動を通して、私の教育の責任はアパレル企業での即戦力となる学生の育成を目指すことと考える。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- ①人とのかかわりを大切にする女子学生としての質の向上。主にコミュニケーション能力の向上を目指す。
- ②他人を思いやる心を持つ学生の育成。特に卒業後、社会人として自覚ある行動を意識すること。
- ③アパレル企業での業務において、必要とされる学生の育成。最低限の商品知識・接客スキルの習得を目指す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上記の考え（教育理念）を実現するため、担当する科目において次のような工夫・方法を取り入れている。

「接客サービス特講」では接客の基本に加え、企業での自身の体験談を交えて様々なシーン、ケースを想定した応用的な内容を取り入れ、どのように対処すべきかを学生に考えさせることを目的に、グループワークを行った。また複数の業種の卒業生や企業担当者を講師として授業にお呼びし、実務についての講義を伺う時間を取り入れた。今回はアパレル企業の方のお話を参考に、web接客の演習を行った。

「ファッションコーディネート演習」「ファッションデザイン論」では、アパレル企業における顧客への提案業務に役立つよう、ファッションマップ作成、デザイン画作成などを行っている。「カラーとクラフト」ではパーソナルカラーの診断とクロスエ編み制作を行い、新たなファッションの世界を体験出来るような取り組みを行った。

「ファッション販売論」「ファッションビジネス論」「色彩学A」では、検定対策が中心となるため、テキストに沿ったオリジナル練習問題を作成し、毎回理解度を確認出来るようにしている。さらに、過去問題から出題傾向を割り出し、効率のよい指導を行った。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度、検定合格率は以下の通りであった。（夏冬合計）
「色彩能力検定3級」受験者72名中合格者が59名、81.2%の合格率であった。これは全国平均を10%程度上回る結果であった。2級の受検者は9名、うち6名が合格、66.7%の合格率で、全国平均とほぼ同等だった。
「ファッション販売能力検定3級」受験者52名中42名が合格、80.1%の合格率であった。こちらも全国平均を上回る好成績となった。2級は14人中7名が合格、全国平均と同程度となった。
「接客サービス特講」「ファッションコーディネート演習」「ファッションデザイン論」は、レポートの提出率がほぼ100%で、丁寧な添削指導を行った結果、学生アンケートで「楽しく学べた」「新たな知識が得られた」等のコメントが寄せられた。
授業参観では、「オンライン授業でのスライドの使い方がわかりやすかった」「接客の動的待機の方法に具体的数字があげられており、よくわかった」等のコメントが寄せられた。
就職の支援では、希望に沿わない学生もあり、今のところ最終的な結果はまだ得られていない。（2月21日現在11名中9名が内定）

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

2021年度も、オンライン授業形式中心での指導が取り入れられ、昨年度の反省点の見直しを行い、パワーポイント・スライドの使用方法を改善した。ビジュアルを見直し、これらを活用した授業を積極的に取り入れた。今後は、さらにわかりやすいスライドの作成を行い、学生の興味、理解度が深まる工夫をし、検定試験の合格率のさらなるアップを目指す。

また、学内でのFD研修はもちろんのこと、外部でのファッションセミナー等に可能であれば参加し、また業界紙等の購読により、授業に行かせることを模索していきたい。

さらに他の先生方の授業を見学し、参考に出来る点を取り入れたい。

演習系の授業では、学生のレベルに合わせた指導を心掛け、楽しんで参加してもらえよう、少しでも学生の良い部分を見つけて褒めるようにしている。

ゼミにおけるドレス制作では、オフィスアワーをさらに活用し、学生の個性をいかした作品制作の支援を行い、ファッションショーの成功を目指したい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	生活プロデュース	1年	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1年	22209001	ファッション販売論
前期	生活プロデュース	2年	22213501	ファッションコーディネート演習
前期	生活プロデュース	1年	25205004	色彩学A
前期	生活プロデュース	1年	28208501	カラーとクラフト
前期	生活プロデュース	1年	28208502	カラーとクラフト
前期	生活プロデュース	2年	30203508	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	1年	22207001	ファッションデザイン論
後期	生活プロデュース	2年	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	1年	24238703	接客サービス特講
後期	生活プロデュース	1年	28266001	ファッションビジネス論
後期	生活プロデュース	2年	30204008	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	1年	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	年	31LA7501	ファッション文化論

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

教授

教員氏名

照井 裕子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許の取得にかかわる関連科目を担当している。中でも「心理学」及び「子育て支援」の分野を中心に教育を行っている。将来保育者を目指す保育学科の学生が、他者の視点に立って物事を理解し自らの行動につなげていくことが重要であると考えている。そのため、「保育の心理学」では主に子どもの発達段階に応じた心理の理解を目指し、子どもの立場に立って子ども理解ができる力を養うことを目指している。また、「子育て支援」では、主に保護者の立場に立ち支援を展開できる力を養うことを目標としている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて子ども及び保護者に寄り添い保育・支援を行うことのできる保育者を養成することであるとと考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1. 人とのかかわりを大切にし、相手の視点に立つことができる将来の保育者としての資質の向上
2. 保育現場で求められる保育実践力の育成
3. 保育実践を意識した学びの提供

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得にかかわる「保育の心理学」を通して、優れた保育実践を基にした事例等を用いながら保育者として求められる子どもの発達理解やそれを支える保育者のかかわりについて教授し、学生の保育実践力につながる基礎づくりをおこなっている。また、「保育の心理学」のほか、保育士資格取得に関わる「子育て支援」及び「子ども家庭支援の心理学」も含め、保育者に関わる子どもや保護者等といった他者の立場に立って考える視点を積極的に学生に提供し、自ら考える機会を得られるよう工夫しながら授業を行っている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生による授業評価アンケート結果は、「子育て支援」について事前資料の配布や資料の見やすさについて学生から評価された。学生の反応を見ながら授業内で使用する視覚情報の整理を行ったことがアンケート結果に反映されたものとする。また、担当各科目において、オンライン授業期間においてはオンライン上の各種機能の活用を心がけ学生が主体的に学べる授業づくりの工夫を行った。この点についても学生の授業評価におけるコメントが得られており、学生参加型の授業づくりが実現できたものとする。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取り組みとして、相互授業参観、学内のFD活動等に参加している。他の教員の授業内における各種取り組みや教職員からのコメントを活用し授業改善に役立てている。

今後の教育における短期目標は、担当科目の変更および教育課程上の開講期の変更などを踏まえて、各担当科目内での講義内容を見直し、これまで以上に科目間が連携する形で学びの深化が生じるようにすることである。長期目標としては、社会人としての広い視野をもち思考できる保育者の養成である。

■前期取組

《水曜・2限 23360003 [ゼミナール] 照井 裕子》

個々の学生の興味関心に合わせた授業の展開を意識しつつ、ゼミナールの授業目的を都度確認しながら学生が目的意識をもって授業に取り組めるよう工夫した。

■前期改善

《火曜・3限 31361501 [子ども家庭支援の心理学] 照井 裕子》

本年度においては教科書の内容に重点を置いた授業内容としたが、他授業との内容の重なりや取り上げる発展的な内容についての精査を行い、授業内容についての改善を進める。

■後期取組

《火曜・1限 31328502 [子育て支援] 照井 裕子》

2021年度の学生による授業評価アンケート結果は、「子育て支援」について事前資料の配布や資料の見やすさについて学生から評価された。学生の反応を見ながら授業内で使用する視覚情報の整理を行ったことがアンケート結果に反映されたものとする。また、担当各科目において、オンライン授業期間においてはオンライン上の各種機能の活用を心がけ学生が主体的に学べる授業づくりの工夫を行った。この点についても学生の授業評価におけるコメントが得られており、学生参加型の授業づくりが実現できたものとする。

《水曜・3限 23340003 [保育・教職実践演習(幼稚園)] 照井 裕子》

複数教員によるオムニバス形式の授業であり、アンケートからは学生にとって他の授業にない授業展開に関心をもって受講していた様子がうかがえた。こうした学生の反応も踏まえ、今後は各担当者の授業の特徴がより有効に働くよう各担当者間での情報共有をより密に行いながら授業を組み立てることの意義は大きいと考える。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	1年	31317501	保育の心理学
前期	保育	1年	31317502	保育の心理学
前期	保育	2年	31361501	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2年	31361502	子ども家庭支援の心理学
通年	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2年	23360003	ゼミナール
後期	保育	2年	23324501	地域子育て支援論
後期	保育	2年	23340003	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	1年	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	2年	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	2年	31328501	子育て支援
後期	保育	2年	31328502	子育て支援
後期	保育	2年	31328503	子育て支援
後期	保育	2年	31328504	子育て支援

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

教授

教員氏名

鈴木 弘充

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、「特別支援教育（障害児保育を含む）」、「社会的養護Ⅱ」など、主に障害児・者に関わる科目を担当している。
私の教育の責任は、障害児やその家族について理解を深めさせ、将来保育者として職務に就くための基礎を身につけさせることである。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 保育者として必要とされる基礎知識の伝達
- 2) 広い視野と想像力の醸成
- 3) 柔軟な思考と課題解決能力の醸成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、教育の理念を実現するため、担当する授業において、以下の方法を行っている。

- 1) 「特別支援教育」では、障害児やその家族に関する基礎知識を伝達するため、
主な障害について、映像資料を積極的に活用しながら、その要因、特性、関わり方の
基礎的な知識を解説している。
- 2) 「特別支援教育」、「社会的養護Ⅱ」では、広い視野や想像力を身につけられるよ
う、様々な障害特性や養育環境について解説している。
- 3) 「特別支援教育」、「社会的養護Ⅱ」では、柔軟な思考と課題解決能力を醸成させ
るために、問いかけや事例検討を活用している。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生による授業評価アンケートの結果は、おおむね良好であった。映像資料の活用、ゆとりある時間配分を心がけることによって、学生に具体的なイメージを喚起させ、思考させる時間を十分確保できたことが、結果につながったと考える。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

■前期取組

≪火曜・1限 31325001 [特別支援教育(障害児保育を含む)] 鈴木 弘充≫
教授内容に即した視聴覚教材を活用する

■前期改善

≪木曜・3限 31325003 [特別支援教育(障害児保育を含む)] 鈴木 弘充≫
教授内容によっては、関連する視聴覚教材がかけているため、収集を継続する。

■後期取組

≪火曜・1限 31325001 [特別支援教育(障害児保育を含む)] 鈴木 弘充≫
時間配分に余裕を持たせ、学生自身が施行する時間を確保した。

≪火曜・2限 31325002 [特別支援教育(障害児保育を含む)] 鈴木 弘充≫

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	31325501	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2年	31325502	社会的養護Ⅱ
通年	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2年	23360001	ゼミナール
通年	保育	2年	23360501	進路・生活指導
通年	保育	1年	31325001	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1年	31325002	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1年	31325003	特別支援教育(障害児保育を含む)
後期	保育	2年	23320501	青年心理学
後期	保育	2年	23340001	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	1年	23351501	保育実習Ⅰ(施設)

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

教授

教員氏名

高木 友子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、保育原理や保育実習、保育実習指導などを担当している。2021年度担当科目は別記のとおり。保育学に関する科目は主に将来保育士を目指す保育学科の学生が子どもと保育について知識と実践技術を獲得できるよう指導している。「保育原理」では講義を受講し、考察を深め、学生自身の考えを表現することにより、子どもと保育の在り方についての基本的な理解と態度をにを見つけることを目指す。「保育実習指導Ⅰ」では「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」にける実際的な準備を行いながら、実習に必要な知識と態度を養うことを目的とする。「人間関係の指導」では保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領を元に、保育の実践や子どもを取り巻く社会状況のデータに触れることにより、保育における人間関係領域の展開に必要な知識を得て考察を深めることを目的とする。「ゼミナール」では言葉の領域の活動を主とし、教材の作成や実演を通して考察を深め、さらなる実践の発展を探求することを目指す。私の責任はこれらの教育活動を通して、子どもに愛情と責任を持つ保育者を育成することである。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

1) 学生の求める専門知識と情報を提供する。2) 学生が安心して学業に取り組めるよう支援を行う。3) 学生に対して公平かつ誠実に行動する。この3点を重んじ、教育活動に取り組む。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

「保育原理」では学生自身の子どもと保育へのまなざしを育て評価できるようにミニレポートを重視する。「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習」では学生が安心して、かつ、学生自身が責任を持って実習の臨めるよう、複数担当教員で分担し、学生一人一人の準備に目を配り、必要なフィードバックを行う。「人間関係の指導」では学生たちの将来の保育に役立つ情報と実践と提供すると共に、学生たちの成育歴を鑑み、必要な情報、不足している情報を提供することを心掛ける。「ゼミナール」では学生自身の主体と興味を重んじ、自由な選択と自主的な努力ができるように、また更なる成長のために有益な情報提供と環境設定に努める。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

本年度の学生による授業評価は総じて対面でもオンラインでも支障はなく、パワーポイントや解説はわかりやすいとされた。ただし、一部、黒板への板書が薄く見づらいという意見があったので来年度以降注意したい。学生支援は2年生班員に関しては全員希望の就職をかなえ、十分な支援ができたが、1年生班員は大きな問題がなかったため、見守りを中心とし、積極的な介入を持たなかったことが不満に通じたようである。来年度以降は1年生への積極的なかわりを企図したい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

短期目標としては板書の改善と、ソニー教育財団と連携成果を保育・教職実践演習に更に反映することである。長期の目標としては保育実践研究が2022年度より始まるので、並行して開講される他の教員の授業とバランスを考えながら、内容の吟味、再構築、発展に努めたい。

■後期取組

《水曜・2限 23360002 [ゼミナール] 高木 友子》
読み聞かせやシアターの実践例の紹介と作成と実践機会を設けた

《月曜・1限 23322501 [人間関係の指導] 高木 友子》
オンライン授業との切り替えをもっと整理する必要がある

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	1年	23314001	保育原理
前期	保育	1年	23314002	保育原理
前期	保育	1年	23314003	保育原理
前期	保育	2年	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2年	23322501	人間関係の指導
通年	保育	2年	23322502	人間関係の指導
通年	保育	2年	23322503	人間関係の指導
通年	保育	2年	23322504	人間関係の指導
通年	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2年	23360002	ゼミナール
後期	保育	2年	23340002	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	1年	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	2年	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	1年	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1年	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1年	31315503	保育・教育課程論

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

教授

教員氏名

多胡 綾花

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学において、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に関わる演習科目を担当している。「身体表現」や「表現の指導」といった「身体表現」分野、資格取得の必修科目になっている「体育実技／理論」科目を担当している。また「教育実習指導」「教育実習」などの幼稚園教諭二種免許状取得に関わる実習科目を、4名の教員で受け持っている。

学生支援では、7班のマイスターである。また表現発表プロジェクト担当であるため、3回の表現発表の企画・運営・指導・実施を担当している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、保育現場で真に活躍できる保育者養成のために、以下の3点を重視している。

- 1) 自ら体験・実践することで得る気づきや発見
 - 2) 人と関わりながら、共同で活動する中で広がる発想や視野
 - 3) 新しい保育を自ら生み出すことができる豊かな感性や創造力
- 「教育実習指導」においては、複数教員で徹底指導を行い、実習に送り出すとともに、一人ひとり異なる実習先や内容に応じて、きめ細やかに対応することに注力する。

学生支援では、子どもたち一人ひとりを大切にできる保育者育成を目指し、学生一人ひとりの気持ちや性格、希望進路、家庭状況、経済状況に寄り添うことができるように心がけている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、次のような授業を行っている。

「身体表現」では保育現場で行われている実践的なあそびを取り扱う。あそびを学生自身が体験し、授業後に振り返りとして、子どもの目線であそびを捉え直し、また保育者としてどのように配慮や留意したらいいのかをまとめる、主体的な学びに力点を置き、「身体表現ノート」作成をしている。

次に「身体表現」、「表現の指導」では、ペアによる模擬指導を授業の柱としている。指導案作成を通して、他者の発想や考えに触れ、他者と自分の意見を折衷しながら、一つのアそびを作り上げるが、保育はチームで進めていくものであるため、このような他者との活動やグループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、他者と協同する力を磨くことに繋がっている。

「教育実習指導」においては、4名の教員で担当し、各教員の専門性を活かし展開している。クラス単位や授業実施方法（対面・オンライン）についても、内容に合わせて柔軟に変更しながら実施している。また学生が躓きやすいポイントを事前解説し、個別対応をするなど、丁寧な指導を心がけている。加えて、学生たちが幼稚園現場のイメージを描きやすいように、現役で活躍する卒業生をゲストに招き、話をしてもらう卒業生講演を企画している。

また学生支援では、每期1回、個人面談を実施し、状況把握に努めている。また相談しやすいようにオフィスアワーの時間を周知し、学生が相談に来やすいようにしている。相談の申し出があった場合は速やかに面談を設定するようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

【2021年度前期授業評価アンケート】「身体表現」(演習)においては、授業の満足度が平均3.62ポイント、授業の分かりやすさについては平均3.62ポイントであった。【2021年度前期授業評価アンケート】「体育実技/理論」(講義)においては、授業の満足度が平均3.67ポイント、授業の分かりやすさについては平均3.65ポイントであった。

一方、2科目ともICTの活用についての項目がやや低く、Eラーニングやオンライン授業等の映像教材や資料の活用が課題である。授業進行や復習がスムーズにできるように工夫を重ねていきたい。

次に【2021年度前期授業評価アンケート】「教育実習指導」(演習)は、授業満足度は平均3.58ポイント、授業の分かりやすさは平均3.52ポイントで、授業が分かりやすかった、目標や課題、指導案などの添削によって安心できたなどの声が聞かれた。配布・回収物の効率の悪さ、担当教員間の連携不足を指摘する声もあり、次年度の課題である。

また「学生支援」では、就職率は100%で、全員が希望先に就職することができた。うち1名は公務員試験に合格することができた(平塚市)。しかしながら、2年生の自由記述欄に、「進路の話などは他の人がいる前でしないでほしい、相手の気持ちを考えた行動と発言をしてほしい」とあり、無神経な発言や行動は慎しむように今一度自身の発言や行動に細心の注意を払っていかねばならない。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取り組みとして、学内でのFD研修は欠かさず参加し、授業に反映できるように努めている。授業評価アンケートの結果も授業改善に役立てている。半期の課題は次期に活かせるようにしている。学期末のシラバス作成は、授業時における学生の反応や状況も鑑みながら、新たに授業内容や計画を必ず見直し、学生に合わせて授業を展開できるように努力している。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 学生の声やニーズを大切にした授業展開
- 2) 学生の能力やレベルに合わせた授業課題の設定
- 3) 資料提示やファイル提出など、Eラーニングの活用や充実

II. 長期目標

- 1) 現代の社会課題（子どもの体力低下の問題など）に対する問題解決に繋がる教材開発
- 2) 保育現場や地域社会との連携の模索
- 3) 映像教材の開発

■前期改善

《金曜・4限 26350501 [教育実習指導] 多胡 綾花》

オンライン、対面、一斉指導等、状況に合わせて授業を実施した。不安なく実習に臨むことができたとの声があり、丁寧に取り組んだ結果で嬉しい。一方、4名で担当しているが教員の連携が取れていないとの厳しい意見もあり（1名）、教員同士の連携が学生の安心につながると感じた。一層事前打ち合わせをし、4名でしっかり全員をサポートし、実習に送り出したい。

《水曜・1限 31330501 [身体表現（多胡先生）] 多胡 綾花》

模擬指導が難しく、嫌だったとの意見があった。学びの大きい活動であると考えていただけに、学生のレベルに合わせてサポートやフォローが必要だと感じた。また身体表現ノートの採点基準についての質問があった。例えば「①学習内容のまとめ、②考察、③+αの調べ」など、明確に伝える方法を検討していきたい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	23326001	表現の指導(音体)
前期	保育	2年	23326002	表現の指導(音体)
前期	保育	2年	26350001	教育実習
前期	保育	2年	26350501	教育実習指導
通年	保育	1年	23310001	体育実技／理論
通年	保育	1年	23310002	体育実技／理論
通年	保育	1年	23310003	体育実技／理論
通年	保育	1年	23310004	体育実技／理論
通年	保育	1年	31330501	身体表現
通年	保育	1年	31330502	身体表現
通年	保育	1年	31330503	身体表現
後期	保育	2年	23323501	表現の指導

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

准教授

教員氏名

赤井 裕美

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に表現科目の「音楽」に関する授業を担当している。* 担当科目は別記のとおりである。
音楽科目は保育者を目指す学生が保育士資格、幼稚園教諭二種免許を取得するための必修科目であることから、実践的な技術や保育者として必要な表現力を身につけることを目的に指導している。
私の教育の責任は、これらの科目を通して、卒業後、社会に役立つ保育者の育成をすることであると考 えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 自ら学ぶ姿勢を身につけられるよう、適切なアドバイスをすること。
- 2) 社会人としてのコミュニケーション能力を育成すること。
- 3) 技術的なことだけでなく、子どもと関わる上で大切なあたたかい心や表現力を養うこと。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考えを実現するため、授業内・授業外を問わず、個々の学生に常に細やかな配慮を持って接することを心掛けている。
特に「音楽実技Ⅰ」、「音楽実技Ⅱ」では、個人授業（レッスン）であることから、必要なマナー（挨拶のしかた、話し方）を含めた指導が可能であるため、丁寧に関わるようにしている。また、現場で必要とされている技術を身につけさせるため、個々のモチベーションが高まり、自発的に練習することができるような声かけ、指導を心掛けている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

学生による授業評価アンケート結果について、「音楽実技Ⅰ」や「音楽実技Ⅱ」では今まで同様、全体には個々のレベルに合わせた丁寧な指導に関する評価を含め、高かった。特にオンライン授業期間のレッスンに関しては、対面授業では控えている「歌唱」指導も行えたことで学生の満足度も高かったものの、ごく一部にインターネットの接続の不具合が生じた学生もいた。そういった際のフォローについて非常勤講師の方々と連携を取りながら、今後もオンラインレッスンを取り入れ、充実した授業を行いたいと考える。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取り組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD研修は毎回参加している。他の教員の授業を参観することで、特に講義系の授業においては、(各教員それぞれのやり方で)学生の理解度を確認しながら授業を進める様子等を学んでいる。学生からの授業評価アンケートの他、授業後に毎回提出させているリファレンスシートを確認し、可能な限り次の授業に反映させるよう心掛けている。

今後の教育に関する目標については次のとおりである。

I. 短期目標

1) 授業内容に関して、学生の様子に合わせて説明のしかたを工夫することで、学生がより理解しやすいようにする 2) Eラーニングなどのコンテンツを提供することで(模範演奏の曲数充実)、学生が自発的に学べるようにする

II. 長期目標

常に保育現場の現状にアンテナをはり、学生に細やかなアドバイスを送ることで、卒業後すぐに社会貢献できるような明るく前向きな保育学生を育てる。

■前期取組

《水曜・1限 R2331002 [音楽実技 I] 赤井 裕美》

昨年度の経験をふまえ、担当教員7名が意見交換をし、よりわかりやすくスムーズに進行できるように考え、zoomの機能も活用できたと思う。

■前期改善

《月曜・4限 31332004 [音楽表現(大野先生)] 大野 恵美》

前年度同様に履修学生人数の都合でML教室を使用できなかった。ピアノ初心者からの「先生の手元が見たかった」「指の動きが知りたかった」などの意見は、改善していく必要がある。

■後期取組

《水曜・1限 R2331002 [音楽実技 I] 赤井 裕美》

特にオンラインレッスンに関し、各教員の手元が映せる環境になっているか、学生側の音が聞こえにくい場合の対応などについて教員間で情報共有をし、指導に大きく差が出ないよう留意していた。その結果、ローテーションによる指導体制への学生の不満があがることはなく、概ね評価(学生の満足度)は高かった。

《月曜・3限 31A32005 [音楽表現(赤井先生)] 赤井 裕美》

本来はML教室の距離感が理想ではあるが、感染防止の為に721教室にキーボードを持ち込み、授業を展開していた。ホワイトボードの他に書画を使用していたが、細かい説明に関してはパワーポイントを活用してほしいとの意見があった。次年度は取り入れようと思

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	26350001	教育実習
前期	保育	2年	26350501	教育実習指導
通年	保育	1年	31332001	音楽表現
通年	保育	1年	31332002	音楽表現
通年	保育	1年	31332003	音楽表現
通年	保育	1年	31332004	音楽表現
通年	保育	1年	R2331001	音楽実技 I
通年	保育	1年	R2331002	音楽実技 I
通年	保育	1年	R2331003	音楽実技 I
通年	保育	2年	R2332501	音楽実技 II
通年	保育	2年	R2332502	音楽実技 II
後期	保育	2年	23323501	表現の指導

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

准教授

教員氏名

小笠原 大輔

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は保育学科の教員として、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に科目を担当し、その中でも主に「身体表現」「健康の指導」「保育実習・保育実習指導」に関する授業を担当している。「身体表現」では、子どものあそびを豊かに展開するための身体活動や身体表現に関する必要な知識や技術を体験を通して習得するし、特に授業で学んだあそび内容や実践上の留意点、展開や応用方法、考察、自分で調べたことなどをノートにまとめ、実習や現場で活用できるようにすることを目標としている。「健康の指導」では、自身の健康についての意識を高め、健康な生活を送ることができるようになること、子どもたちの健康を守るために保育者が果たす役割を理解し、保育者としての援助・配慮を行えるようになること、健康教材の作成・発表を行うことで、具体的な健康指導を実践する力をつけることを目標にしている。「保育実習・保育実習指導」では、保育所と保育士の役割を現場体験を通して理解し、保育士資格取得科目での学習内容を総合的に実践し、応用すること、保育実習（保育所）での学びを元に、さらに実践的な責任実習を立案・実践し、保育所と保育士の職務について理解を深め、保育士としての実践力を身に着けることを目標にしている。また、課外活動では福祉委員会、ダンスサークル、おどろあそびサークルの顧問として、想像力豊かに主体的に動くことを重視して指導している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の点を重視している。

1) 学生たちが受け身ではなく積極的に他者と関わり、かつその関わり自体に喜びを感じることができれば、社会人となっても短期的・長期的課題にも勇気と自信をもって仲間と立ち向かうことができるようになるであろうと考えられることから、コミュニケーション能力を高められるよう、グループワークの機会を増やすこと。

2) 多様性を認め合う社会に進み始めている今日において、人格形成の重要な時期である乳幼児期はその最たるものであるべきであり、将来そこに身を置く者として学生が、一人ひとりの違いを尊重し合える「開かれた空気」を大切にすること。

3) 価値観や環境などは時代と共に変化していくものであることから、今の学生・今の乳幼児とのずれが生じぬよう、研究と教育を繋げること。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上記の考えを実現するため、次のような工夫・方法を行っている。

- 1) 「身体表現」「体育実技／理論」「健康の指導」「おどろあそびサークル」では、仲間と共に工夫をし挑戦できるよう、一人では難しいが仲間とならばクリアできるであろう適切な難易度の課題を課している。
- 2) 「身体表現」「健康の指導」「おどろあそびサークル」では、一人ひとり考え方や感じ方が異なることを理解し、その気づきから新たな喜びが生まれるよう、想像し、創造し、発表する場を多く設けている。
- 3) 自身の研究の成果と教育現場が乖離せぬよう、「どう活かすか」を意識した研究を行い、可能な限り「いま・ここ」の冷めていない研究を遂行し、学生へのフィードバックを行っている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の学生によるアンケートでは、グループ発表に対する記述、実際の写真や動画を教材に用いている点などに対する記述が多く、主体的な学びや実践的な学びに繋がったと考えられる。またサークル活動では、全国大会への参加など短期大学ではなかなか経験できないことにも挑戦したことで、大きな自信に繋がっている。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

オンライン授業が今後も続くことが考えられるため、適切な資料の提供とその方法の整備およびフォローの充実を図る。

■前期取組

《水曜・1限 31330501 [身体表現(多胡先生)] 多胡 綾花》

オンデマンド・オンラインにおいて、実際に自分や幼児が動いている映像をふんだんに活用する。

■前期改善

《金曜・3限 23310001 [体育実技/理論] 小笠原 大輔》

毎回の振り返りをe-learningにて行ったが、提出を忘れる者が複数いた。e-learning入力の時間を授業内に設けることも検討

■後期取組

《月曜・2限 23321503 [健康の指導] 小笠原 大輔》

幼児の運動について、具体的な例を視聴覚教材を用いて説明した。

《水曜・1限 31A30504 [身体表現(小笠原先生)] 小笠原 大輔》

対面/オンライン・オンデマンド の変更や、天候などにより、シラバス通りにならなかった。ポータル配信はしているが、学生によっては、ポータルなのかe-learningなのか混乱するものがあるため、提示方法の改良が必要と思われる。検討中。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年 通年	保育	1年	23310001	体育実技／理論
	保育	1年	23310002	体育実技／理論
	保育	1年	23310003	体育実技／理論
	保育	1年	23310004	体育実技／理論
	保育	2年	23321501	健康の指導
	保育	2年	23321502	健康の指導
	保育	2年	23321503	健康の指導
	保育	2年	23321504	健康の指導
	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
	保育	1年	31330501	身体表現
	保育	1年	31330502	身体表現
	保育	1年	31330503	身体表現
	後期	保育	1年	23351001
後期	保育	2年	23352501	保育実習Ⅱ

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

准教授

教員氏名

亀井 美弥子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、主に子どもの発達や学習への理解や子どもの援助、またそれを支える保護者に対する援助に関する授業および保育実習についての指導に関する授業を担当している。2021年度の担当科目は別記※のとおりである。

子どもの発達や学習の理解およびその家族を含めた援助は、保育者の学びの根幹をなす部分である。

1年生科目の「子どもの理解と援助」の授業では、学生が子どもの発達の道筋の基礎を理解し、その発達の根拠に基づいて学生が具体的に子ども達を援助できることを目標としている。

同じく1年生科目の「環境の指導」の授業では、子どもの保育環境の大切さや科学的知識の獲得に向けた関わり方についての基礎知識や事例、また実践的体験（演習）を提供することで、乳幼児からの環境構成の重要性の理解とそれを自分自身で運用する力の養成を目標としている。

2年生の科目である「幼児の理解と相談」の授業では、学生が幼児の姿について理解したうえで、その問題の個人的・社会的背景について意識し、より広い視野のなかで幼児の発達や支援について学ぶことを目標としている。

同様に2年生の科目である「ゼミナール」では自分自身で問題を発見し、その問題の整理や理解に役立つスキルを紹介し一緒にその運用を行うことで、学生が将来自分自身の力で現場における問題に取り組む力をつけられることを目指している。

「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」では保育士および保育実習生としての心構え、また実際的な準備についてできる限り具体的に指導を行うことで、学生がスムーズに実習に参加できることを目指している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、保育に関する基本的な知識やスキルと共により広い視野と思考する力を持った保育者を養成することであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は本学の教育活動において次の3点を重視している。

1) 先達の研究知見に基づき、基本的な知識を正しく理解できるよう丁寧に伝えること。

学科の特色として誤った知識や知識、理解不足によって子どもや保護者に対する不利益を生じさせかねないと考えていることから、まずは基本的な乳幼児やその家族の支援について正しく理解する重要と考える。理解や知識の習得は簡単なことではないので、何度も根気強く丁寧に伝えることが必要と考えている。

2) 円滑に社会生活を行うためのコミュニケーション能力を身につけるための指導を行うこと。

基本的な知識を身につけている学生でも、特に自分とは異なる属性(教員、職員、実習先の指導者)とのコミュニケーションの仕方を経験不足からか、学べていない学生が見受けられることから、社会に出る前にその点を指摘し、学ぶことが重要であると考えている。

3) 自分自身の考え方を他者に伝え、共有することでお互いに考え方や知識の幅を広げることの大切さを伝えること。

対人ケアの現場では科学的な知識のみで問題解決することが難しい場面が多いはずである。その時に他者と意見を交換し、どのような対応が当事者にとって重要なのか多数の視点から議論を行うことや、忙しい職場の中でお互いに学びあうことが重要と考えている。そのため、学生のうちからこのような態度を身につけることの重要性を強調し、授業でもできる限りそのような機会を設けていきたいと考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

1) 「子どもの理解と援助」「幼児の理解と相談」では、まず基礎的な知識の理解と習得ができることを目指している。そのためにスライドを使いポイントを示しつつ、小テスト等を取り入れ、知識が自分の身になるように何度も同じことを復習できるようにしている。また、より具体的な理解、知識とイメージをつなぐために動画などの視聴覚教材を用いている。また、できる限り個々のリアクションペーパーの内容を紹介したり、保育場面の書き取りを通して、多様な見方や考え方を学生にとどけることで知見の幅が広がるようにしている。

2) 「環境の指導」では基礎的な知識と共に自分で実践してみることで子どもたち側の視点の理解や保育士としての知識の増大を目指している。そのために、実際に近隣の公園に行ってその体験をまとめたり、植物を育て、観察する体験などを取り入れている。そのうえで、グループごとに決められた学びのテーマに沿って保育が活動を考え、模擬保育を行っている。そのあとで保育者役、子ども役、観察者それぞれの立場から意見交換を行い、保育者の視点からのコミュニケーションを学べるようにしている。

3) 「保育実習Ⅰ、Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ、Ⅱ」では、保育者、保育学生としてのふるまい方を学び、理解することを目指している。例えば、自身が担当する「保育ボランティア」は実習指導のなかで、実習の内容（子どもと関わるだけでなく、環境整備や日誌を書くなど）の導入にあたる。このような実践を授業の中でも推進し、スムーズな実習体験へとつなげている。

4) 「ゼミナール」では、自分自身の興味やそのまとめを他者にわかるように表現すること、また、社会的視野を広げることが目標としている。そもために日頃の授業では自分の興味をまとめ、その探求を他者に対して表現し、受け取った側がまたフィードバックするという過程を重視している。また、1回はフィールド（過去では自然保護団体のガイドのもと自然観察会）に出て、自分自身とは異なる世代や問題意識について学び、広い視野を獲得できるような活動を行うことを目指している。*今年度はコロナで中止。過去2回実施。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の授業科目については授業の評価については、ほぼ平均的な数値であった。学生のコメントを見ると、パワーポイントの作成や動画の提供について、好意的なコメントがある一方で、学生がどこを話しているのか見失うという意見もあった。それについては、今後意識して分かりやすい提示を心がける。また、グループワークについては学生にとって満足度の高い者になっていることが伺われる。学習意欲のある学生にとってよい学習環境が提供できたと思うが、2年生ではやや高度な内容を扱う科目もあり、関心の低い学生に対してどのようにモチベーションを持たせていくかが課題と考えている。

マイスターとしての学生指導では特に2年生に対しては就職支援や経済的な支援などに力を入れたことが成果として挙げられる。今後も学生に対して細目に声をかけ、指導を行っていくことが学生の安心感につながるということが分かった。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

相互受業参観や授業アンケートからおおむねスライドや動画の使用、また授業解説については十分行っていると考えられるが、丁寧な解説とともにより簡潔にポイントを示す必要があることもわかった。そのために、今後は授業内容をかみ砕いて解説するだけでなく、簡潔なスライドづくりやその内容のポイントを抽出して提示することについても意識して授業運営を行う。

I. 短期目標

1) 「環境の指導」の授業内容についての再考

前任者のカリキュラムに若干変化をつけて行った。おおむねよい方向に修正ができたが、今後も実践的な内容に変更するために研究や情報収集を行いながら修正をしていく。

2) 乳幼児の発達や子ども支援について、より深く興味を引き付けるトピックや講義の再考

学力や意欲が低い学生に対してして、主体的な学びに導く素材が必要である。他の教員とも情報交換を行いつつ、工夫をしていきたい。

II. 長期目標

広い社会的視野を獲得するための態度を身につけた保育士・幼稚園教諭の養成まず最低限の知識や態度を身につけて資格を取ることが第一ではあるが、保育士・幼稚園教諭の社会的地位の向上を考えても、より学ぶ姿勢を持ち広い視野を身につけていくための態度の育成が必要である。

相互受業参観では学生が取り組む課題が授業内にある程度あるほうが、学生にとって主体的な学びの時間になることを改めた学んだ。そのように授業内容をソフトさせてはいるが、今後より学生主体の授業にしていくことが必要であることがわかった。

■前期取組

《火曜・1限 31328002 [幼児の理解と相談] 亀井 美弥子》

少し長めの映像を取り入れているが、それがどのように現代の保育と関連しているかについて強調した。

■前期改善

《水曜・3限 31328001 [幼児の理解と相談] 亀井 美弥子》

他の教員と話して前列4列を空白にしたが、つい学生に近づいてしまっていたので、よりソーシャルディスタンスを意識するように心掛けたい。

■後期取組

《木曜・1限 23322001 [環境の指導] 亀井 美弥子》

今年度より模擬授業を取り入れることで学生が主体的に保育内容を構成したり、それに意見を出し合うなどの機会が持てた/授業で伝えたいことが多岐にわたり、クラスによってはそれをうまく伝えられなかった可能性があるため、目的を意識した授業を行う(クラスごとに評価の点がやや開いているので)

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

<https://drive.google.com/open?id=15YFuTgxlhOODn1Sxa6i11x3iS0UrCbhd..>
<https://drive.google.com/open?id=1iWUqO2irz1voetpEyMPpZt9fhW7iY5bt..>
https://drive.google.com/open?id=1cnDpaHXZWkMDs5nOrR79rbbRhAe3r_mw

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	2年	31328001	幼児の理解と相談
前期	保育	2年	31328002	幼児の理解と相談
通年	保育	1年	23322001	環境の指導
通年	保育	1年	23322002	環境の指導
通年	保育	1年	23322003	環境の指導
通年	保育	1年	23322004	環境の指導
通年	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2年	23360004	ゼミナール
後期	保育	2年	23324501	地域子育て支援論
後期	保育	1年	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	2年	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	1年	31318001	子どもの理解と援助
後期	保育	1年	31318002	子どもの理解と援助
後期	保育	1年	31318003	子どもの理解と援助

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

准教授

教員氏名

高橋 雅人

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、主に福祉系の科目を受け持っている。
2021年度の担当科目、および教育の責任は以下の通りである。
「社会福祉」では、保育者が社会福祉をなぜ学ぶのかという理由を理解することからはじめる。授業を通じ、私たちの生活の中で福祉が今後どのように発展していくべきなのか、保育者になるにあたり一人ひとりが興味関心を抱くことができるようになることを目指している。
「子ども家庭福祉」では、子どもや家庭、地域を支援する保育者として必要な子ども家庭福祉の制度や実施体系の知識を習得し、子ども家庭福祉が今後どのように発展していくべきなのか、一人ひとりが興味関心を抱くことができるようになることを目指している。
「社会的養護Ⅰ」では、社会的養護に関する基本的な知識を習得するとともに、児童福祉施設で勤務するために必要な人間性、職業倫理を身につけることを目指している。また、施設保育士が子どもを支援するうえで必要な「施設養護の支援内容」の理解をとくに重要視している。
「社会的養護Ⅱ」では、施設保育士が行う支援内容、求められる職業倫理や資質を身につけることを目的とする。とくに、虐待を受けた子どもの支援については、演習を通じて具体的ななかかわり方を習得することを目指している。
「子ども家庭支援論」では、子育て家庭に対して行う保育士の相談技術、活用する社会資源の習得、保育士の役割について理解することを目的としている。実際に子育て家庭に起きているさまざまな問題は、事例をもとに解決方法を習得できるようにし、実践力となることを目指している。
「保育実習指導Ⅲ」では、2度目の施設での実習がより実践的になるよう、児童福祉施設で勤務する施設保育士の専門性と職業倫理の習得を視野に入れた事前事後指導を行うことを目指している。
「ゼミナール」では、研究テーマの最終発表にそなえ、仲間と協力して調査すること、語彙力を増やし口頭発表などで発信力を高めることを目的としている。
私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、保育現場で即戦力となる人材を養成することである。

2. 教育の理念 （どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重要視している。

- 1) 保育現場で即戦力となる専門性の習得。
- 2) 事例を活用し、実社会を意識した理論と実践の提供。
- 3) 双方向授業を用いてコミュニケーションスキルの育成。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、担当する授業において次のような工夫を行った。

1) 保育現場で即戦力となる専門性の習得。

保育現場で即戦力となる人物は自己研鑽をしている（現場経験を振り返ると、自ら学ぼうとする意欲にあふれている若手職員は即戦力となっていた）。専門性を高めようと努力する人材を養成するための契機として、授業内容に関連した新聞記事を毎授業後に提供した。新聞記事はE-ラーニングに載せた。

2) 事例を活用し、実社会を意識した理論と実践の提供。

実際に現場を想定した事例研究を授業で用いた。これらは、自身の実務経験を基礎にしている。コロナ禍で演習に制限があるため、一人で考えることができる事例を多用した。

3) 双方向授業を用いてコミュニケーションスキルの育成。

コミュニケーションスキルを高める方法として、フィードバックペーパーを活用した。フィードバックペーパーの返信は義務としている。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

■前期改善

《月曜・3限 31313502 [子ども家庭福祉] 高橋 雅人》

予習・復習に割り当てられた時間が4時間あることを授業第1回目より周知した。しかし、「教科書を読むこと、新聞に目を通すこと」という漠然とした指示だけでは自主的な取り組みにはならなかった。そのため、第7回目の授業より、各回のシラバス（その日の授業内容）に関連した新聞記事を2部ないし3部PDFにしe-learningに掲載した。その結果、授業後に提出するフィードバックペーパーや確認のために集めたノートにも新聞を読んだ感想や疑問が記入されているなど、復習を行う学生が増えてきた。しかし、授業評価アンケートの「予習・復習」の数値は平均以下であった。保育現場に必要な即戦力となるためには自己研鑽が重要である。自主的な学習習慣確立のため、学生が興味を持てる内容の新聞や書籍の提示を続けていきたい（1, 2年生の講義系科目すべてにおいて）。

■後期取組

《木曜・2限 31314501 [社会的養護Ⅰ] 高橋 雅人》

設問9の授業の満足度が平均値より上回ったのは、学生が興味を抱いている現場のエピソードを多用したことにある。また、授業のポイントをフィードバックペーパーとして記入してもらっているが、毎回返信を義務付けていることが高評価につながったと考えている（e-ラーニング上に設定）。講義の専門科目は一方的な授業になりやすいため、双方向の授業を心がけるためにもフィードバックペーパーの返信はこれからも続けていきたい。

《月曜・2限 31320002 [子ども家庭支援論] 高橋 雅人》

保育現場にて即戦力となる人材を養成することを念頭に授業を進めている。自身の経験から、即戦力となる若手は「自己研鑽」できる人材であると考えている。学生時より新聞や書籍に目を通す習慣を付けることが、自己研鑽につながる一つの方法であると考えている。そのため、毎授業後に復習として新聞記事を2部ないし3部PDFにし、e-ラーニングに掲載している。しかし「授業評価アンケート」の数値は平均を下回り、「1時間半以上の予習・復習」を行ったのは10%を切っていた（クラスによっては24%に達しているが）。やはり、資料を提示しただけでは効果はあらわれないことがわかった。次年度は、新聞記事だけでなく書籍や公的機関発行の広報誌などを併用し、学習習慣の確立につなげていきたい。また、提示した資料は授業内で考察できる内容を選択し、予習復習と授業を連動

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	1年	23312501	社会福祉
前期	保育	1年	23312502	社会福祉
前期	保育	2年	23354001	保育実習指導Ⅲ
前期	保育	1年	31313501	子ども家庭福祉
前期	保育	1年	31313502	子ども家庭福祉
前期	保育	2年	31325503	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2年	31325504	社会的養護Ⅱ
通年	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2年	23360006	ゼミナール
後期	保育	1年	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
後期	保育	2年	23353501	保育実習Ⅲ
後期	保育	1年	31314501	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1年	31314502	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1年	31314503	社会的養護Ⅰ
後期	保育	2年	31320001	子ども家庭支援論
後期	保育	2年	31320002	子ども家庭支援論

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

講師

教員氏名

大川 なつか

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に幼児教育に関する授業を担当している。2021年度の担当科目は、別記※のとおりである。

「教育原理」では、教育に関する基礎的知識を教授することによって、将来保育者を目指す保育学科の学生が、幼い子どもへの教育のあり方を自ら考えられるよう指導している。

「教育方法論」では、実際的な保育場面を例示しながら保育方法のポイントを伝えることで、幼い子どもに対するふさわしい関わり方ができることを目標としている。

「教職概論」では、教職、特に幼稚園教諭の特徴を取り上げることによって、保育学科の学生が、自らの進路を適切に選択できるように指導している。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1) 知識が着実に身に付くように、丁寧に指導すること。
保育職に関する専門知識の修得は欠かせないことから、繰り返し丁寧に指導することを重視している。
- 2) 学生自らが考えられるように、開かれた質問すること。
身に付けた知識を基に、学生が自分事として考えられるような質問を心がけている。
- 3) 互いの意見を尊重し、学びが深まること。
環境づくり
学生がそれぞれの立場で導き出した考えを共有し、互いに認め合えるような環境づくりを大切にしている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1) 「教育原理」では、専門知識が確実に定着するよう振り返りをするとともに、小テストも複数回行っているが、小テストの問題は事前に学生自身に当ててもらおうようにしている。

2) 「教育方法論」では、具体的な保育場面において、どのように子どもに関わったら良いか考え、理由と共に意見を発表してもらおうようにしている。

3) 発表後は、他の学生から自分では気が付かなかった点、新たに学んだ点などを更に発表してもらおうなど工夫している。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

本年度の学生による授業評価アンケート結果では、授業内容が不正確である、あるいは古いとの評価はなかった。これは、授業内容を、文部科学省や厚生労働省からの資料を基に作り直し、最新の新聞記事やニュースなど頻繁に紹介したためと考える。また最新の研究動向もかみ砕きながら授業に反映させるよう努めている。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

■前期取組

《金曜・4限 23315001 [教育原理] 大川 なつか》

具体的な遊具や映像などを取り入れながら、分かりやすく丁寧に解説したため、ほとんどの学生から楽しく理解できた、との評価を得た。

■前期改善

《火曜・2限 23327501 [教育方法論] 大川 なつか》

50パーセントの学生が全く予習、復習をしなかった、と回答していたため、今後は授業外学修の時間を増やせるよう課題の在り方を工夫したい。

■後期取組

《火曜・3限 31316001 [教職概論] 大川 なつか》

授業外での学修時間の確保が課題だった。そのため、今年度は小テストを実施したり、課題を複数回出した。その結果、授業外学修時間が増加し、小テストについては理解の定着につながった、授業が理解しやすくなったと好評だった。

《木曜・3限 31361002 [教育の制度と経営] 大川 なつか》

教室が寒すぎて集中できないとの指摘があった。341教室を後期に使用する場合、出入口に近い座席の学生は寒すぎるので、空いている座席への移動を促したり、扉の開閉に気を付けたつもりだったが、改善されなかったことが分かった。今後、学生の声を一層反映させながら、授業に集中できる環境を整えたい。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	1年	23315001	教育原理
前期	保育	1年	23315002	教育原理
前期	保育	1年	23315003	教育原理
前期	保育	2年	23327501	教育方法論
前期	保育	2年	23327502	教育方法論
前期	保育	2年	23353001	保育実習指導Ⅱ
前期	保育	1年	30312101	現代の人間関係分析
通年	保育	1年	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	2年	23360005	ゼミナール
後期	保育	2年	23340004	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	1年	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
後期	保育	2年	23352501	保育実習Ⅱ
後期	保育	2年	31316001	教職概論
後期	保育	2年	31316002	教職概論
後期	保育	2年	31361001	教育の制度と経営
後期	保育	2年	31361002	教育の制度と経営

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

講師

教員氏名

小野 修平

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に関わる演習科目を担当し、その中でも「造形表現」、「造形表現Ⅱ」、「表現の指導（造形）」の科目を中心に教育している。2021年度の担当科目は、別記の通りである。また、課外活動では、湘北祭実行委員会制作部門顧問、絵本サークル顧問を務めている。課外活動の指導においては、学生が協力してイメージを形にできる製作活動に取り組めるように、助言や共同作業を行っている。私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が主体的で創造性のある学びを深めることが出来るように、表現やものづくりの分野から、幅広い視点で教授することであると考えている。

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているか)

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

1) 表現力の育成

創造性のある保育を行うためには、表現力が必要不可欠である。多様な表現領域の中でも、モノに関わり、目に見える形で表現する“造形的な表現力”の育成を重視している。

2) 実践力の育成

保育者として重要な実践力は、多くの経験の積み重ねにより養われる。各授業の中で行われる発表・模擬保育・現場体験を通して、実践力を育成することを重視している。

3) コミュニケーション力の育成

社会で生きる一人の人間として、豊富なコミュニケーション能力は、他者との繋がりが相互理解に欠かせない。授業内での少人数指導やマイスター制を通して、学生と学生、学生と教員とが、適切に関わることで、コミュニケーション力を育成することを重視している。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような内容を実践している。

「造形表現」では、子どもの造形活動に関する基礎知識を、材料の特徴・道具の使い方・技法的側面から指導している。その中で学生は、材料の特性と表現効果・用具や道具類の扱いや、準備・後片付け・安全の確保のための援助方法を学ぶ。授業で制作した実際の作品と、制作工程などを記載したワークシートは、1冊のスケッチブックにまとめることで自分自身のポートフォリオとして完成させ、将来の現場で役立つ資料として活用できるようにすることを目指している。

「表現の指導（造形）」では、領域「表現」における造形的な表現活動の内容、指導方法、展開の仕方、作品制作について指導している。その中で学生は、保育現場での実践を想定した題材提示・制作指導と実技実践を模擬的に行う。また、将来保育現場で活用することを想定したグループによる作品制作、発表活動を行う。これらに対する教員からのフィードバックを繰り返すことで、保育へ活かす表現力と実践力を身に着けることを目指している。

「造形表現Ⅱ」では、表現領域における造形的な側面から、保育者としての知識や援助技術を深めていく。その中で学生は、「共同制作」（模擬造形展）による発表活動、「他領域との関わり」を考察した作品制作、保育環境を豊かにする作品制作を行う。2年間で習得した造形的な技術や表現力を発展させた活用・実践を行うことで、子どもとの造形活動を通じた関わり方や援助の方法について多角的に考察していくことを目指している。

こうした教育活動における教示の方法として、PPTを用いたスライド（活動のねらい・方法・計画・まとめ等）の投影、書画カメラを用いた実技見本の提示、自身の研究や現場実践例の活用、個別のフィードバックや全体講評会等を中心に行っている。また、上記全ての科目において、グループワーク、発表活動、ディスカッション等を活用したアクティブラーニングを取り入れており、学生が主体的で創造性のある学びを深めることが出来るように指導している。

4. 教育の成果 （その方法を行った結果、どうだったか）

2021年度の授業評価アンケートにおいては、ほぼすべての科目において、「総合的にみてこの授業に満足しましたか」の項目が100%の肯定的評価（「とても満足」「満足」）を得ており、学生の満足度も高く、積極的に受講することができたようであった。（1科目1クラスのみ96.6%となっている）学生のフィードバックからは、将来に役立つ知識や技術、作品作りを学ぶことが出来るということに関する内容があり、中でも多用な表現手法の習得に関する肯定的な意見がみられた。また、「実習で活用できる内容」という観点からの肯定的なコメントも複数見られた。こうした授業内容が左記の評価に繋がったと考える。また、本年度も引き続き教育に不可欠であったオンライン授業では、ZOOMを活用した演習や、グループワーク等を行った。結果、昨年同様に自作PPTに対する肯定的なフィードバックも多数寄せられたことや、教室の空間を活用した制作進行も「みやすい・わかりやすい」という評価が多かった。一方で、家庭内で絵具などの造形素材を利用した演習は、個々の環境の設定が難しく、汚れ等が気になる点、複数のネガティブなコメントも寄せられた。今後もコロナ禍は継続することが予測されるため、オンライン授業時の教材選定から、これらの改善に努めていきたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

■前期取組

《水曜・3限 31329502 [造形表現] 小野 修平》

本授業の「良い評価に繋がった点」として、学生が積極的に取り組むことが出来る授業内容という事が挙げられる。授業アンケートにおいて、本授業に「とても積極的に取り組んだ」が84%を超えるなど、高い評価を受けている。これは、授業内で制作するポートフォリオが、学生自身にとって、将来役に立つ、自身のためになる、自身の学びの成果の証拠として残すことが出来る等、それぞれのニーズと一致しているからであると考え。

■前期改善

《金曜・1限 23326504 [表現の指導(造形)] 小野 修平》

本授業における「改善すべき点」として、予習復習への取り組みが挙げられる。この点においては、学生にシラバス上で指示をしたり、授業中に働きかけるのみでなく、実際の形に残る予習復習課題として、学生に配布する等、自身で取り組んだ実感できるような案を挙げていきたい。

■後期取組

《水曜・3限 31329502 [造形表現] 小野 修平》

今年度の授業内容の中でも、「オリジナル教材の制作とプレゼンテーション」に対する肯定的な意見が複数見られた。学生自身で考えることを中心とした課題であり、全5回の中で試作-仮提出-フィードバック-完成-プレゼンテーションといった流れで実施している。ものづくりの自由度や、課題の克服方法、素材の多様性等を、制作過程から各自のペースで考察できる内容である。こうした授業展開が、達成感や充実感として現れ、本結果に繋がったと考える。

《水曜・3限 31329502 [造形表現] 小野 修平》

本授業全体に言えることだが、今年度のオンライン授業実施期間にあたっては、絵の具などの描画材を使用する回が当たった。学生の実施環境はそれぞれであり、室内や家庭内の汚れや環境整備を課題に挙げる意見が複数見られた。汚れの発生する制作活動にあたっては、オンライン授業の実施に際して、計画を変更することもやむを得ないとする。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	23326501	表現の指導(造形)
前期	保育	2年	23326502	表現の指導(造形)
前期	保育	2年	23326503	表現の指導(造形)
前期	保育	2年	23326504	表現の指導(造形)
前期	保育	2年	26350001	教育実習
前期	保育	2年	26350501	教育実習指導
通年	保育	1年	31329501	造形表現
通年	保育	1年	31329502	造形表現
通年	保育	1年	31329503	造形表現
後期	保育	2年	23323501	表現の指導
後期	保育	2年	R2330001	造形表現Ⅱ
後期	保育	2年	R2330002	造形表現Ⅱ

年度

2021

～

2022

所属学科

保育学科

職名

講師

教員氏名

田中 あかり

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に関わる科目を担当している。中でも保育の内容や方法に関わる「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」「保育内容総論」「保育・教育課程論」、及び保育の本質や目的に関わる「保育者論」を担当している。また、幼稚園教諭の経験及び幼稚園での実践研究の経験を活かし、「教育実習指導」を3名の専任教員と共に行っている。

2. 教育の理念 （どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。1) 生きる主体として子どもの姿を捉え、自ら考え問題を解決しようとする力の育成、2) 子どもの発達に関する専門的知識、及び具体的な技術の習得とその根拠の理解。3) 保育者の専門性の理解と目指す保育者像の探求。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、「乳児保育Ⅰ」では次のような授業を行っている。実際の乳児の姿を映像資料で伝え、具体的な出来事を提示することで、乳児期の子どもについての知識を体験的に習得し、具体的な関わり方について考える。保育所や幼稚園の教諭が書いたエッセイの紹介等を通して、これから出会う子どもたちを想像し、その気持ちの読み取りや援助の方法について当事者意識を持って考える。「乳児保育Ⅱ」では、適切な援助を行う為には、子どもの発達についての理解が必要であることを重視し、食事、衣類の着脱、排泄の援助などについて、子どもの発達の様子を丁寧に講義した上で、調乳演習、沐浴演習、おむつ替え演習といった具体的な技術を教授している。特におむつ替えに関しては計3回分の授業を割り当て、繰り返し練習する時間を確保している。さらに、演習を通して身につけた具体的なオムツ替えの方法を用紙にまとめる作業を通して、知識の定着を図っている。「保育者論」では、2年間の学びの集大成として、これまで学んできた保育者の専門性を整理し意識できるような授業を展開している。この時、単なる専門性について言葉だけの羅列とならないよう、保育現場の実際の映像を用いて授業を行い、自分の考えを発表する機会を多くし、学生が共に学びを深めていくことができる授業を目指している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

【2021年度前期授業評価アンケート】及び【2021年度後期授業評価アンケート】においては、担当する全ての科目で総合的な満足度が3.7を超えた。この結果については、昨年度以上に授業では必ずパワーポイントを使用し、見やすさと分かりやすさに力を入れたことが大きいと考える。学生の自由記述欄にもパワーポイントについての好評価が見られた。また、2年次後期「保育者論」について、昨年度は総合的な満足度がaクラス3.48、bクラス3.61だったが、今年度はaクラス3.71、bクラス3.73と上がった。これについては、昨年度と同様の映像資料を用いたものの、昨年度とは異なり、学びのテーマを明確にし、「見る視点」を設けたことが大きかったと考える。昨年度は感想を書くだけだったが、今年度は視聴前に「見る視点」を書いたプリントを配布し、その回の視点について私から話をし、それから視聴するようにした。視聴後は各自記入し、最終的にはまとめの回も設けて学びを整理し意識できるように工夫した。「保育者論」は卒業前の2年次後期の授業であることから、保育についてより深めることができるよう、来年度も教員自身が自らの研究で深めていることを活かし、より分かりやすく、レベルの高い授業を実施できるように工夫していきたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

相互授業参観週間や複数名の教員で行っている授業では、他教員の授業の良い点から学ぶように心がけている。他教員からは話し方や資料の使い方だけではなく、大事にしていることや学生とどのように向き合っているのか、教員としての在り方を学ぶように心がけている。授業評価アンケートについては自由記述欄も全て読むようにし、改善点については別用紙に書きだし、次年度の授業に活かすようにしている。また、授業の前後に直接学生に授業に対する感想を聞いたり、定期的に授業内でも感想用紙を配布回収したり、学生の意見を聞くことを大切にしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 1コマあたりの授業内容を精査し、大切なことを丁寧に伝えることができるようにする
- 2) 授業「乳児保育Ⅱ」においては演習の中で1人の学生が実際に行うことのできる回数や時間を増やす
- 3) 評価の方法をより明確にし学生に伝えていくことで個々の努力が反映されるように、そしてより見える形にしていく

II. 長期目標

- 1) 授業の中で効果的にデジタルやIT機器を活用し、より魅力的な授業を創造する
- 2) 自らの研究内容と結果を授業で活かし、また学生との授業を自身の研究に活かしていくことができるようにする

■前期取組

《火曜・3限 31362002 [乳児保育Ⅰ] 田中 あかり》

分かりやすく見やすいパワーポイントの作成に力を入れました。準備に時間をかけた分パワーポイントへの評価が高かったように思います。学習への意欲向上、そして理解に繋がったと思います。今後も引き続き努力したいと思います。

■前期改善

《火曜・3限 31362002 [乳児保育Ⅰ] 田中 あかり》

マスクをしていることもあり、聞こえにくいことがあったという感想がありました。大きな声ではっきりとゆっくりと話すように気をつけたいと思います。

■後期取組

《木曜・1限 31362501 [乳児保育Ⅱ] 田中 あかり》

短い時間であっても必ずパワーポイントを用意し、視覚的に言葉や写真で提示しながら説明を行いました。パワーポイントが用意されていて分かりやすいという評価に繋がったと考えられました。また、少人数に分けて演習を行ったことで言葉が一人一人に届きやすく丁寧に指導してもらえたという評価に繋がったと思います。

《金曜・2限 23316201 [保育者論] 田中 あかり》

授業内容については満足度が高いものの、時間配分についての指摘が自習記述欄で2名程いました。学生からの指摘の通り、毎回チャイムが鳴り終わるまでに授業は終了していましたが、直前まで授業を行っていた回が数回ありました。現在は消毒にも時間がかかりますので余裕を持って授業を終了することのできるよう、いずれの担当授業においても来年度はよく注意して行いたいと思います。

《水曜・2限 23360007 [ゼミナール] 田中 あかり》

研究を進める上でPCのスキルの有り無しが影響し、辛かったというコメントがありました。ゼミナールの中でWordのレイアウトについて、あるいはパワーポイントの作成方法、そしてエクセルを用いた図表の作成などについて扱うことができず、個人の能力に任せてしまったところがありました。来年度は苦手な学生も習得できるよう、前期の間から小さな実践を繰り返し、サポートしていきたいと思います。

6. エビデンス（一覧）

- (1) 担当授業科目一覧
- (2) シラバス
- (3) 学生による授業評価アンケート
- (4) 授業参観コメントシート
- (5) 授業改善計画書
- (6) 教材・配布資料[下記(9)]
- (7)
- (8) 上記以外

上記以外のエビデンス

関連リンク・別途資料

特記事項

7. 担当授業一覧

前期	保育	2年	26350001	教育実習
前期	保育	2年	26350501	教育実習指導
前期	保育	1年	31362001	乳児保育 I
前期	保育	1年	31362002	乳児保育 I
通年	保育	2年	23360007	ゼミナール
通年	保育	1年	31321001	保育内容総論
通年	保育	1年	31321002	保育内容総論
通年	保育	1年	31321003	保育内容総論
通年	保育	1年	31362501	乳児保育 II
通年	保育	1年	31362502	乳児保育 II
通年	保育	1年	31362503	乳児保育 II
通年	保育	1年	31362504	乳児保育 II
後期	保育	2年	23316201	保育者論
後期	保育	2年	23316202	保育者論
後期	保育	1年	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1年	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1年	31315503	保育・教育課程論